

広島市子ども・子育て支援に関する
ニーズ調査

調査報告書

平成31年3月
広島市こども未来局

目 次

■ 調査の概要	1
就学前児童:回答者の属性	2
就学児童:回答者の属性	4
■ 調査結果の概要	6
I. 子どもの育ちをめぐる環境、保護者の就労状況等について	6
1. 家庭での子育ての状況	6
1) 子育て(教育を含む)に日常的に関わっている人・施設、影響する環境	6
2) 子育て(教育を含む)について相談できる人・場所	7
3) ワーク・ライフ・バランス	8
4) 日頃子どもをみてもらえる環境	9
5) 子どもをみてもらうことへの意識	10
2. 保護者の就労状況	12
1) 父親の就労状況	12
2) 母親の就労状況	14
3) パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望	16
3. 就労していない母親の就労希望	17
1) 就労希望状況	17
2) 就労希望形態	18
4. 育児休業制度（対象:就学前児童）	19
1) 育児休業の取得状況	19
2) 育児休業を取得していない理由	20
3) 育児休業取得後の職場復帰	21
4) 育児休業取得後の職場復帰の時期	21
5) 短時間勤務制度の利用状況	24
II. 定期的な教育・保育事業について（対象:就学前児童）	25
1. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	25
1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	25
2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用時間、場所	26
3) 平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由	27
4) 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由	28
2. 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望	29
3. 土日祝、長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望	31
1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望	31
2) 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望	32
3) 幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望	33
III. 放課後の過ごし方、病児・病後児保育、一時預かり等について	34
1. 現在の放課後の時間を過ごしている場所（対象:就学児童）	34
2. 放課後の時間を過ごさせたい場所（対象:就学児童）	36
3. 放課後児童クラブの利用状況（対象:就学児童）	38
1) 放課後児童クラブの満足度	38
2) 放課後児童クラブを利用していない理由	39
3) 放課後児童クラブの今後の利用希望	40
4. 低学年の間の放課後の過ごし方についての希望（対象:就学前児童5歳以上）	41
1) 低学年の間の放課後を過ごさせたい場所	41
2) 放課後児童クラブの利用希望	42
5. 高学年の間の放課後の過ごし方についての希望（対象:就学前児童5歳以上）	43
1) 高学年の間の放課後を過ごさせたい場所	43
2) 放課後児童クラブの利用希望	44
6. 土日祝、長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望	45

7. 病児・病後児保育（対象：就学前児童（平日の教育・保育事業利用者）、就学児童全員）	47
1) 子どもの病気・ケガの時の対処	47
2) 病児・病後児保育についての希望	48
3) 子どもが病気の際に親が仕事を休んでみたい希望とその困難度	49
8. 一時預かり等	50
1) 私用等で一時的に子どもを預けた経験	50
2) 一時預かり等を利用していない理由	51
3) 一時預かり等の利用希望	51
4) 子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験	53
IV. 子どもの遊び環境、地域子育て支援拠点事業、子育てに関する悩みや不安感等について	54
1. 子どもの遊び環境	54
1) 子どもの日常的な遊び場	54
2) 子どもの遊び環境への満足度	55
3) 子どもの遊び場への要望	57
2. 地域子育て支援拠点事業（対象：就学前児童）	58
1) 常設オープンスペースの利用状況	58
2) 常設オープンスペースを利用していない理由	58
3) 常設オープンスペースの利用希望	59
4) 3歳未満の子どもを対象とした交流の場の利用	60
3. 子育て支援サービスの認知度・利用度・今後の利用希望	61
1) 就学前児童	61
2) 就学児童	62
4. 子育てに関する悩みや不安感	63
1) 子育ての楽しさと負担	63
2) 子育てにかかわってからの経験	64
3) 子育ての精神的負担を減らすために必要な支援	65
4) 子育てしやすい社会づくりに向けた行政への期待	66
5) 地域における子育ての環境や支援への満足度	68
V. 子育て支援に関する意見	69

調査の概要

- (1) 調査目的：子育て家庭の実態や子育て支援に関するニーズ等を把握し、
「広島市子ども・子育て支援事業計画」策定のための基礎資料とする。
- (2) 調査実施方法：郵送配布回収、無記名自記式
- (3) 調査時期：平成30年11月～12月
- (4) 調査地域：広島市全域
- (5) 調査対象者：広島市内に居住する就学前児童(0～5歳)及び就学児童(6～11歳)のいる世帯
- (6) 抽出方法：住民基本台帳より、居住区及び平成30年4月1日現在の満年齢別に区分し無作為抽出
- (7) 送付数：就学前児童:8,000世帯 就学児童:5,500世帯
- (8) 調査結果の表示方法：
○ 表やグラフ中の「n」は、質問に対する回答者数を表す。
○ 比率(%)は小数点以下第2位を四捨五入で算出しているため、合計が100%にならないことがある。
○ 2つ以上の回答(複数回答)を求めた質問では、比率(%)の合計が100%を超えることがある。
○ 表やグラフ、文章において、選択肢等の表現を一部省略している場合がある。
○ グラフでは見やすさを優先し、「0.0%」の数値表示を省略しているものがある。

- (9) 送付数及び回収数

対象となる 子どもの年齢	送付数	回収数	回収率
0	2,500	1,141	45.6%
1	1,308	608	46.5%
2	1,292	563	43.6%
3	960	455	47.4%
4	972	454	46.7%
5	968	418	43.2%
不明		28	
就学前児童 計	8,000	3,667	45.8%

◆ 就学児童

対象となる 子どもの年齢	送付数	回収数	回収率
6	955	448	46.9%
7	963	437	45.4%
8	982	432	44.0%
9	870	384	44.1%
10	885	368	41.6%
11	845	331	39.2%
不明		26	
就学児童 計	5,500	2,426	44.1%
全体	13,500	6,093	45.1%

就学前児童:回答者の属性

1. 平成30年4月1日現在の対象子ども年齢

	人数	%
0歳	1,141	31.1
1歳	608	16.6
2歳	563	15.4
3歳	455	12.4
4歳	454	12.4
5歳	418	11.4
不明	28	0.8
全体	3,667	100.0

2. きょうだいの数

	人数	%
1人	1,251	34.1
2人	1,696	46.3
3人	584	15.9
4人	90	2.5
5人以上	23	0.6
不明	23	0.6
全体	3,667	100.0

3. 末子の生まれ年(n=きょうだいが2人以上の方)

	人数	%
平成24年	114	4.8
平成25年	166	6.9
平成26年	203	8.5
平成27年	308	12.9
平成28年	401	16.8
平成29年	599	25.0
平成30年	366	15.3
不明	236	9.9
全体	2,393	100.0

4. 調査票の回答者

	人数	%
母親	3,355	91.5
父親	300	8.2
その他	4	0.1
不明	8	0.2
全体	3,667	100.0

5. 回答者の配偶関係

	人数	%
配偶者はいる	3,516	95.9
配偶者はいない	139	3.8
不明	12	0.3
全体	3,667	100.0

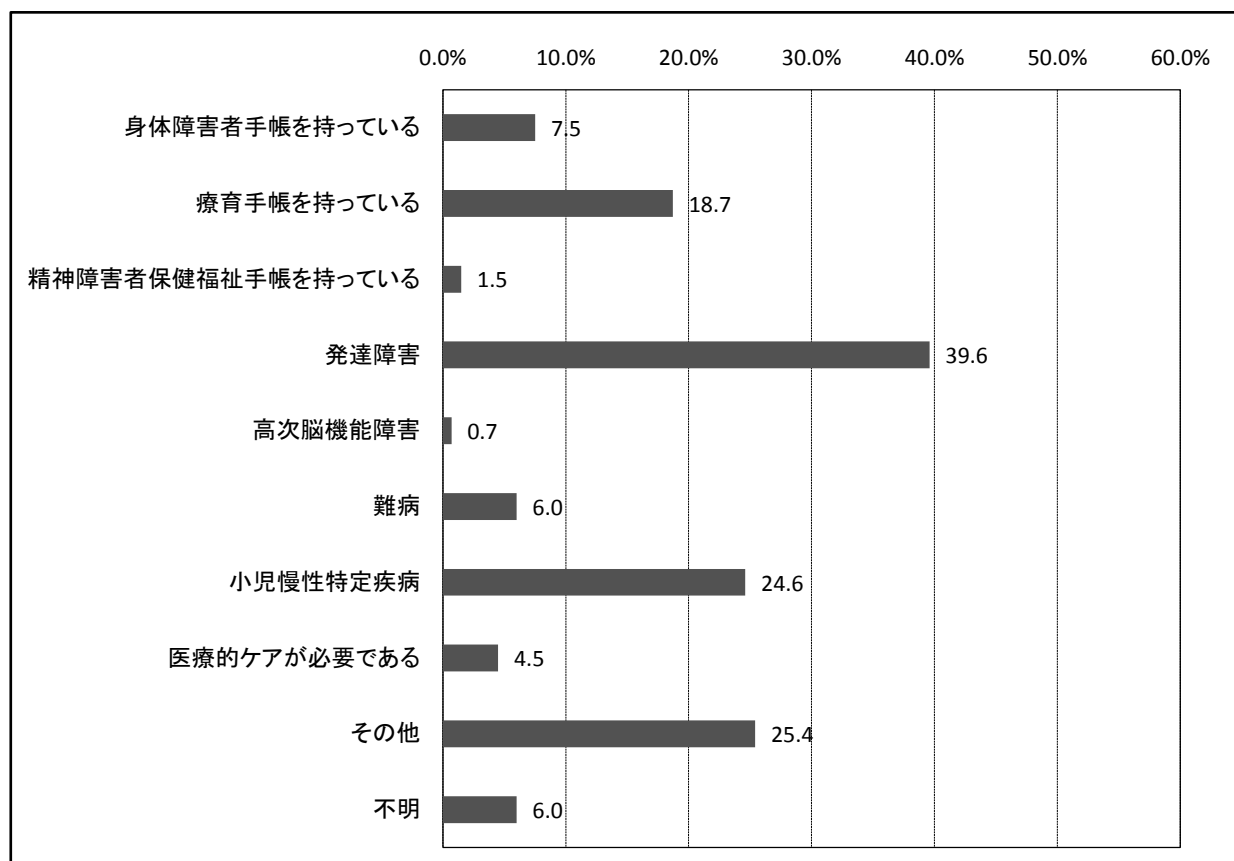
6. 居住区

	人数	%
中区	385	10.5
東区	330	9.0
南区	429	11.7
西区	582	15.9
安佐南区	956	26.1
安佐北区	295	8.0
安芸区	244	6.7
佐伯区	431	11.8
不明	15	0.4
全体	3,667	100.0

7. 障害や慢性的な疾病の有無

	人数	%
ない	3,505	95.6
ある	134	3.7
不明	28	0.8
全体	3,667	100.0

7-1. 障害の種類(複数回答)(n=障害、慢性的な疾病等がある方:134)



就学児童:回答者の属性

1. 平成30年4月1日現在の対象子ども年齢

	人数	%
6歳	448	18.5
7歳	437	18.0
8歳	432	17.8
9歳	384	15.8
10歳	368	15.2
11歳	331	13.6
不明	26	1.1
全体	2,426	100.0

2. きょうだいの数

	人数	%
1人	393	16.2
2人	1,261	52.0
3人	630	26.0
4人	98	4.0
5人以上	21	0.9
不明	23	0.9
全体	2,426	100.0

3. 末子の生まれ年(n=きょうだいが2人以上の方)

	人数	%
平成18年	77	3.8
平成19年	113	5.6
平成20年	163	8.1
平成21年	203	10.1
平成22年	248	12.3
平成23年	254	12.6
平成24年	177	8.8
平成25年	203	10.1
平成26年	162	8.1
平成27年	100	5.0
平成28年	75	3.7
平成29年	52	2.6
平成30年	46	2.3
不明	137	6.8
全体	2,010	100.0

4. 調査票の回答者

	人数	%
母親	2,136	88.0
父親	260	10.7
その他	7	0.3
不明	23	0.9
全体	2,426	100.0

5. 回答者の配偶関係

	人数	%
配偶者はいる	2,239	92.3
配偶者はいない	167	6.9
不明	20	0.8
全体	2,426	100.0

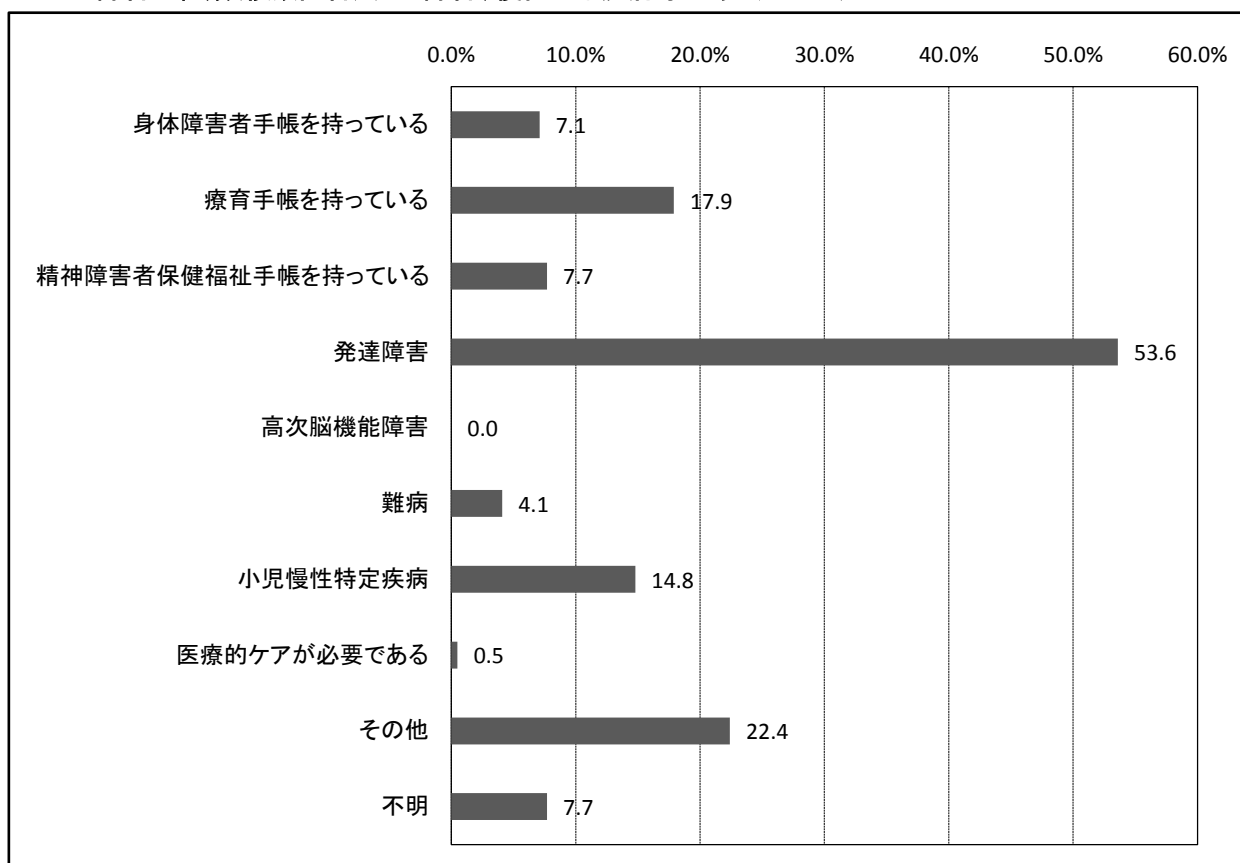
6. 居住区

	人数	%
中区	231	9.5
東区	223	9.2
南区	294	12.1
西区	378	15.6
安佐南区	583	24.0
安佐北区	247	10.2
安芸区	187	7.7
佐伯区	261	10.8
不明	22	0.9
全体	2,426	100.0

7. 障害や慢性的な疾病の有無

	人数	%
ない	2,218	91.4
ある	196	8.1
不明	12	0.5
全体	2,426	100.0

7-1. 障害の種類(複数回答)(n=障害、慢性的な疾病等がある方:196)



調査結果の概要

I. 子どもの育ちをめぐる環境、保護者の就労状況等について

1. 家庭での子育ての状況

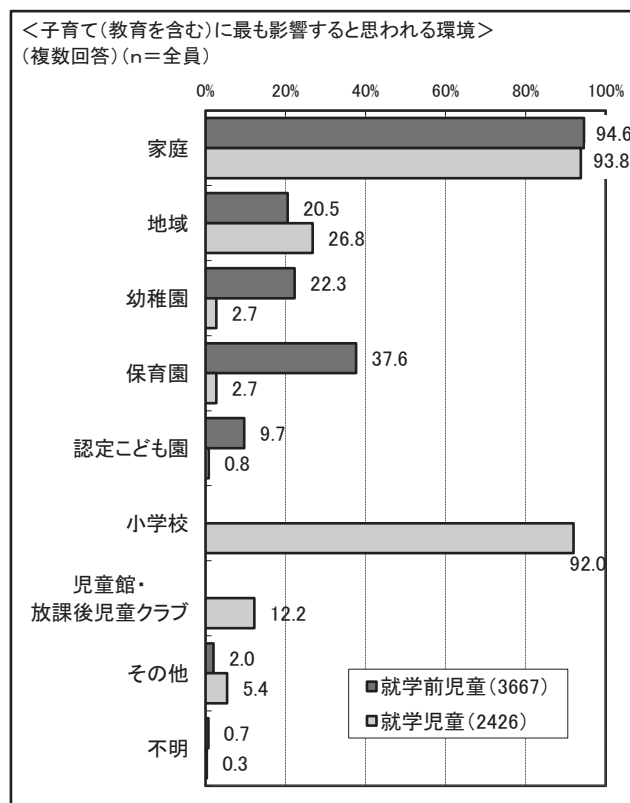
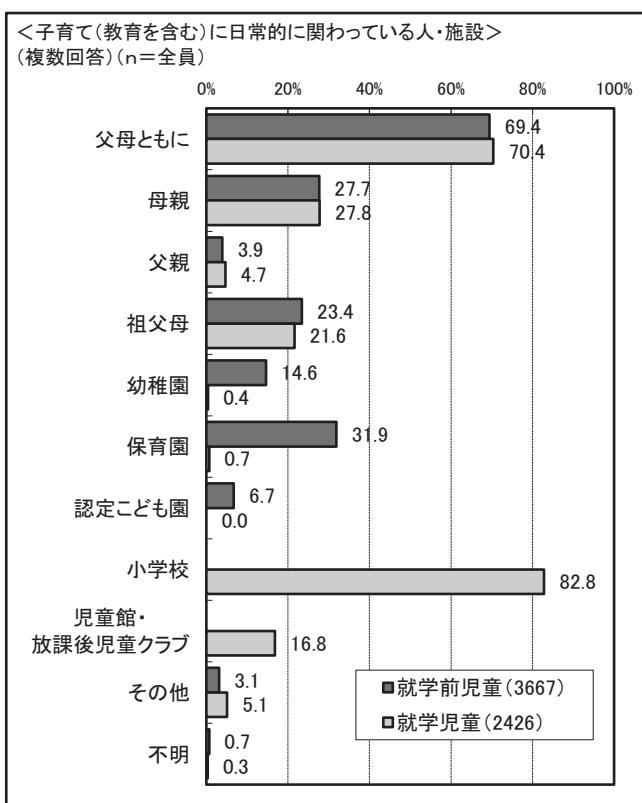
1) 子育て(教育を含む)に日常的に関わっている人・施設、影響する環境

子育て(教育を含む)に日常的に関わっている人・施設について、就学前児童では「父母ともに」が最も多く69.4%、次いで「保育園」が31.9%、「母親」が27.7%となっている。

就学児童では「小学校」が最も多く82.8%、次いで「父母ともに」が70.4%、「母親」が27.8%となっている。

子育て(教育を含む)に最も影響すると思われる環境について、就学前児童では「家庭」が最も多く94.6%、次いで「保育園」が37.6%、「幼稚園」が22.3%となっている。

就学児童では「家庭」が最も多く93.8%、次いで「小学校」が92.0%、「地域」が26.8%となっている。



＜子どもの子育て(教育を含む)に日常的に関わっている人・施設＞
(複数回答)(n=全員)

	全体	父母ともに	母親	父親	祖父母	幼稚園	保育園	認定こども園	小学校	児童館・放課後児童クラブ	その他	不明
就学前児童・計	3667	69.4	27.7	3.9	23.4	14.6	31.9	6.7			3.1	0.7
0歳	1141	70.9	29.9	3.6	22.9	0.6	17.0	3.2			3.2	1.0
1～2歳	1171	69.3	27.8	4.2	24.2	4.4	38.0	6.0			3.7	0.5
3歳以上	1327	68.3	25.8	3.8	23.1	35.8	39.3	10.5			2.6	0.8
不明	28	67.9	25.0	3.6	25.0	14.3	32.1	3.6			0.0	0.0
就学児童・計	2426	70.4	27.8	4.7	21.6	0.4	0.7	0.0	82.8	16.8	5.1	0.3
低学年	1317	70.8	27.4	4.2	22.7	0.7	0.5	0.1	84.6	26.7	3.5	0.2
高学年	1083	70.3	28.0	5.4	20.2	0.1	0.8	0.0	81.1	4.7	7.2	0.4
不明	26	57.7	38.5	3.8	19.2	0.0	0.0	0.0	65.4	15.4	0.0	3.8

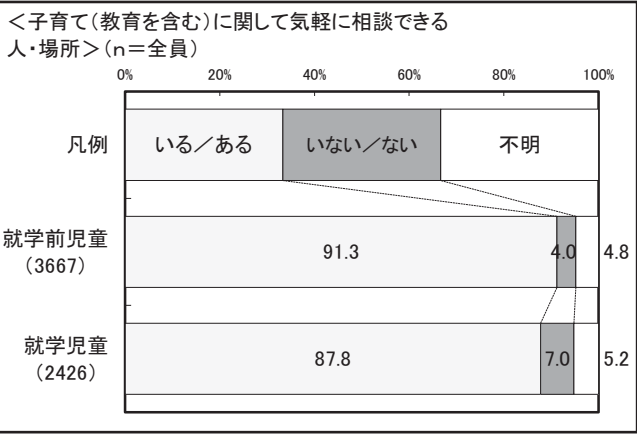
＜子どもの子育て(教育を含む)に最も影響すると思う環境＞
(複数回答)(n=全員)

	家庭	地域	幼稚園	保育園	認定こども園	小学校	児童館・放課後児童クラブ	その他	不明
就学前児童・計	94.6	20.5	22.3	37.6	9.7			2.0	0.7
0歳	97.0	23.3	12.9	32.5	9.2			1.9	0.9
1～2歳	93.9	20.0	13.8	40.6	9.3			2.2	0.4
3歳以上	93.2	18.5	37.6	39.2	10.5			1.8	0.8
不明	96.4	25.0	28.6	50.0	10.7			0.0	0.0
就学児童・計	93.8	26.8	2.7	2.7	0.8	92.0	12.2	5.4	0.3
低学年	94.3	27.3	2.9	3.7	1.1	92.4	18.9	4.2	0.4
高学年	93.4	26.3	2.4	1.4	0.4	91.4	4.0	7.0	0.1
不明	88.5	19.2	3.8	3.8	3.8	96.2	19.2	0.0	3.8

2)子育て(教育を含む)について相談できる人・場所

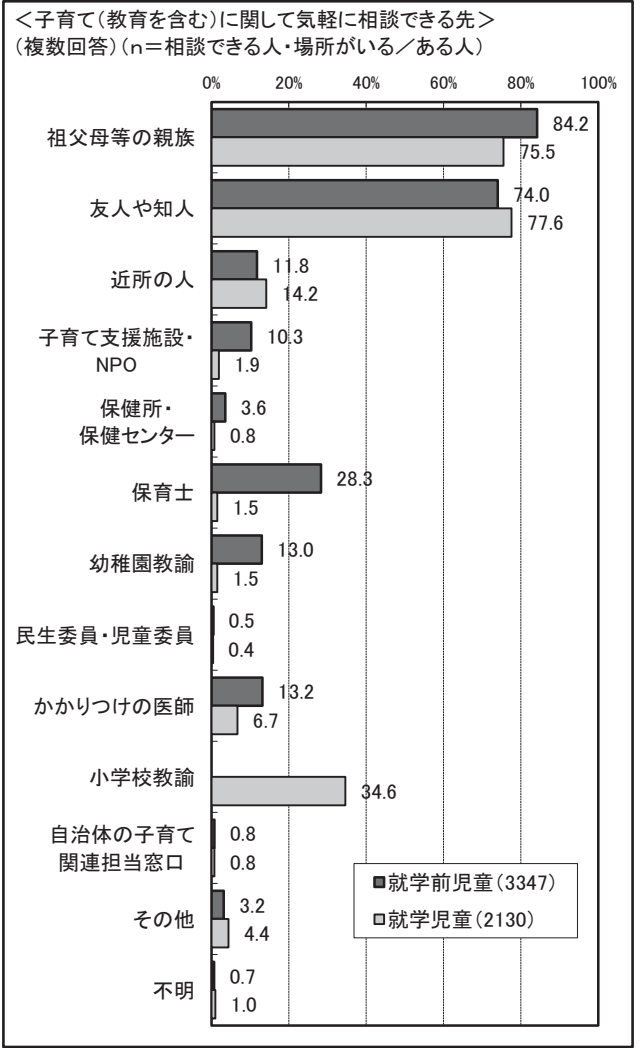
子育て(教育を含む)に関して気軽に相談できる人・場所について、就学前児童では「いる／ある」が91.3%、「いない／ない」が4.0%となっており、気軽に相談できる先としては、「祖父母等の親族」が最も多く84.2%、次いで「友人や知人」が74.0%、「保育士」が28.3%となっている。

就学児童では「いる／ある」が87.8%、「いない／ない」が7.0%となっており、気軽に相談できる先としては、「友人や知人」が最も多く77.6%、次いで「祖父母等の親族」が75.5%、「小学校教諭」が34.6%となっている。



＜子育て(教育を含む)について気軽に相談できる人・場所＞(n=全員) (%)

	全体	いる／ある	いない／ない	不明
就学前児童・計	3667	91.3	4.0	4.8
0歳	1141	91.3	3.3	5.3
1～2歳	1171	91.2	4.4	4.4
3歳以上	1327	91.4	4.1	4.5
不明	28	85.7	7.1	7.1
就学児童・計	2426	87.8	7.0	5.2
低学年	1317	88.5	5.9	5.6
高学年	1083	87.2	8.1	4.7
不明	26	80.8	11.5	7.7



子育て(教育を含む)に関して気軽に相談できる先(複数回答)(n=相談できる人・施設がある人)

(%)

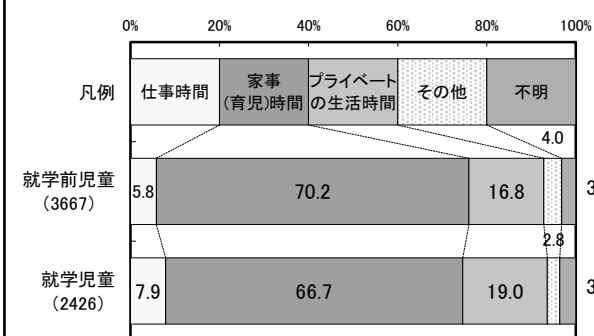
	全体	祖父母等の親族	友人や知人	近所の人	N P O 子育て支援施設・	保健所・保健セン	保育士	幼稚園教諭	民生委員・児童委員	かかりつけの医師	小学校教諭	自治体の子育て関連窓口	その他	不明
就学前児童・計	3347	84.2	74.0	11.8	10.3	3.6	28.3	13.0	0.5	13.2		0.8	3.2	0.7
0歳	1042	87.6	72.6	10.5	18.5	6.4	19.7	2.4	0.5	19.7		1.2	3.0	0.6
1～2歳	1068	85.4	73.1	11.7	10.3	2.6	36.1	7.4	0.7	10.9		0.9	3.6	0.8
3歳以上	1213	80.3	76.2	13.2	3.3	1.8	28.8	27.0	0.5	9.6		0.3	3.1	0.8
不明	24	79.2	66.7	4.2	12.5	8.3	29.2	20.8	0.0	20.8		0.0	4.2	0.0
就学児童・計	2130	75.5	77.6	14.2	1.9	0.8	1.5	1.5	0.4	6.7	34.6	0.8	4.4	1.0
低学年	1165	77.4	76.6	15.7	2.5	0.9	2.3	1.7	0.2	6.8	33.3	1.0	4.3	0.9
高学年	944	73.3	78.9	12.4	1.3	0.6	0.4	1.2	0.7	6.5	36.1	0.5	4.6	1.1
不明	21	71.4	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5	38.1	0.0	4.8	0.0

3) ワーク・ライフ・バランス

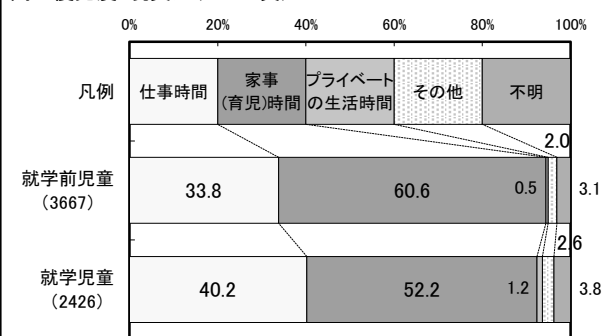
生活の中での「仕事時間」、「家事（育児）時間」、「プライベートの生活時間」の優先度について、就学前児童では「仕事時間」と回答した人が「希望」では5.8%、「現実」では33.8%となっている。「家事（育児）時間」と回答した人が「希望」では70.2%、「現実」では60.6%となっている。「プライベートの生活時間」と回答した人が「希望」では16.8%、「現実」では0.5%となっている。

就学児童では「仕事時間」と回答した人が「希望」では7.9%、「現実」では40.2%となっている。「家事（育児）時間」と回答した人が「希望」では66.7%、「現実」では52.2%となっている。「プライベートの生活時間」と回答した人が「希望」では19.0%、「現実」では1.2%となっている。

＜仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度：希望＞（n＝全員）



＜仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度：現実＞（n＝全員）



母親がフルタイムで就労している人の生活の中での「仕事時間」、「家事（育児）時間」、「プライベートの生活時間」の優先度について、就学前児童では「仕事時間」と回答した人が「希望」では5.1%、「現実」では58.3%となっている。「家事（育児）時間」と回答した人が「希望」では73.0%、「現実」では32.9%となっている。「プライベートの生活時間」と回答した人が「希望」では12.7%、「現実」では0.3%となっている。

就学児童では「仕事時間」と回答した人が「希望」では6.9%、「現実」では74.1%となっている。「家事（育児）時間」と回答した人が「希望」では68.7%、「現実」では16.3%となっている。「プライベートの生活時間」と回答した人が「希望」では15.3%、「現実」では0.9%となっている。

＜仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度（就学前児童）＞（n＝就学前児童全員）

(%)

	全体（人）	希望					現実				
		仕事時間	家事（育児）時間	のプライベート生活時間	その他	不明	仕事時間	家事（育児）時間	のプライベート生活時間	その他	不明
母の就労状況											
就学前児童・計	3667	5.8	70.2	16.8	4.0	3.2	33.8	60.6	0.5	2.0	3.1
フルタイム	1272	5.1	73.0	12.7	3.9	5.3	58.3	32.9	0.3	3.0	5.4
パート・アルバイト等	941	8.2	68.7	17.2	3.7	2.2	38.8	55.7	1.0	2.3	2.2
無業	1435	4.8	68.9	20.2	4.2	2.0	8.4	88.5	0.5	1.0	1.6
不明	19	15.8	57.9	21.1	0.0	5.3	52.6	42.1	0.0	0.0	5.3

＜仕事時間、家事（育児）時間、プライベートの生活時間の優先度（就学児童）＞（n＝就学児童全員）

(%)

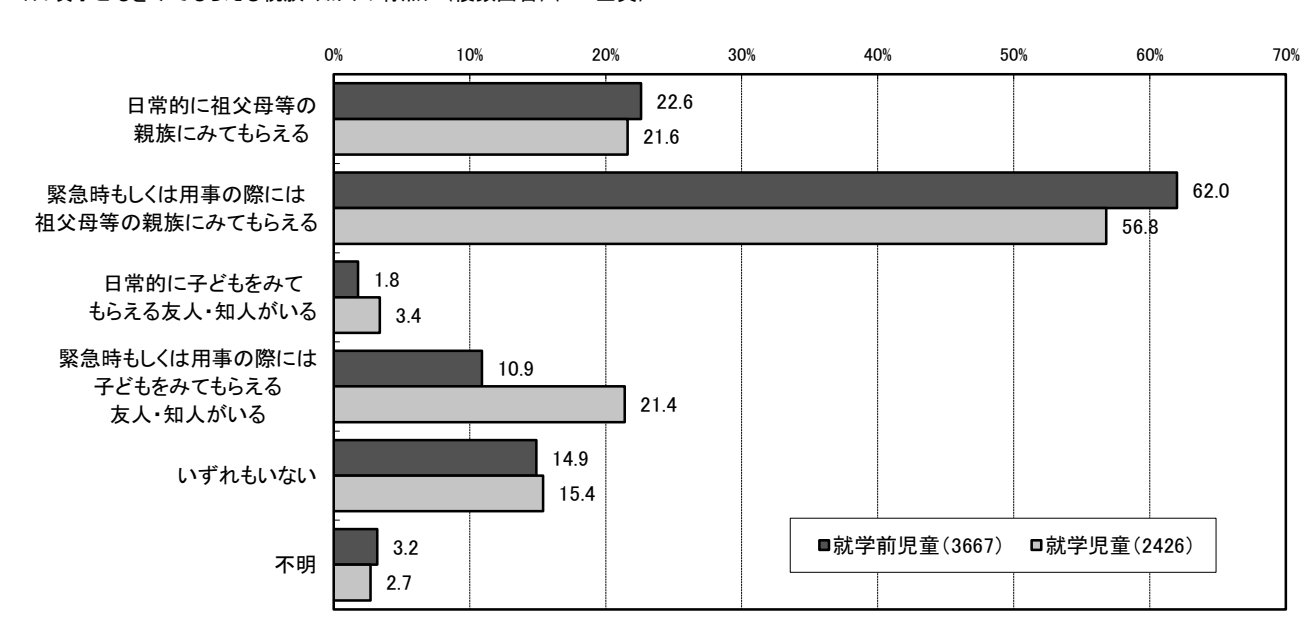
	全体（人）	希望					現実				
		仕事時間	家事（育児）時間	のプライベート生活時間	その他	不明	仕事時間	家事（育児）時間	のプライベート生活時間	その他	不明
母の就労状況											
就学児童・計	2426	7.9	66.7	19.0	2.8	3.6	40.2	52.2	1.2	2.6	3.8
フルタイム	694	6.9	68.7	15.3	3.6	5.5	74.1	16.3	0.9	2.4	6.3
パート・アルバイト等	1079	9.5	65.5	19.8	2.5	2.7	35.9	57.5	0.9	3.1	2.7
無業	622	5.8	66.7	22.2	2.4	2.9	9.6	83.6	1.9	2.1	2.7
不明	31	16.1	61.3	9.7	3.2	9.7	48.4	41.9	0.0	0.0	9.7

4) 日頃子どもをみてもらえる環境

日頃子どもをみてもらえる親族・知人の有無について、就学前児童では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く62.0%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が22.6%、「いずれもない」が14.9%となっている。

就学児童では「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が最も多く56.8%、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が21.6%。「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が21.4%となっている。

<日頃子どもをみてもらえる親族・知人の有無>(複数回答)(n=全員)



<日頃子どもをみてもらえる親族・知人の有無>(複数回答)(n=全員)

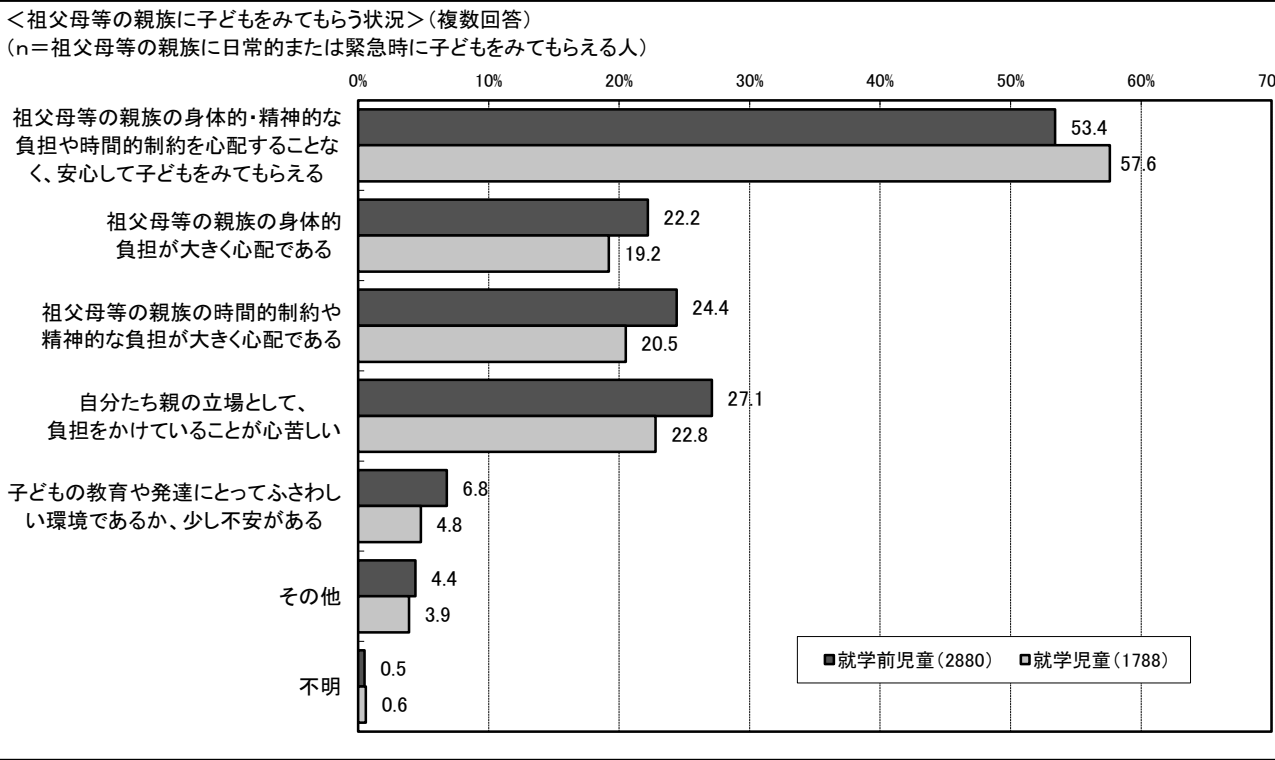
(%)

	全体	日常的に祖父母等の親族にみる	緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみる	日常的に友人・知人がみてもらえる	緊急時もしくは用事の際には子どもをみてくれる友人・知人がいる	いずれもない	不明
就学前児童・計	3667	22.6	62.0	1.8	10.9	14.9	3.2
0歳	1141	23.0	61.4	1.3	7.5	16.4	3.9
1～2歳	1171	24.3	61.6	1.1	9.7	16.3	2.1
3歳以上	1327	20.7	62.8	2.8	15.1	12.6	3.3
不明	28	25.0	64.3	3.6	0.0	10.7	10.7
就学児童・計	2426	21.6	56.8	3.4	21.4	15.4	2.7
低学年	1317	21.3	58.4	3.0	22.1	13.7	2.7
高学年	1083	22.1	55.0	4.0	20.7	17.2	2.6
不明	26	11.5	46.2	3.8	15.4	30.8	7.7

5)子どもをみてもらうことへの意識

祖父母等の親族に日常的または緊急時に子どもをみてもらう状況について、就学前児童では「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く53.4%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が27.1%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が24.4%となっている。

就学児童では「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く57.6%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が22.8%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が20.5%となっている。



＜祖父母等の親族に子どもをみてもらう状況＞（複数回答）
（n＝祖父母等の親族に日常的または緊急時に子どもをみてもらえる人）

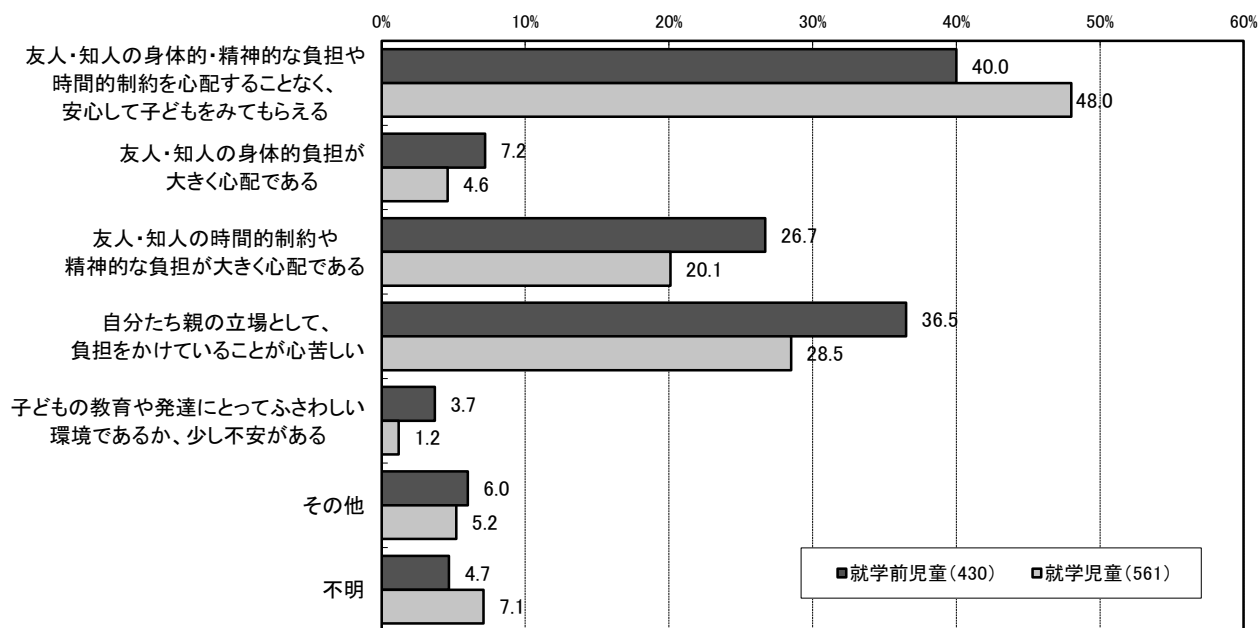
	全体	ど配神祖 もす的父 をるな母 みこ負等 てと担の もなくや親 え、間の る安的身 心制体的 てを・子 心精	が祖 大父 き母 く等 心の 配親 で族 あの る身 体的 負担	でや祖 あ精父 る神母 的等 な負親 担族 が大 とき 間の 心的 制配 約	い担自 を分 かた けち て親 いの る立 こ場 とと がし て苦 、し 負	しふ子 不安わ がのし あい教 る育 環境 や発 達に か、っ 少	そ 他	不 明
就学前児童・計	2880	53.4	22.2	24.4	27.1	6.8	4.4	0.5
0歳	887	55.6	20.6	24.5	26.3	6.1	4.5	0.5
1～2歳	931	53.2	23.0	23.3	28.0	6.6	3.8	0.8
3歳以上	1040	51.8	23.0	25.5	26.7	7.4	4.7	0.2
不明	22	45.5	18.2	22.7	40.9	13.6	9.1	0.0
就学児童・計	1788	57.6	19.2	20.5	22.8	4.8	3.9	0.6
低学年	991	55.6	20.8	21.5	25.7	4.4	3.9	0.5
高学年	782	60.5	17.0	19.2	19.1	5.2	3.8	0.6
不明	15	40.0	26.7	20.0	26.7	0.0	6.7	0.0

友人・知人に日常的または緊急時に子どもをみてもらう状況について、就学前児童では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く40.0%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が36.5%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が26.7%となっている。

就学児童では「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が最も多く48.0%、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が28.5%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が20.1%となっている。

<友人・知人に子どもをみてもらう状況について> (複数回答)

(n=友人・知人に日常的または緊急時に子どもをみてもらえる人)



<友人・知人に子どもをみてもらう状況> (複数回答)

(n=友人・知人に日常的または緊急時に子どもをみてもらえる人)

(%)

	全体	もとなげらなく、安心できる、時間的・精神的負担が大きい	友人・知人の身体的負担が大きい	友人・知人の時間的・精神的負担が大きい	自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい	子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある	その他	不明
就学前児童・計	430	40.0	7.2	26.7	36.5	3.7	6.0	4.7
0歳	90	37.8	8.9	27.8	37.8	6.7	10.0	4.4
1～2歳	119	42.9	6.7	32.8	33.6	3.4	5.0	2.5
3歳以上	220	39.5	6.4	22.7	37.7	2.7	5.0	5.9
不明	1	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就学児童・計	561	48.0	4.6	20.1	28.5	1.2	5.2	7.1
低学年	312	45.5	4.2	22.8	29.2	1.3	6.1	8.0
高学年	244	51.2	5.3	16.8	27.5	1.2	4.1	5.7
不明	5	40.0	0.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0

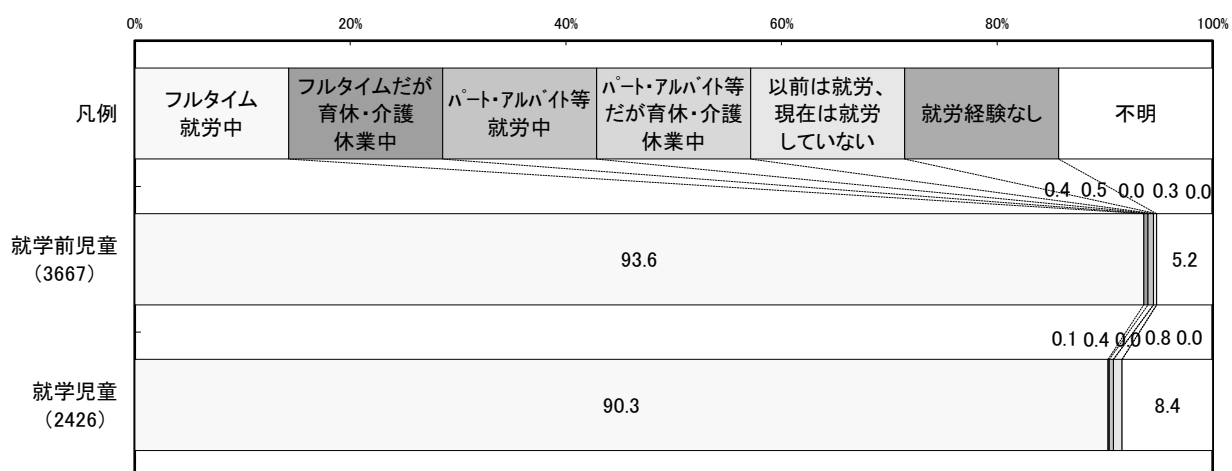
2. 保護者の就労状況

1) 父親の就労状況

父親の就労状況について、就学前児童では「フルタイム就労中」が最も多く93.6%、次いで「パート・アルバイト等就労中」が0.5%、「フルタイムだが育休・介護休業中」が0.4%となっている。

就学児童では「フルタイム就労中」が最も多く90.3%、次いで「以前は就労、現在は就労していない」が0.8%、「パート・アルバイト等就労中」が0.4%となっている。

<父親の就労状況> (n=全員)



<父親の就労状況> (n=全員)

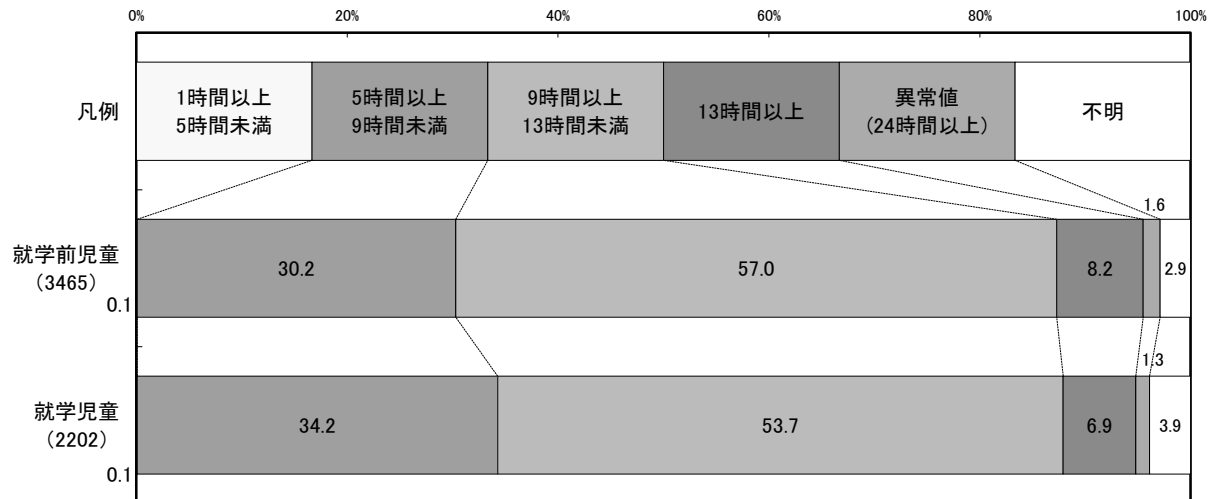
(%)

	全体	フルタイム就労中	フルタイムだが育休・介護休業中	パート・アルバイト等就労中	パート・アルバイト等だが育休・介護休業中	以前は就労、現在は就労していない	就労経験なし	不明
就学前児童・計	3667	93.6	0.4	0.5	0.0	0.3	0.0	5.2
0歳	1141	94.6	0.7	0.7	0.0	0.3	0.1	3.7
1～2歳	1171	95.0	0.3	0.9	0.0	0.2	0.0	3.7
3歳以上	1327	91.5	0.2	0.2	0.0	0.5	0.0	7.7
不明	28	89.3	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	7.1
就学児童・計	2426	90.3	0.1	0.4	0.0	0.8	0.0	8.4
低学年	1317	89.1	0.1	0.5	0.0	1.2	0.0	9.1
高学年	1083	91.8	0.2	0.3	0.0	0.4	0.0	7.4
不明	26	84.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4

就労している父親の1日の就労時間について、就学前児童では「9時間以上13時間未満」が最も多く57.0%、次いで「5時間以上9時間未満」が30.2%、「13時間以上」が8.2%となっている。

就学児童では「9時間以上13時間未満」が最も多く53.7%、次いで「5時間以上9時間未満」が34.2%、「13時間以上」が6.9%となっている。

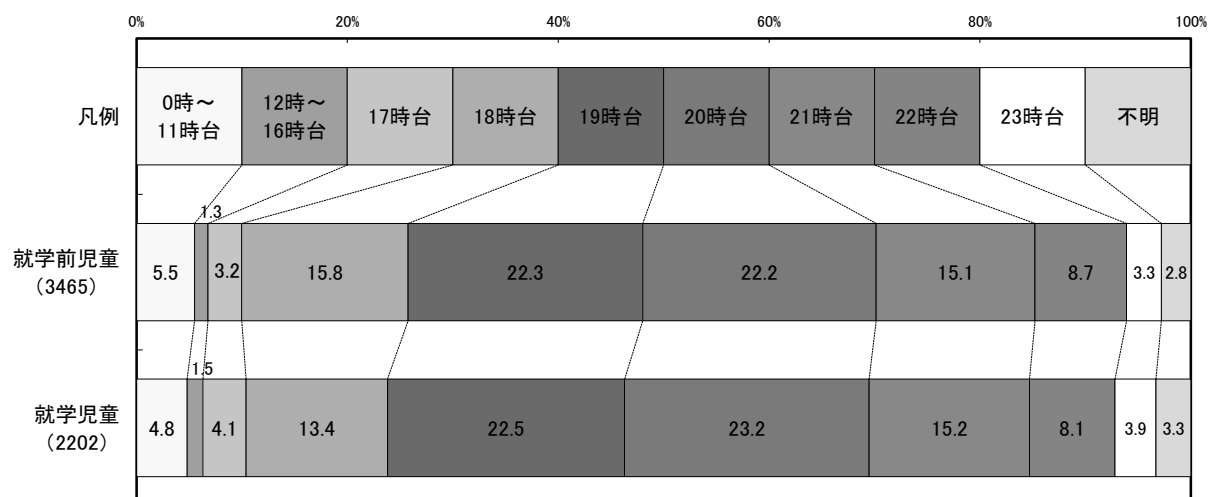
＜父親の1日の就労時間＞（n＝父親が就労している人）



就労している父親の帰宅時間について、就学前児童では「19時台」が最も多く22.3%、次いで「20時台」が22.2%、「18時台」が15.8%となっている。

就学児童では「20時台」が最も多く23.2%、次いで「19時台」が22.5%、「21時台」が15.2%となっている。

＜父親の帰宅時間＞（n＝父親が就労している人）

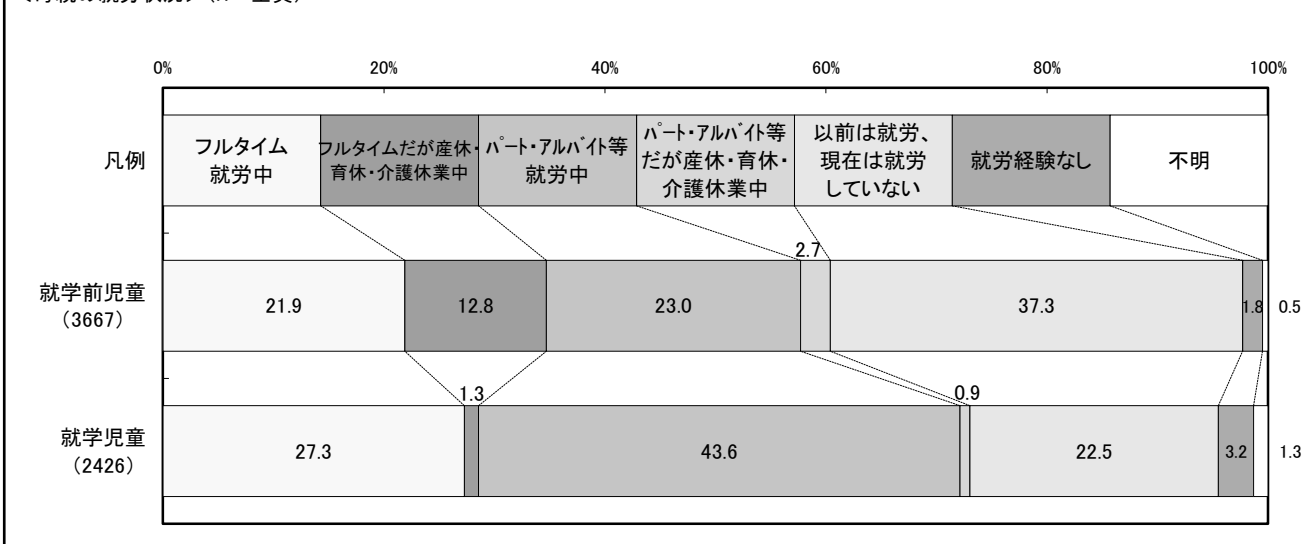


2) 母親の就労状況

母親の就労状況について、就学前児童では「以前は就労、現在は就労していない」が最も多く37.3%、次いで「パート・アルバイト等就労中」が23.0%、「フルタイム就労中」が21.9%となっている。

就学児童では「パート・アルバイト等就労中」が最も多く43.6%、次いで「フルタイム就労中」が27.3%、「以前は就労、現在は就労していない」が22.5%となっている。

<母親の就労状況>(n=全員)



<母親の就労状況>(n=全員)

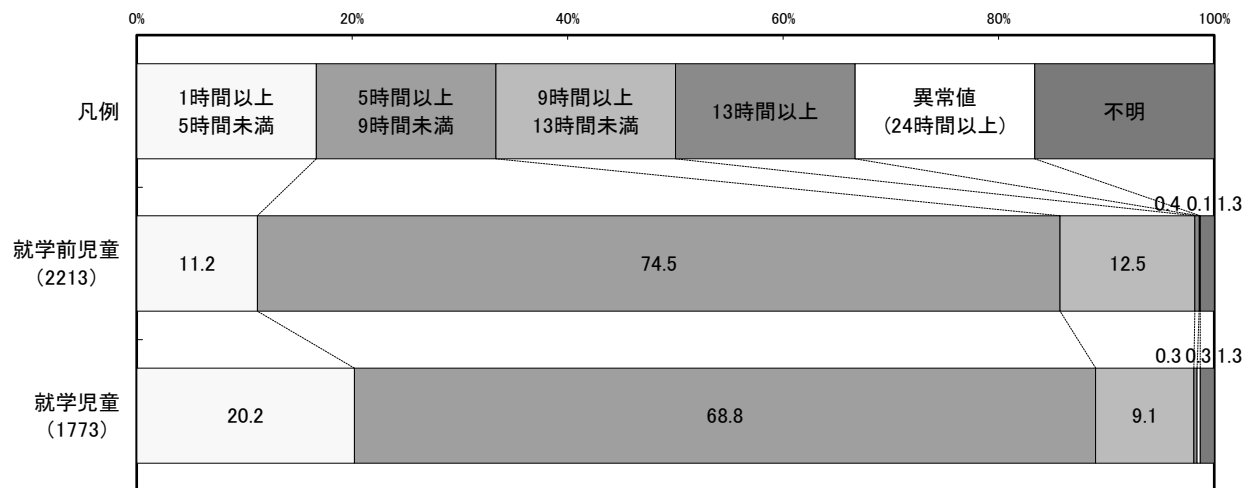
(%)

	全体	フルタイム就労中	フルタイムだが産休・育休・介護休業中	パート・アルバイト等就労中	パート・アルバイト等だが産休・育休・介護休業中	以前は就労、現在は就労していない	就労経験なし	不明
就学前児童・計	3667	21.9	12.8	23.0	2.7	37.3	1.8	0.5
0歳	1141	13.5	26.9	11.2	3.9	42.9	1.2	0.3
1～2歳	1171	24.7	9.1	22.2	2.3	39.2	2.3	0.3
3歳以上	1327	26.5	3.9	33.9	1.9	31.0	1.9	0.8
不明	28	25.0	17.9	17.9	3.6	28.6	0.0	7.1
就学児童・計	2426	27.3	1.3	43.6	0.9	22.5	3.2	1.3
低学年	1317	25.2	1.5	43.1	0.9	25.2	3.2	0.8
高学年	1083	29.6	1.0	44.5	0.8	19.2	3.0	1.8
不明	26	38.5	0.0	30.8	0.0	19.2	7.7	3.8

就労している母親の1日の就労時間について、就学前児童では「5時間以上9時間未満」が最も多く74.5%、次いで「9時間以上13時間未満」が12.5%、「1時間以上5時間未満」が11.2%となっている。

就学児童では「5時間以上9時間未満」が最も多く68.8%、次いで「1時間以上5時間未満」が20.2%、「9時間以上13時間未満」が9.1%となっている。

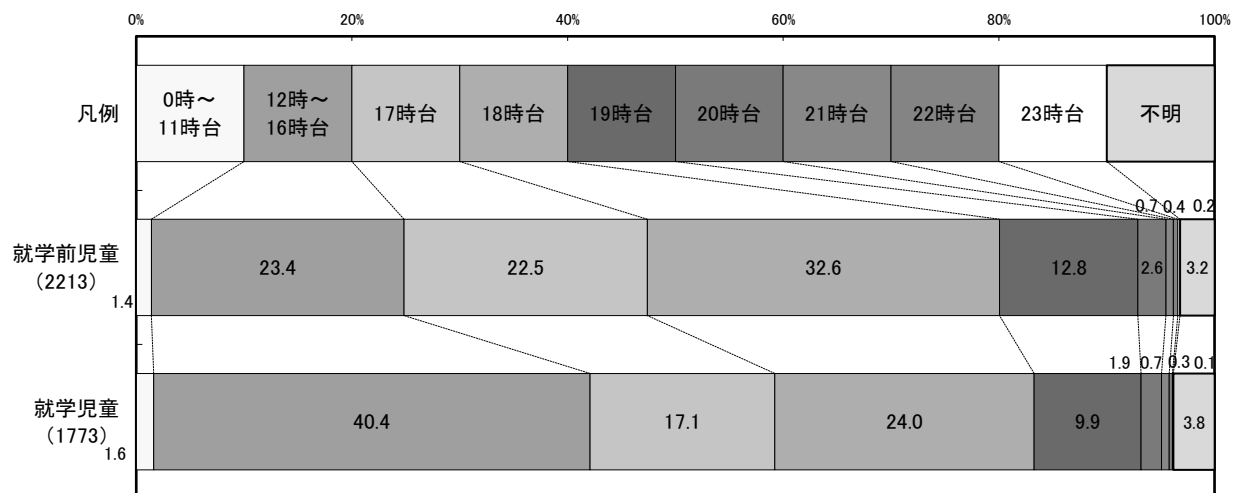
<母親の1日の就労時間> (n=母親が就労している人)



就労している母親の帰宅時間について、就学前児童では「18時台」が最も多く32.6%、次いで「12時～16時台」が23.4%、「17時台」が22.5%となっている。

就学児童では「12時～16時台」が最も多く40.4%、次いで「18時台」が24.0%、「17時台」が17.1%となっている。

<母親の帰宅時間> (n=母親が就労している人)

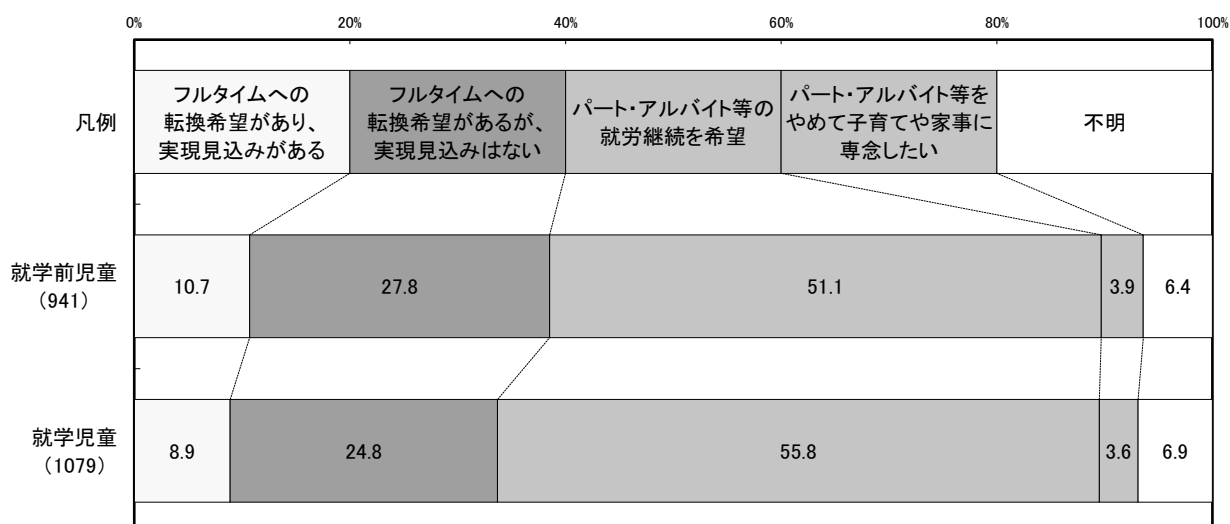


3) パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望

パート・アルバイト等で就労している母親のフルタイムへの転換希望について、就学前児童では「パート・アルバイト等の就労継続を希望」が最も多く51.1%、次いで「フルタイムへの転換希望があるが、実現見込みはない」が27.8%、「フルタイムへの転換希望があり、実現見込みがある」が10.7%となっている。

就学児童では「パート・アルバイト等の就労継続を希望」が最も多く55.8%、次いで「フルタイムへの転換希望があるが、実現見込みはない」が24.8%、「フルタイムへの転換希望があり、実現見込みがある」が8.9%となっている。

<母親のフルタイムへの転換希望> (n=母親がパート・アルバイト等で就労している人)



<母親のフルタイムへの転換希望> (n=母親がパート・アルバイト等で就労している人)

(%)

	全 体	あ る フル 、タ イ ム 実 現 見 込 み の 転 換 希 望 が	あ る フル が 、タ イ ム 実 現 見 込 み の 転 換 希 望 が	継 続 を 希 望 パ ー ト ・ ア ル バ イ ト の 就 労	た め パ ー ト ・ ア ル バ イ ト を や め て 子 育 て や 家 事 に 専 念 し や	不 明
就学前児童・計	941	10.7	27.8	51.1	3.9	6.4
0歳	173	10.4	29.5	49.7	4.6	5.8
1～2歳	287	10.5	28.6	52.3	4.5	4.2
3歳以上	475	10.7	26.9	50.9	3.4	8.0
不明	6	33.3	16.7	50.0	0.0	0.0
就学児童・計	1079	8.9	24.8	55.8	3.6	6.9
低学年	580	8.6	26.4	55.2	3.4	6.4
高学年	491	9.4	23.0	56.6	3.9	7.1
不明	8	0.0	25.0	50.0	0.0	25.0

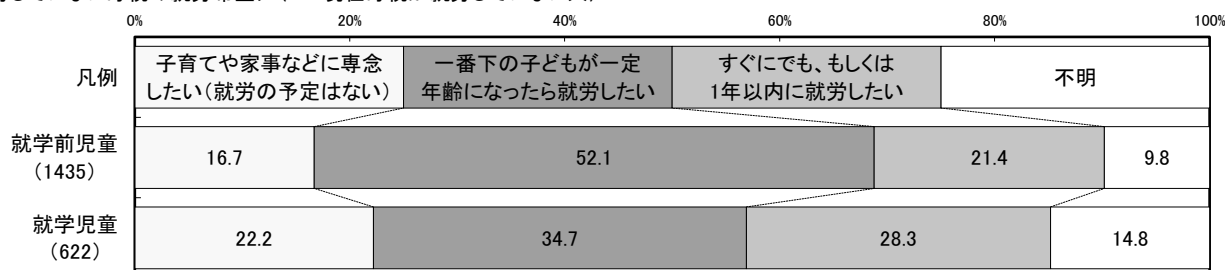
3. 就労していない母親の就労希望

1) 就労希望状況

就労していない母親の就労希望について、就学前児童では「一番下の子どもが一定年齢になったら就労したい」が最も多く52.1%、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が21.4%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が16.7%となっている。

就学児童では「一番下の子どもが一定年齢になったら就労したい」が最も多く34.7%、次いで「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が28.3%、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」が22.2%となっている。

＜就労していない母親の就労希望＞（n＝現在母親が就労していない人）



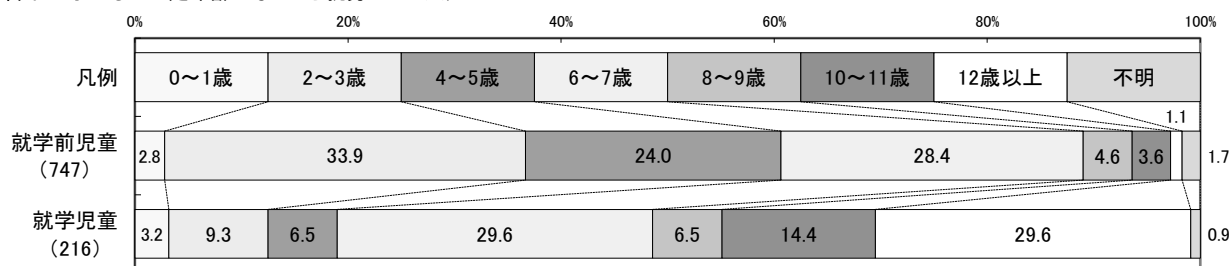
＜就労していない母親の就労希望＞（n＝現在母親が就労していない人）（%）

	全体	専念希望 子育てや家事などに 専念したい（就労の 予定はない）	一定年齢になったら 就労したい	1年以内に就労し たい	不明
就学前児童・計	1435	16.7	52.1	21.4	9.8
0歳	504	15.3	55.8	20.4	8.5
1～2歳	486	15.4	52.5	20.8	11.3
3歳以上	437	19.7	47.1	23.3	9.8
不明	8	25.0	62.5	12.5	0.0
就学児童・計	622	22.2	34.7	28.3	14.8
低学年	374	21.4	38.2	27.5	12.8
高学年	241	22.0	29.9	29.9	18.3
不明	7	71.4	14.3	14.3	0.0

就労していない母親の就労希望時期（子どもの年齢）について、就学前児童では「2～3歳」が最も多く33.9%、次いで「6～7歳」が24.4%、「4～5歳」が24.0%となっている。

就学児童では「6～7歳」、「12歳以上」が最も多く29.6%、次いで「10～11歳」が14.4%となっている。

＜就労していない母親の就労希望時期：子どもの年齢＞
（n＝一番下の子どもが一定年齢になったら就労したい人）

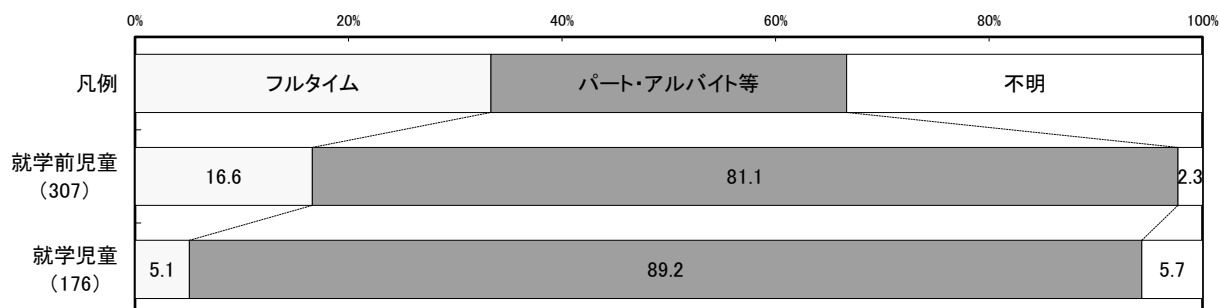


2)就労希望形態

就労していない母親の希望する就労形態について、就学前児童では「フルタイム」が16.6%、「パート・アルバイト等」が81.1%となっている。

就学児童では「フルタイム」が5.1%、「パート・アルバイト等」が89.2%となっている。

<就労していない母親の希望する就労形態> (n=すぐにも、もしくは1年以内に就労したい人)



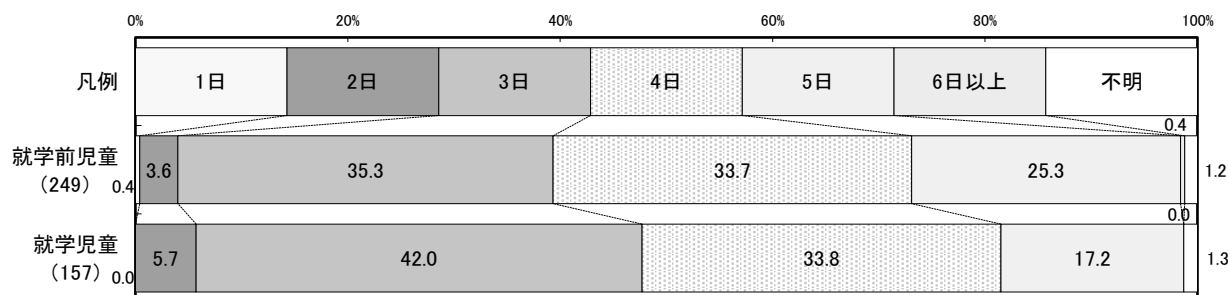
パート・アルバイト等による就労を希望する人の1週あたりの希望就労日数について、就学前児童では「3日」が最も多く35.3%、次いで「4日」が33.7%、「5日」が25.3%となっている。

就学児童では「3日」が最も多く42.0%、次いで「4日」が33.8%、「5日」が17.2%となっている。

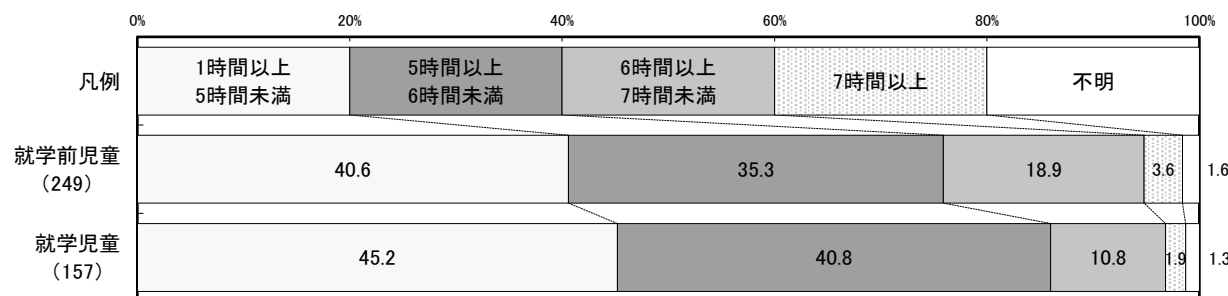
1日あたりの希望就労時間について、就学前児童では「1時間以上5時間未満」が最も多く40.6%、次いで「5時間以上6時間未満」が35.3%、「6時間以上7時間未満」が18.9%となっている。

就学児童では「1時間以上5時間未満」が最も多く45.2%、次いで「5時間以上6時間未満」が40.8%、「6時間以上7時間未満」が10.8%となっている。

<パート・アルバイト等による就労を希望する人の1週あたりの希望就労日数>
(n=パート・アルバイト等による就労を希望する人)



<パート・アルバイト等による就労を希望する人の1日あたりの希望就労時間>
(n=パート・アルバイト等による就労を希望する人)



1) 育児休業の取得状況

父親では「取得していない」が最も多く86.0%、次いで「取得した（取得中である）」が5.2%、「働いていなかった」が0.8%となっている。

Category	働いていなかった	取得した(取得中である)	取得していない	不明
凡例				
母親 (3667)	46.1	41.4	10.9	0.8
父親 (3667)	5.2	86.0	8.1	

(n=就学前児童全員:3667)

Category	Percentage
いずれも知っていた	39.3%
いずれも知らなかった	27.8%
育児休業給付のみ知っていた	28.4%
保険料免除のみ知っていた	1.2%
不明	3.2%

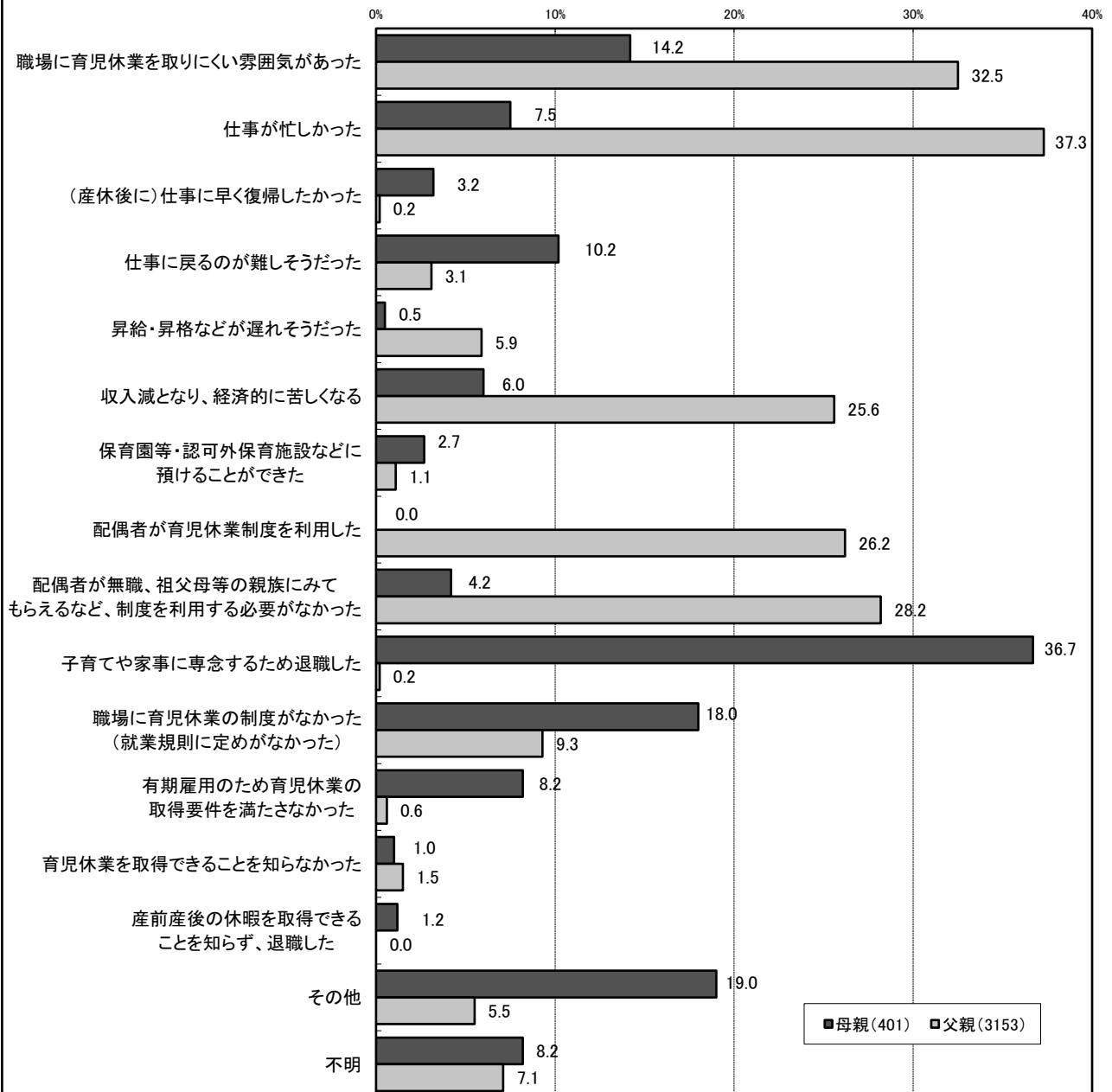
		全 体	知 料 育 つ 免 児 て の 休 い の 業 た い 給 ず れ 、 も 保 險	知 育 つ て て い た 休 業 給 付 の み	て 保 い 険 た 料 免 除 の み 知 つ	ら 料 育 な 免 児 か 除 の つ た い 給 付 ず れ も 知 保 險	不 明
就学前児童・計		3667	39.3	28.4	1.2	27.8	3.2
取 育 得 児 状 休 況 業	働いていなかった	1690	19.6	30.4	1.4	45.3	3.3
	取得した（取得中である）	1518	65.9	26.7	0.5	6.3	0.5
	取得していない	401	26.2	30.2	3.2	37.4	3.0
	不明	58	8.6	5.2	0.0	13.8	72.4
現 在 の 母 親 の 就 労 状 況	フルタイム就労中	802	58.9	24.4	0.5	13.6	2.6
	フルタイムだが休業中	470	71.1	21.9	0.6	4.5	1.9
	パート・アルバイト等就労中	843	28.9	32.6	1.5	34.3	2.6
	パート・アルバイト等だが休業中	98	52.0	29.6	3.1	14.3	1.0
	以前は就労、現在は就労していない	1369	23.6	31.2	1.5	39.4	4.2
	就労経験なし	66	16.7	15.2	1.5	57.6	9.1
	不明	19	36.8	15.8	0.0	42.1	5.3

2) 育児休業を取得していない理由

育児休業を取得していない理由として、母親では「その他」を除いて「子育てや家事に専念するため退職した」が最も多く36.7%、次いで「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が18.0%、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が14.2%となっている。

父親では「仕事が忙しかった」が最も多く37.3%、次いで「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が32.5%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要なかった」が28.2%となっている。

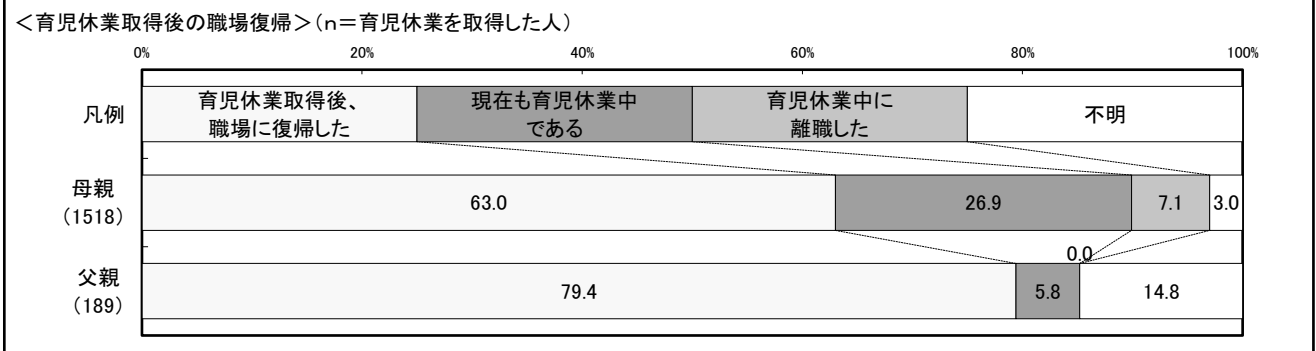
＜育児休業を取得していない理由＞（複数回答）
（n＝育児休業を取得していない人）



3) 育児休業取得後の職場復帰

育児休業取得後の職場復帰について、母親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も多く63.0%、次いで「現在も育児休業中である」が26.9%、「育児休業中に離職した」が7.1%となっている。

父親では「育児休業取得後、職場に復帰した」が最も多く79.4%、次いで「現在も育児休業中である」が5.8%となっている。



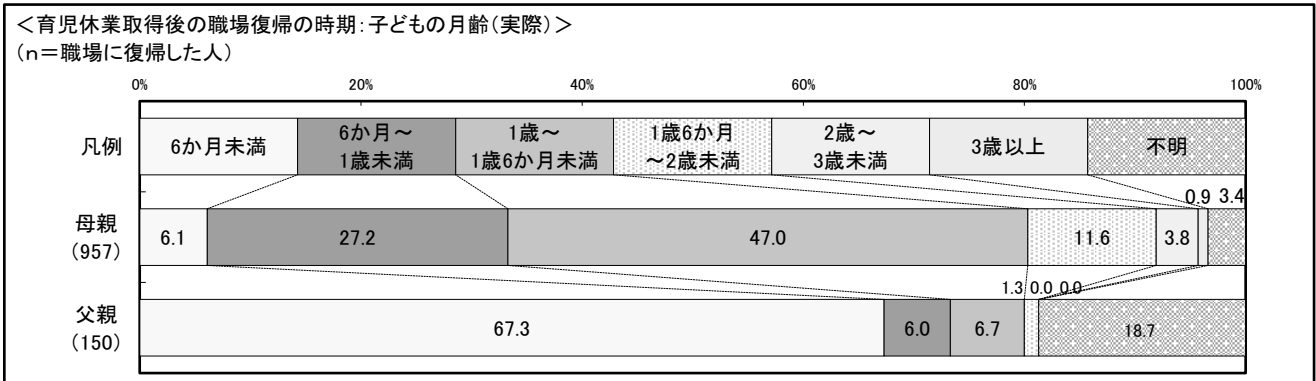
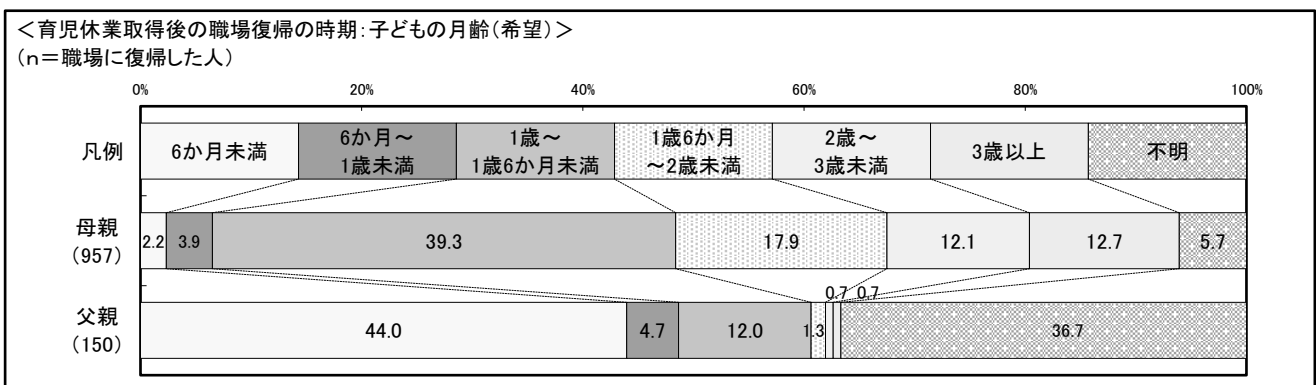
4) 育児休業取得後の職場復帰の時期

育児休業取得後の職場復帰の時期（子どもの月齢）について、「希望」では、母親は「1歳～1歳6か月未満」が最も多く39.3%、次いで「1歳6か月～2歳未満」が17.9%、「3歳以上」が12.7%となっている。

父親は「6か月未満」が最も多く44.0%、次いで「1歳～1歳6か月未満」が12.0%、「6か月～1歳未満」が4.7%となっている。

「実際」では、母親は「1歳～1歳6か月未満」が最も多く47.0%、次いで「6か月～1歳未満」が27.2%、「1歳6か月～2歳未満」が11.6%となっている。

父親は「6か月未満」が最も多く67.3%、次いで「1歳～1歳6か月未満」が6.0%、「6か月～1歳未満」が6.7%となっている。

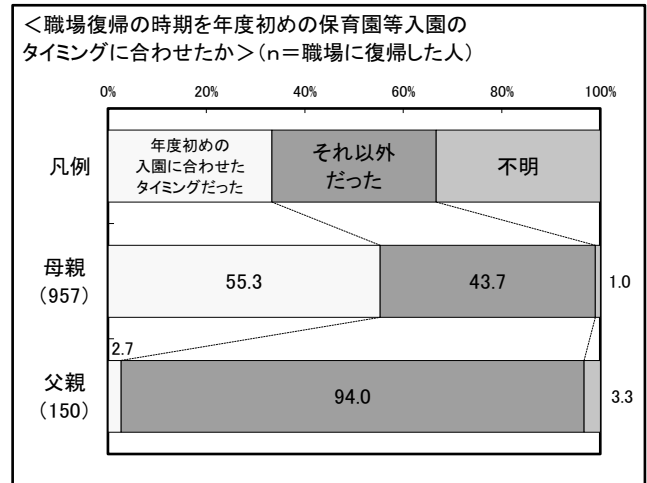
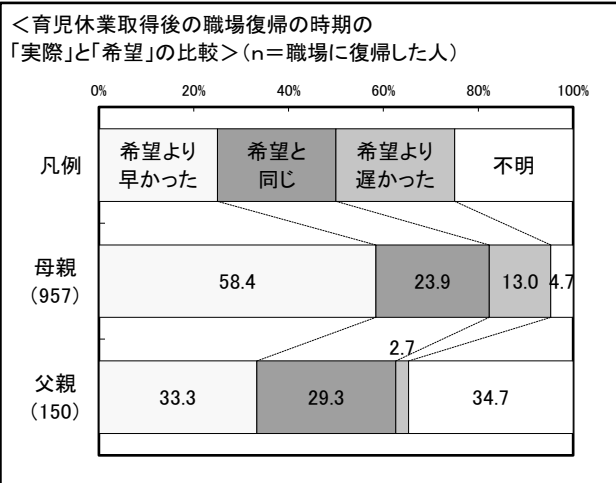


育児休業取得後の職場復帰の時期の「希望」と「実際」の比較について、母親では「希望より早かった」が最も多く58.4%、次いで「希望と同じ」が23.9%、「希望より遅かった」が13.0%となっている。

父親では「希望より早かった」が最も多く33.3%、次いで「希望と同じ」が29.3%、「希望より遅かった」が2.7%となっている。

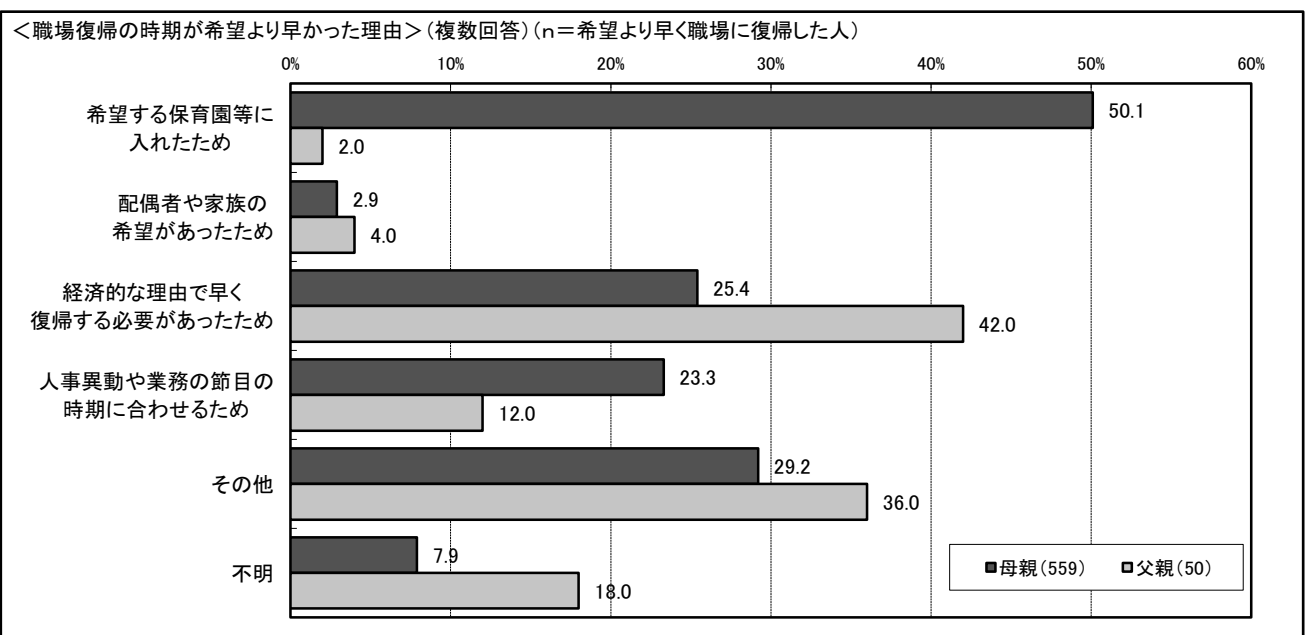
職場復帰の時期を年度初めの保育園等入園のタイミングに合わせたかについて、母親では「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が55.3%、「それ以外だった」が43.7%となっている。

父親では「年度初めの入園に合わせたタイミングだった」が2.7%、「それ以外だった」が94.0%となっている。



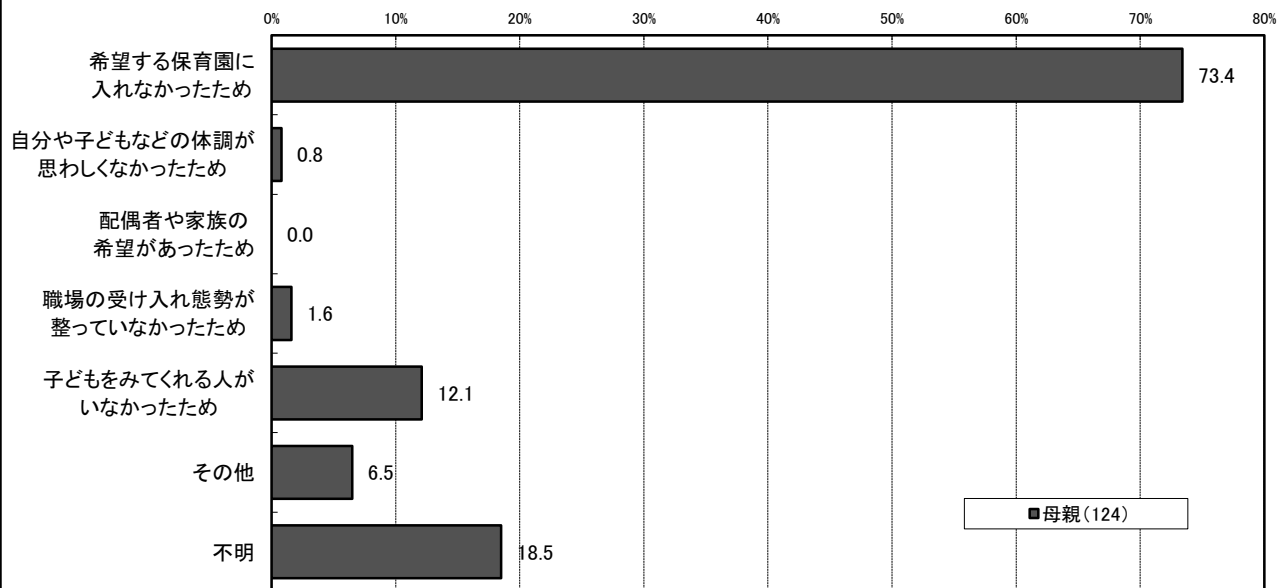
職場復帰の時期が希望より早かった理由について、「その他」を除いて母親では「希望する保育園等に入れたため」が最も多く50.1%、次いで「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が25.4%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が23.3%となっている。

父親では「経済的な理由で早く復帰する必要があったため」が最も多く42.0%、次いで「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が12.0%、「配偶者や家族の希望があったため」が4.0%となっている。



職場復帰の時期が希望より遅かった理由について、母親では「その他」を除いて「希望する保育園等に入れなかったため」が最も多く73.4%、次いで「子どもをみてくれる人がいなかったため」が12.1%、「職場の受け入れ態勢が整っていなかったため」が1.6%となっている。
(父親は該当者が4人と少ないため割愛)

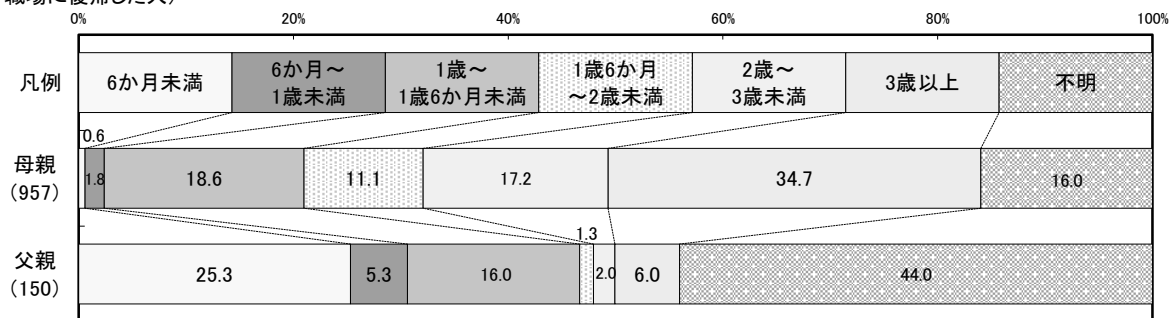
＜職場復帰の時期が希望より遅かった理由＞(複数回答)(n=希望より遅く職場に復帰した人)



勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の希望取得期間(子どもの月齢)について、母親では「3歳以上」が最も多く34.7%、次いで「1歳～1歳6か月未満」が18.6%、「2歳～3歳未満」が17.2%となっている。

父親では「6か月未満」が最も多く25.3%、次いで「1歳～1歳6か月未満」が16.0%、「3歳以上」が6.0%となっている。

＜勤め先に育児のために3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の希望取得期間:子どもの月齢＞
(n=職場に復帰した人)

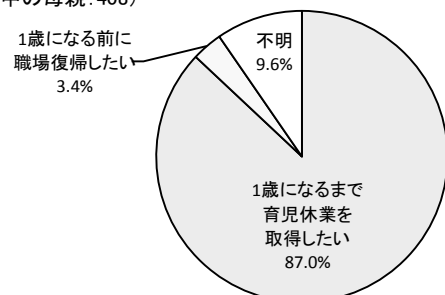


現在も育児休業中である母親のうち、子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業がある場合の育児休業の希望取得期間について、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が87.0%、「1歳になる前に職場復帰したい」が3.4%となっている。

(父親は該当者が11人と少ないため割愛)

＜子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業がある場合の育児休業の希望取得期間＞

(n=育児休業中の母親:408)

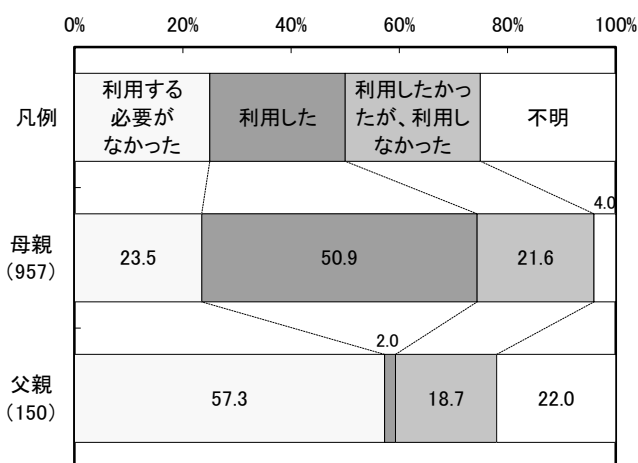


5)短時間勤務制度の利用状況

職場復帰時の短時間勤務制度の利用について、母親では「利用した」が最も多く50.9%、次いで「利用する必要がなかった」が23.5%、「利用したかったが、利用しなかった」が21.6%となっている。

父親では、「利用する必要がなかった」が最も多く57.3%、次いで「利用したかったが、利用しなかった」が18.7%、「利用した」が2.0%となっている。

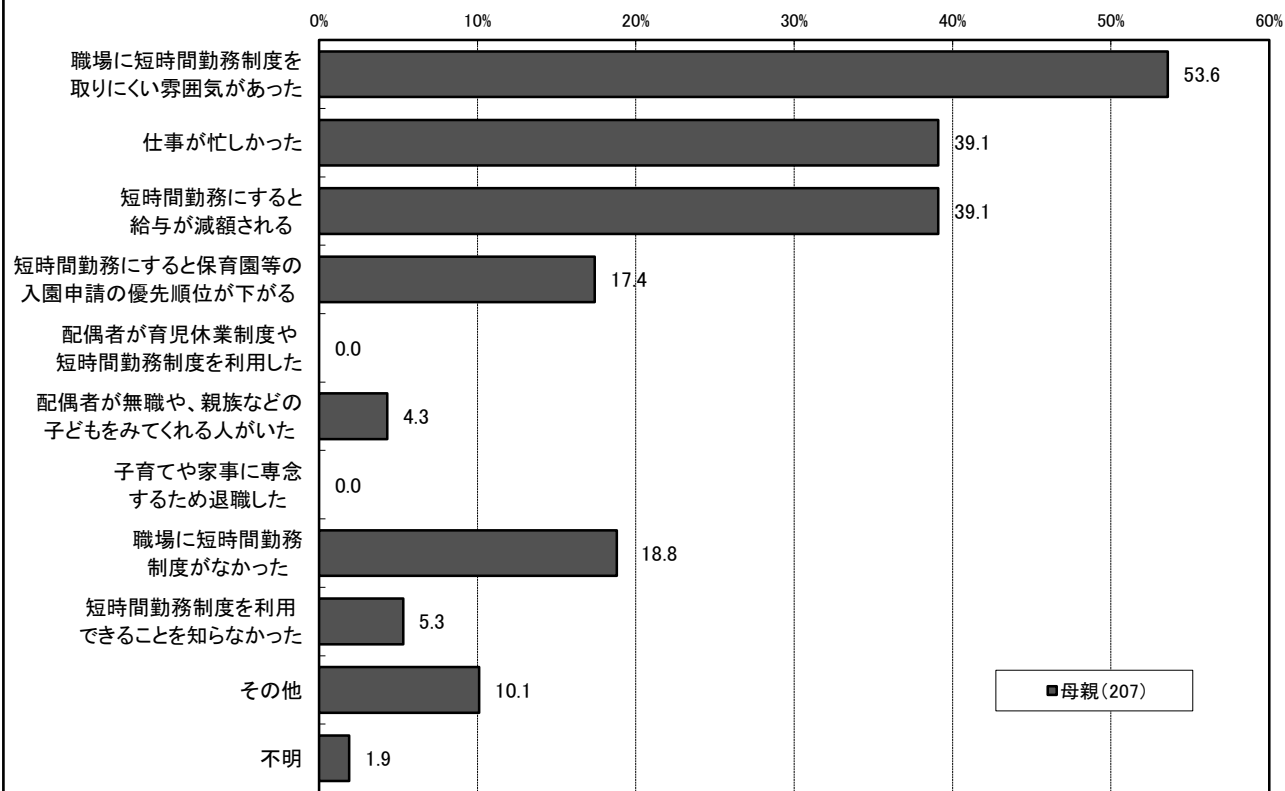
＜職場復帰時の短時間勤務制度の利用＞
(n=職場に復帰した人)



短時間勤務制度を利用しなかった理由について、母親では「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が最も多く53.6%、次いで「仕事が忙しかった」、「短時間勤務にすると給与が減額される」が39.1%となっている。

(父親は該当者が28人と少ないため割愛)

＜短時間勤務制度を利用しなかった理由＞(複数回答)(n=短時間勤務制度を利用しなかった人)



Ⅱ. 定期的な教育・保育事業について(対象:就学前児童)

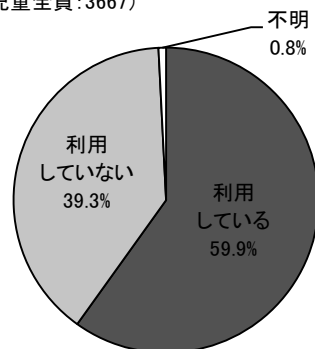
1. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

1) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について、「利用している」が59.9%、「利用していない」が39.3%となっている。

利用している教育・保育事業については、「認可保育園」が最も多く50.9%、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が26.6%、「認定こども園」が13.4%となっている。

＜平日の定期的な教育・保育事業の利用状況＞
(n=就学前児童全員:3667)



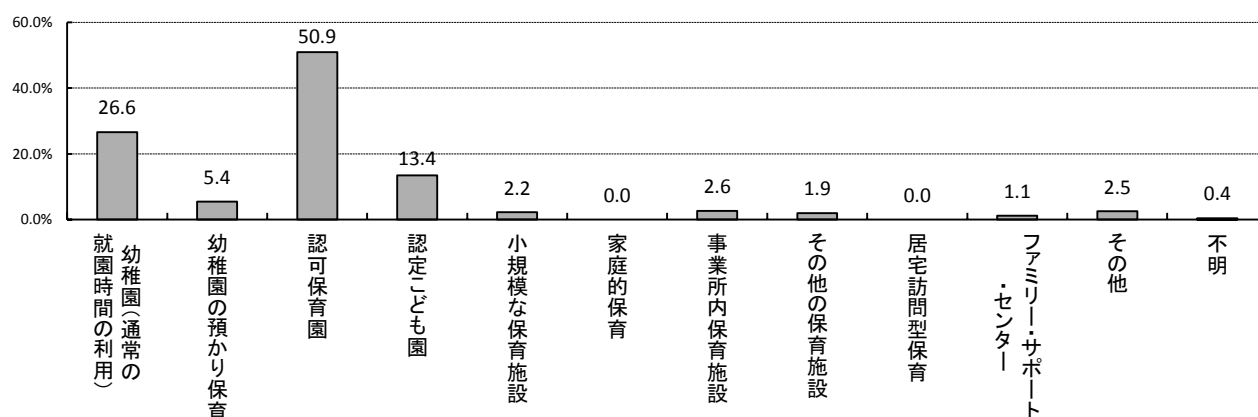
＜平日の定期的な教育・保育事業の利用状況＞

(n=就学前児童全員)

(%)

	全体	利用している	利用していない	不明
就学前児童・計	3667	59.9	39.3	0.8
0歳	1141	23.5	75.6	0.9
1～2歳	1171	55.1	44.2	0.8
3歳以上	1327	95.6	3.7	0.8
不明	28	57.1	42.9	0.0

＜利用している教育・保育事業＞(複数回答)(n=教育・保育事業を利用している人:2197)



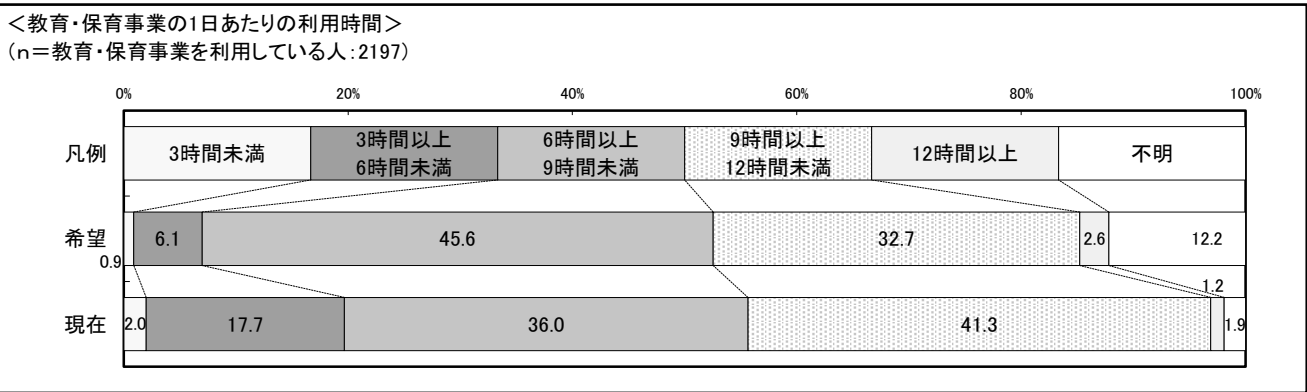
＜利用している教育・保育事業＞(複数回答)(n=教育・保育事業を利用している人)

(%)

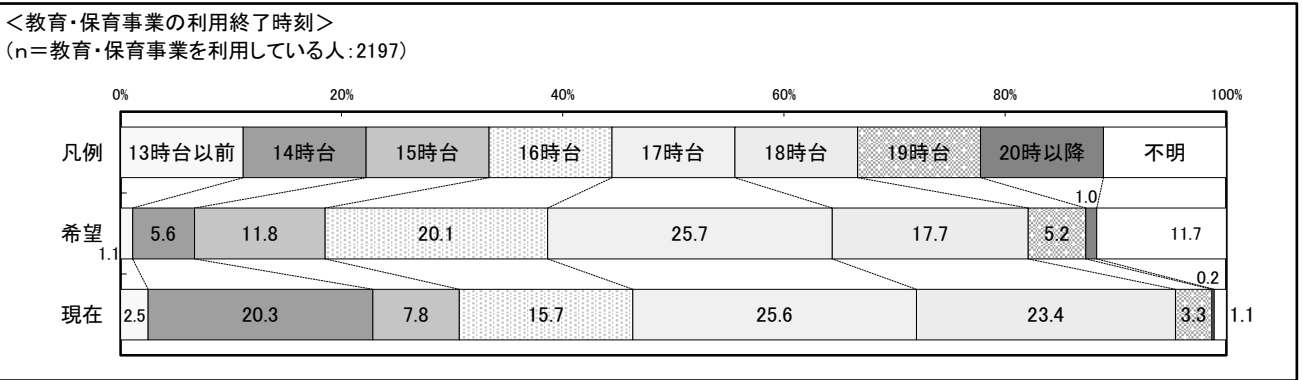
	全体	幼稚園(通常の就園時間の利用)	幼稚園の預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	その他の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・サポート・センター	その他	不明
対象児													
就学前児童・計	2197	26.6	5.4	50.9	13.4	2.2	0.0	2.6	1.9	0.0	1.1	2.5	0.4
0歳	268	0.7	0.7	58.6	14.6	6.0	0.0	9.3	5.6	0.0	3.0	3.4	1.1
1～2歳	645	6.2	1.1	64.3	14.0	4.0	0.2	4.2	2.3	0.0	1.2	4.8	0.3
3歳以上	1268	42.3	8.6	42.6	12.9	0.4	0.0	0.3	0.9	0.0	0.6	1.3	0.3
不明	16	37.5	0.0	43.8	12.5	6.3	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
現在の状況													
フルタイム就労中	775	4.0	2.3	72.3	15.2	1.4	0.0	4.3	1.9	0.0	0.5	1.2	0.6
フルタイムだが休業中	126	6.3	1.6	65.1	16.7	3.2	0.0	0.0	4.0	0.0	0.8	3.2	1.6
パート・アルバイト等就労中	744	22.7	8.9	54.8	12.2	3.6	0.0	3.1	1.9	0.0	0.7	1.6	0.1
パート・アルバイト等だが休業中	50	12.0	2.0	62.0	18.0	2.0	0.0	2.0	2.0	0.0	2.0	2.0	0.0
以前は就労、現在は就労していない	459	75.4	5.4	6.8	10.0	0.9	0.2	0.0	1.1	0.0	2.6	5.7	0.2
就労経験なし	27	66.7	11.1	3.7	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.4	0.0
不明	16	37.5	18.8	37.5	18.8	6.3	0.0	0.0	6.3	0.0	6.3	12.5	0.0

2) 平日の定期的な教育・保育事業の利用時間、場所

平日の定期的な教育・保育事業の1日あたりの利用時間について、「希望」では「6時間以上9時間未満」が最も多く45.6%、「現在」では「9時間以上12時間未満」が最も多く41.3%となっている。



教育・保育事業の利用終了時刻について、「希望」、「現在」とともに「17時台」が最も多く、それぞれ「希望」が25.7%、「現在」が25.6%となっている。



現在利用している教育・保育事業の利用場所について、「居住している区内」が84.6%、「居住区外」が14.7%となっている。

＜教育・保育事業の利用場所＞(n=教育・保育事業を利用している人) (%)

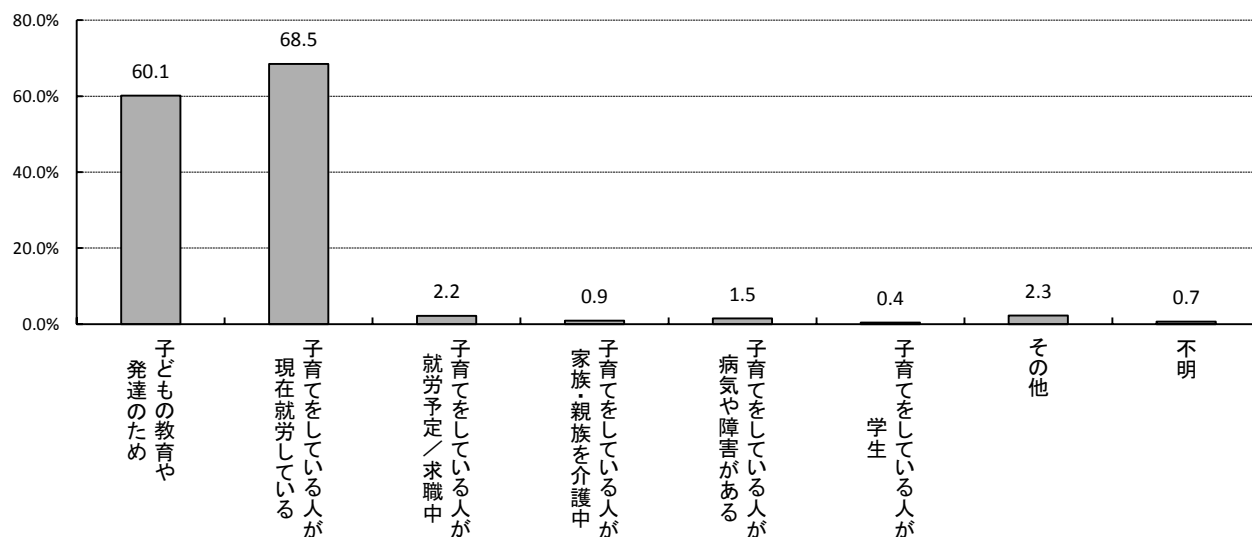
	全体	い 居 る 住 区 し 内 て	居 住 区 外	不 明
計	2197	84.6	14.7	0.6
幼稚園(通常の就園時間の利用)	584	79.6	19.9	0.5
幼稚園の預かり保育	118	82.2	16.9	0.8
認可保育園	1119	90.4	9.0	0.5
認定こども園	294	86.1	13.3	0.7
小規模保育施設	48	79.2	20.8	0.0
家庭的保育	1	100.0	0.0	0.0
事業所内保育施設	57	59.6	40.4	0.0
その他の保育施設	41	65.9	34.1	0.0
居宅訪問型保育	0	0.0	0.0	0.0
ファミリー・サポート・センター	24	87.5	12.5	0.0
その他	56	58.9	41.1	0.0

※複数回答のため、全体と各施設利用者の計は一致しない。

3) 平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由

平日の定期的な教育・保育事業を利用している理由について、「その他」を除いて「子育てをしている人が現在就労している」が最も多く68.5%、次いで「子どもの教育や発達のため」が60.1%、「子育てをしている人が就労予定／求職中」が2.2%となっている。

＜教育・保育事業を利用している理由＞（複数回答）（n＝教育・保育事業を利用している人：2197）



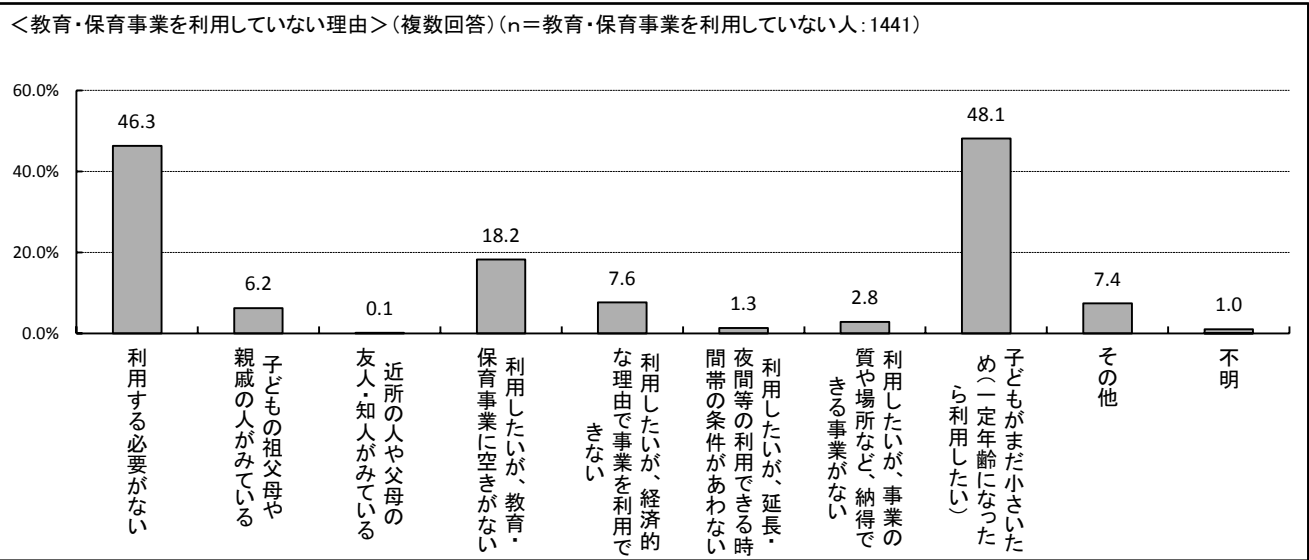
＜教育・保育事業を利用している理由＞（複数回答）（n＝教育・保育事業を利用している人）

(%)

		全体	子どもの教育や発達	子育てをしている人が現在就労している人	子育てをしている人が就労予定／求職中	子育てをしている人が家族・親族を介護中	子育てをしている人が病気や障害がある人	子育てをしている人が学生	その他	不明
対象児 年齢	就学前児童・計	2197	60.1	68.5	2.2	0.9	1.5	0.4	2.3	0.7
	0歳	268	37.3	85.1	2.6	1.1	1.9	0.7	4.1	1.1
	1～2歳	645	49.1	83.1	3.4	0.9	1.6	0.3	3.6	0.5
	3歳以上	1268	70.5	57.6	1.5	0.8	1.5	0.3	1.3	0.7
	不明	16	56.3	62.5	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
現在利用している事業	幼稚園（通常の就園時間の利用）	584	96.2	20.0	1.9	0.3	0.7	0.3	1.7	0.9
	幼稚園の預かり保育	118	87.3	61.0	2.5	0.8	1.7	0.0	0.8	0.8
	認可保育園	1119	44.1	92.3	2.5	1.0	1.9	0.3	1.5	0.4
	認定こども園	294	57.8	73.1	3.1	0.7	2.0	0.7	2.4	0.3
	小規模保育施設	48	31.3	85.4	2.1	2.1	2.1	2.1	6.3	0.0
	家庭的保育	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	事業所内保育施設	57	36.8	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他の保育施設	41	56.1	68.3	2.4	0.0	0.0	0.0	17.1	2.4
	居宅訪問型保育	0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	ファミリー・サポート・センター	24	70.8	41.7	0.0	4.2	12.5	0.0	12.5	0.0
	その他	56	83.9	33.9	0.0	5.4	3.6	0.0	8.9	1.8

4) 平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由

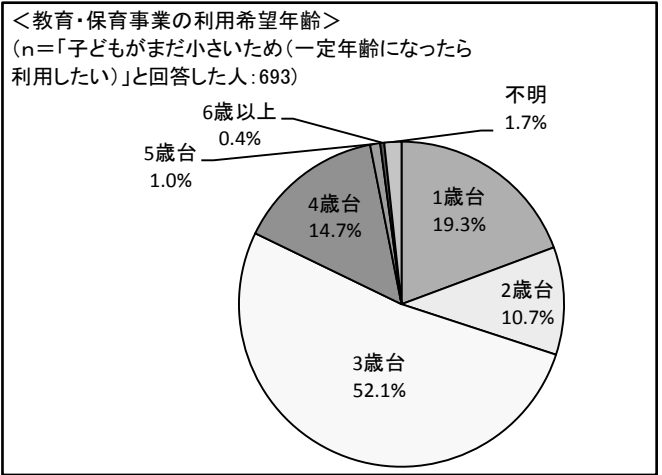
平日の定期的な教育・保育事業を利用していない理由について、「子どもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）」が最も多く48.1%、次いで「利用する必要がない」が46.3%、「利用したいが、教育・保育事業に空きがない」が18.2%となっている。



＜教育・保育事業を利用していない理由＞（複数回答）（n＝教育・保育事業を利用していない人） (%)

		全体	利用する必要がない	子どもの祖父母や親戚の人がみている	近所の人や父母の友人・知人がみている	利用したいが、教育・保育事業に空きがない	利用したいが、経済的な理由で事業を利用できない	間帯の条件があわない	利用したいが、延長・夜間等の利用できない	子どもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）	その他	不明
対象児 年齢	就学前児童・計	1441	46.3	6.2	0.1	18.2	7.6	1.3	2.8	48.1	7.4	1.0
	0歳	863	42.6	5.9	0.1	20.6	6.0	1.0	2.3	51.1	5.0	1.0
	1～2歳	517	51.5	7.0	0.2	14.9	9.7	1.5	3.7	45.1	11.0	0.6
	3歳以上	49	57.1	4.1	0.0	6.1	14.3	2.0	2.0	30.6	12.2	6.1
	不明	12	41.7	8.3	0.0	33.3	8.3	8.3	8.3	33.3	8.3	0.0

利用していない理由として「子どもがまだ小さいため（一定年齢になったら利用したい）」と回答した人の利用希望年齢について、「3歳台」が最も多く52.1%。次いで「1歳台」が19.3%、「4歳台」が14.7%となっている。



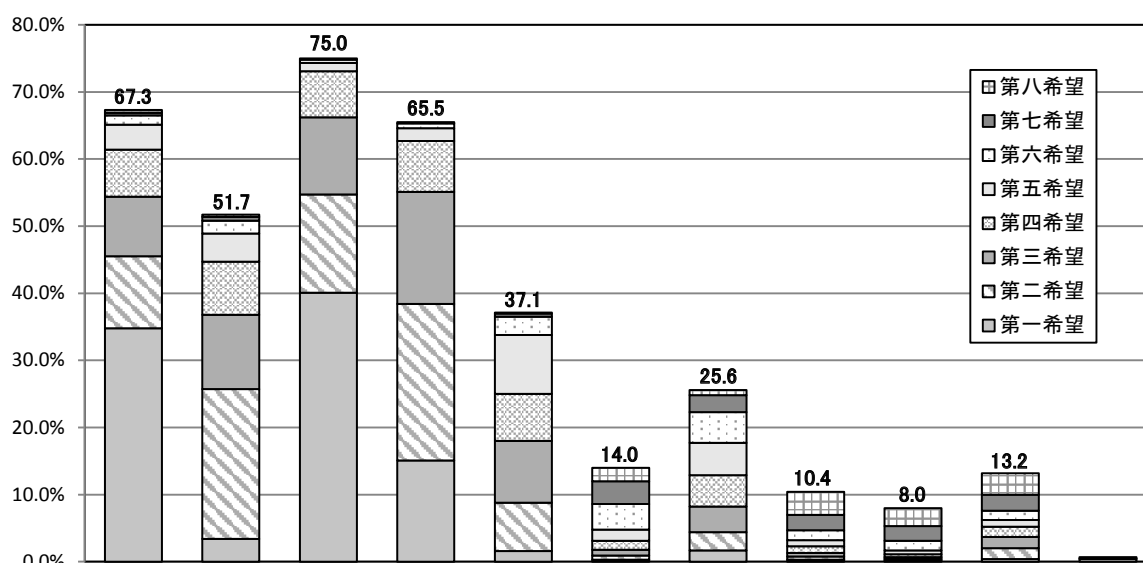
2. 平日の定期的な教育・保育事業の利用希望

現在の利用の有無にかかわらず、定期的に利用したい教育・保育事業について、第一希望では「認可保育園」が最も多く40.1%、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が34.8%、「認定こども園」が15.1%となっている。

第一希望から第八希望までの合算値をみると、「認可保育園」が最も多く75.0%、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が67.3%、「認定こども園」が65.5%となっている。

＜現在の利用の有無にかかわらず、定期的に利用したい教育・保育事業＞

(n=就学前児童全員:3667)



(%)

	幼稚園（通常の就園時間の利用）	預かり保育	認可保育園	認定こども園	小規模な保育施設	家庭的保育	事業所内保育施設	その他の保育施設	居宅訪問型保育	ファミリー・センター	その他	不明
第一希望	34.8	3.4	40.1	15.1	1.6	0.3	1.7	0.3	0.1	0.4	0.4	1.9
第二希望	10.7	22.3	14.6	23.3	7.2	0.6	2.7	0.5	0.3	1.6	0.1	16.0
第三希望	8.9	11.1	11.5	16.7	9.2	0.9	3.8	0.5	0.3	1.7	0.2	35.1
第四希望	7.0	7.9	6.9	7.6	7.0	1.3	4.7	1.0	0.4	1.5	0.0	54.7
第五希望	3.7	4.2	1.2	1.9	8.8	1.7	4.8	0.9	0.6	1.0	0.0	71.3
第六希望	1.4	1.9	0.5	0.7	2.7	3.8	4.6	1.5	1.4	1.4	0.0	80.1
第七希望	0.4	0.6	0.2	0.2	0.5	3.4	2.5	2.3	2.2	2.4	0.0	85.3
第八希望	0.4	0.3	0.0	0.0	0.1	2.0	0.8	3.4	2.7	3.2	0.0	86.8
合計	67.3	51.7	75.0	65.5	37.1	14.0	25.6	10.4	8.0	13.2		

年齢別の定期的に利用したい教育・保育事業の第一希望について、0歳では「認可保育園」が最も多く47.8%、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が27.7%、「認定こども園」が12.9%となっている。

1～2歳では「認可保育園」が最も多く39.2%、次いで「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が34.7%、「認定こども園」が17.6%となっている。

3歳以上では「幼稚園（通常の就園時間の利用）」が最も多く41.1%、次いで「認可保育園」が34.3%、「認定こども園」が14.8%となっている。

<定期的に利用したい教育・保育事業の第一希望> (n=現在利用している人)

(%)

		全 体	の 幼 利 稚 用 園 （ 通 常 の 就 園 時 間	幼 稚 園 の 預 か り 保 育	認 可 保 育 園	認 定 こ ど も 園	小 規 模 保 育 施 設	家 庭 的 保 育	事 業 所 内 保 育 施 設	そ の 他 の 保 育 施 設	居 宅 訪 問 型 保 育	セ ン タ ー ・ サ ポ ー ト ・	そ の 他	不 明
年 齢 別	就学前児童・計	3667	34.8	3.4	40.1	15.1	1.6	0.3	1.7	0.3	0.1	0.4	0.4	1.9
	0歳	1141	27.7	2.8	47.8	12.9	2.5	0.4	2.8	0.3	0.1	0.7	0.4	1.6
	1～2歳	1171	34.7	3.2	39.2	17.6	1.5	0.3	1.4	0.3	0.1	0.3	0.2	1.4
	3歳以上	1327	41.1	4.1	34.3	14.8	1.0	0.1	0.9	0.3	0.2	0.2	0.5	2.6
	不明	28	28.6	3.6	39.3	14.3	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	3.6	7.1

教育・保育事業の利用希望場所について、「居住している区内」が91.5%、「居住区外」が4.4%となっている。

<教育・保育事業の利用希望場所> (n=就学前児童全員)

(%)

		全 体	い 居 る 住 区 し 内 て	居 住 区 外	不 明
「 定 期 的 に 業 利 用 し た い 第 一 希 望 」 別 教 育 ・ 保 育	計	3667	91.5	4.4	4.1
	幼稚園（通常の就園時間の利用）	1275	91.0	5.6	3.4
	幼稚園の預かり保育	125	92.8	4.0	3.2
	認可保育園	1470	94.6	2.9	2.6
	認定こども園	554	92.8	5.2	2.0
	小規模保育施設	59	94.9	3.4	1.7
	家庭的保育	10	80.0	—	20.0
	事業所内保育施設	61	78.7	13.1	8.2
	その他の保育施設	10	80.0	20.0	—
	居宅訪問型保育	4	50.0	25.0	25.0
	ファミリー・サポート・センター	14	92.9	—	7.1
	その他	14	85.7	7.1	7.1
	不明	71	39.4	1.4	59.2

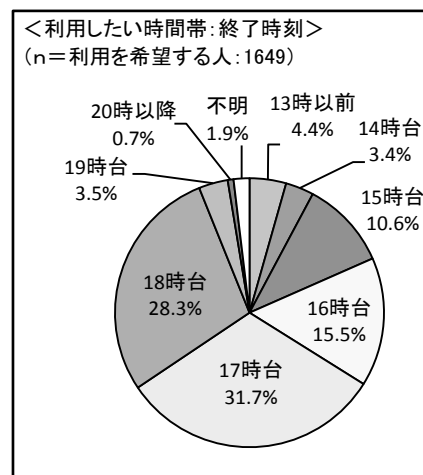
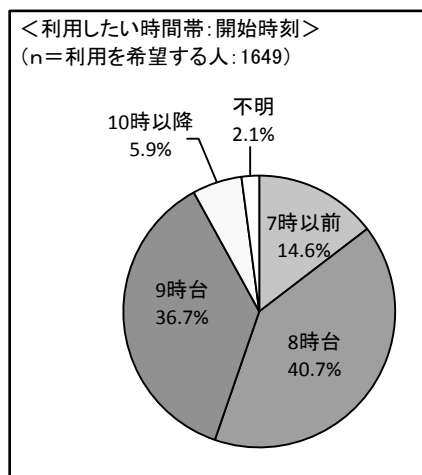
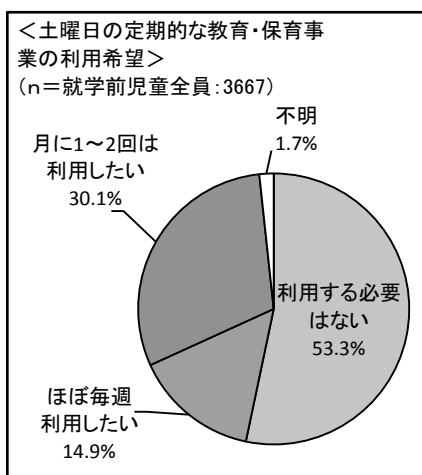
3. 土日祝、長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望

1) 土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望

土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、「利用する必要はない」が最も多く53.3%、次いで「月に1～2回は利用したい」が30.1%、「ほぼ毎週利用したい」が14.9%となっている。

利用したい時間帯について、開始時刻では「8時台」が最も多く40.7%、次いで「9時台」が36.7%、「7時以前」が14.6%となっている。

終了時刻では「17時台」が最も多く31.7%、次いで「18時台」が28.3%、「16時台」が15.5%となっている。



＜土曜日の定期的な教育・保育事業の利用希望＞(n=就学前児童全員) (%)

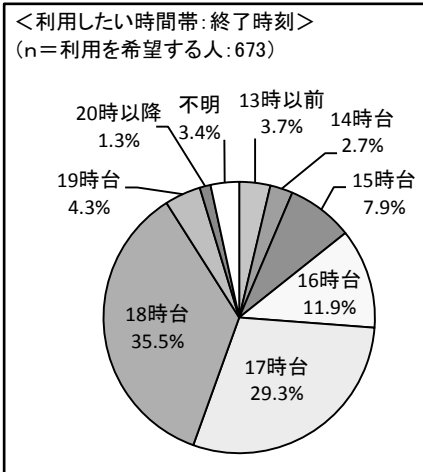
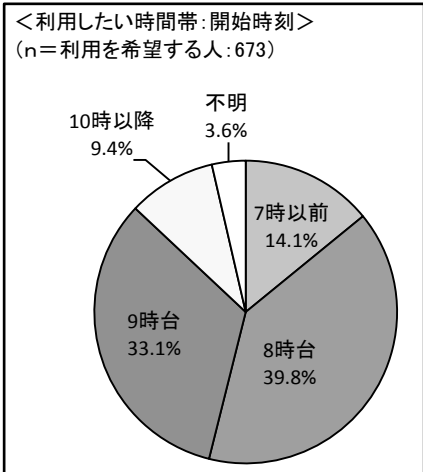
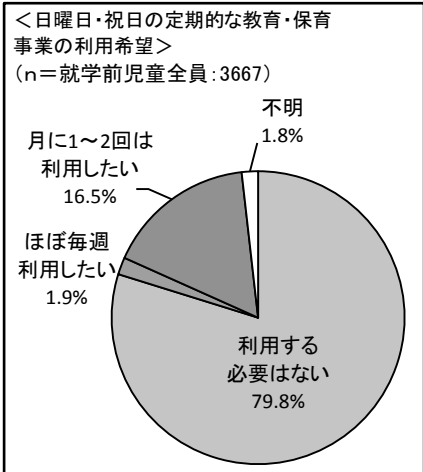
	全体	利用する必要はない	ほぼ毎週利用したい	月に1～2回は利用したい	不明
就学前児童・計	3667	53.3	14.9	30.1	1.7
0歳	1141	58.9	11.7	27.7	1.7
1～2歳	1171	50.6	16.7	30.9	1.7
3歳以上	1327	51.0	16.1	31.0	1.9
不明	28	42.9	10.7	46.4	0.0

2) 日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望

日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望について、「利用する必要はない」が最も多く79.8%、次いで「月に1～2回は利用したい」が16.5%、「ほぼ毎週利用したい」が1.9%となっている。

利用したい時間帯について、開始時刻では「8時台」が最も多く39.8%、次いで「9時台」が33.1%、「7時以前」が14.0%となっている。

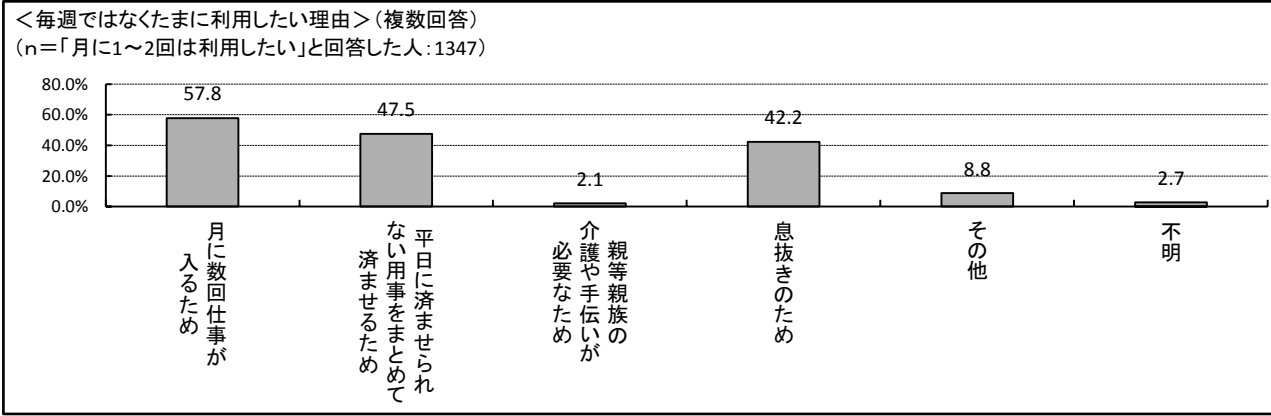
終了時刻では「18時台」が最も多く35.5%、次いで「17時台」が29.3%、「16時台」が11.9%となっている。



＜日曜日・祝日の定期的な教育・保育事業の利用希望＞(n=就学前児童全員) (%)

	全体	利用 する 必要 はない	ほ ぼ 毎 週 利 用 し た い	し 月 た に い 1 ～ 2 回 は 利 用	不 明
就学前児童・計	3667	79.8	1.9	16.5	1.8
0歳	1141	82.1	2.4	13.8	1.7
1～2歳	1171	77.7	2.3	18.3	1.7
3歳以上	1327	79.9	1.1	16.9	2.1
不明	28	71.4	0.0	28.6	0.0

「月に1～2回は利用したい」と回答した人の、毎週ではなくたまに利用したい理由について、「月に数回仕事が入るため」が最も多く57.8%、次いで「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が47.5%、「息抜きのため」が42.2%となっている。

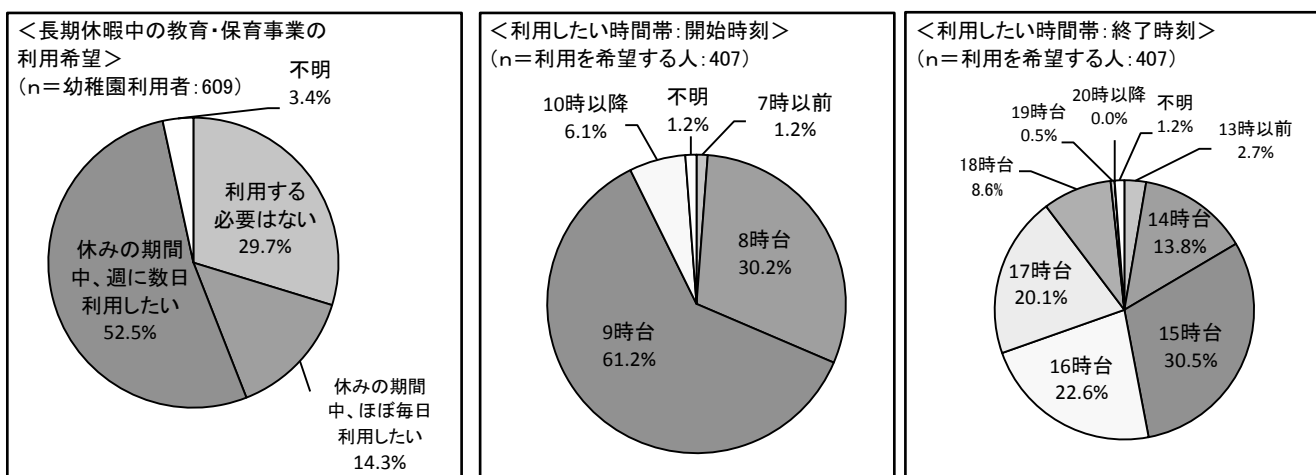


3) 幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望

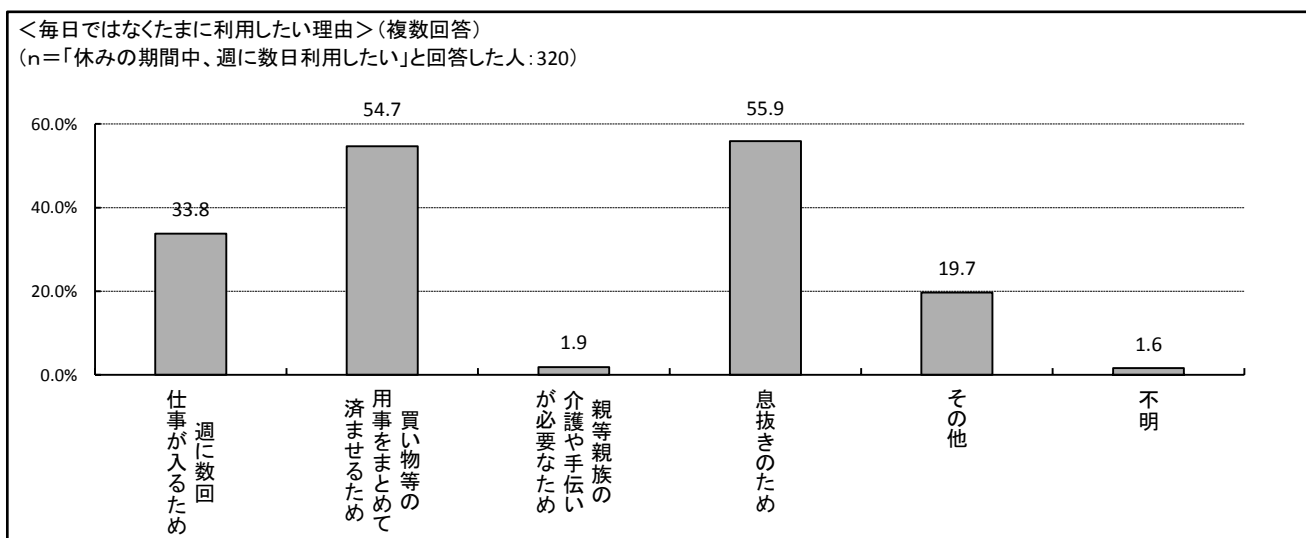
幼稚園利用者の長期休暇中の教育・保育事業の利用希望について、「休みの期間中、週に数日利用したい」が最も多く52.5%、次いで「利用する必要はない」が29.7%、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が14.3%となっている。

利用したい時間帯について、開始時刻では「9時台」が最も多く61.2%、次いで「8時台」が30.2%、「10時以降」が6.1%となっている。

終了時刻では「15時台」が最も多く30.5%、次いで「16時台」が22.6%、「17時台」が20.1%となっている。



「休みの期間中、週に数日利用したい」と回答した人の、毎日ではなくたまに利用したい理由について、「息抜きのため」が最も多く55.9%、次いで「買い物等の用事をまとめて済ませるため」が54.7%、「週に数回仕事が入るため」が33.8%となっている。

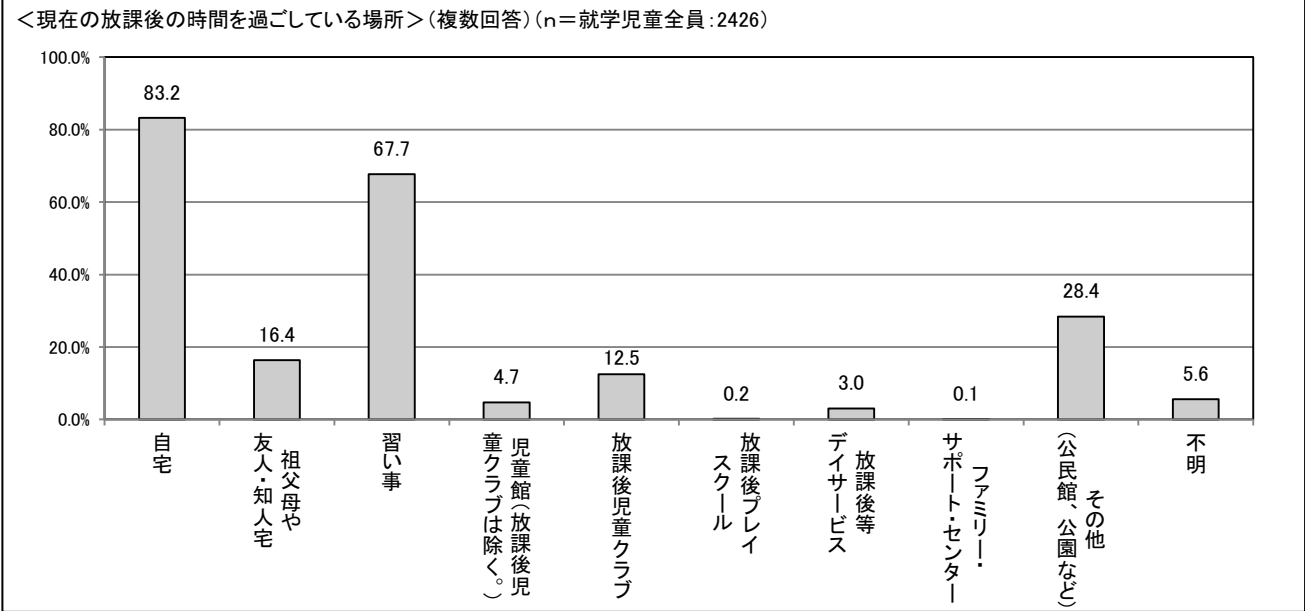


Ⅲ. 放課後の過ごし方、病児・病後児保育、一時預かり等について

1. 現在の放課後の時間を過ごしている場所(対象:就学児童)

現在の放課後の時間を過ごしている場所について、「自宅」が最も多く83.2%、次いで「習い事」が67.7%、「その他（公民館、公園など）」が28.4%となっている。また、「放課後児童クラブ」は12.5%となっている。

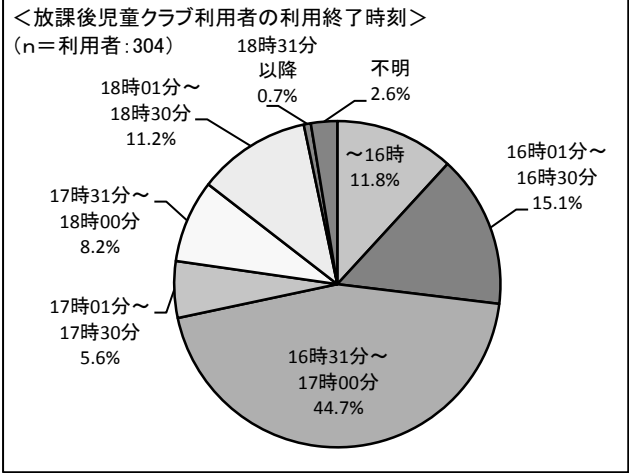
なお、母親がフルタイムで就労している人のうち、24.2%が「放課後児童クラブ」と回答している。



＜現在の放課後の時間を過ごしている場所＞(複数回答)(n=就学児童全員) (%)

		全体 (人)	自宅	祖父母や友人・知人宅	習い事	児童館(放課後児童クラブは除く)	放課後児童クラブ	放課後プレイスクール	放課後等デイサービス	サポート・センター・ファミリー	その他(公民館、公園など)	不明
母の就労状況	就学児童・計	2426	83.2	16.4	67.7	4.7	12.5	0.2	3.0	0.1	28.4	5.6
	フルタイム	694	71.2	15.7	63.1	3.6	24.2	0.3	1.9	0.1	16.9	11.1
	パート・アルバイト等	1079	85.5	16.2	66.4	5.3	11.5	0.3	3.0	0.1	31.1	4.3
	無業	622	92.9	17.5	75.4	5.1	1.6	0.0	4.0	0.2	37.0	1.1
	不明	31	74.2	12.9	64.5	0.0	6.5	0.0	6.5	0.0	22.6	16.1

放課後児童クラブ利用者の利用終了時刻について、「16時31分～17時00分」が最も多く44.7%、次いで「16時01分～16時30分」が15.1%、「～16時」が11.8%となっている。



現在の放課後の時間を過ごしている場所別の1週あたりの日数（平均）について、「自宅」が3.7日、「習い事」が2.5日、「その他（公民館、公園など）」が2.1日となっている。また、「放課後児童クラブ」は3.6日となっている。

<現在の放課後の時間を過ごしている場所別の1週あたりの日数>

(n=就学児童全員:2426)

上段:件数/下段:%	平均 日数 (日)	1 日 未 満	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	*		不 明
								6 日	7 日	
自宅	3.7	0	269	321	311	222	694	37	139	25
		0.0	13.3	15.9	15.4	11.0	34.4	1.8	6.9	1.2
祖父母や友人・知人宅	2.0	1	213	88	24	13	40	6	5	7
		0.3	53.7	22.2	6.0	3.3	10.1	1.5	1.3	1.8
習い事	2.5	0	430	483	406	186	93	20	7	18
		0.0	26.2	29.4	24.7	11.3	5.7	1.2	0.4	1.1
児童館(放課後児童クラブは除く。)	1.6	3	63	25	12	3	2	0	0	6
		2.6	55.3	21.9	10.5	2.6	1.8	0.0	0.0	5.3
放課後児童クラブ	3.6	1	26	37	66	85	76	6	0	7
		0.3	8.6	12.2	21.7	28.0	25.0	2.0	0.0	2.3
放課後プレースクール	4.0	0	1	0	0	0	3	0	0	1
		0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	0.0	20.0
放課後等デイサービス	3.2	1	12	17	12	10	10	9	0	1
		1.4	16.7	23.6	16.7	13.9	13.9	12.5	0.0	1.4
ファミリー・サポート・センター	1.0	0	1	0	0	0	0	0	0	2
		0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
その他(公民館、公園など)	2.1	2	295	183	102	48	41	6	4	9
		0.3	42.8	26.5	14.8	7.0	5.9	0.9	0.6	1.3

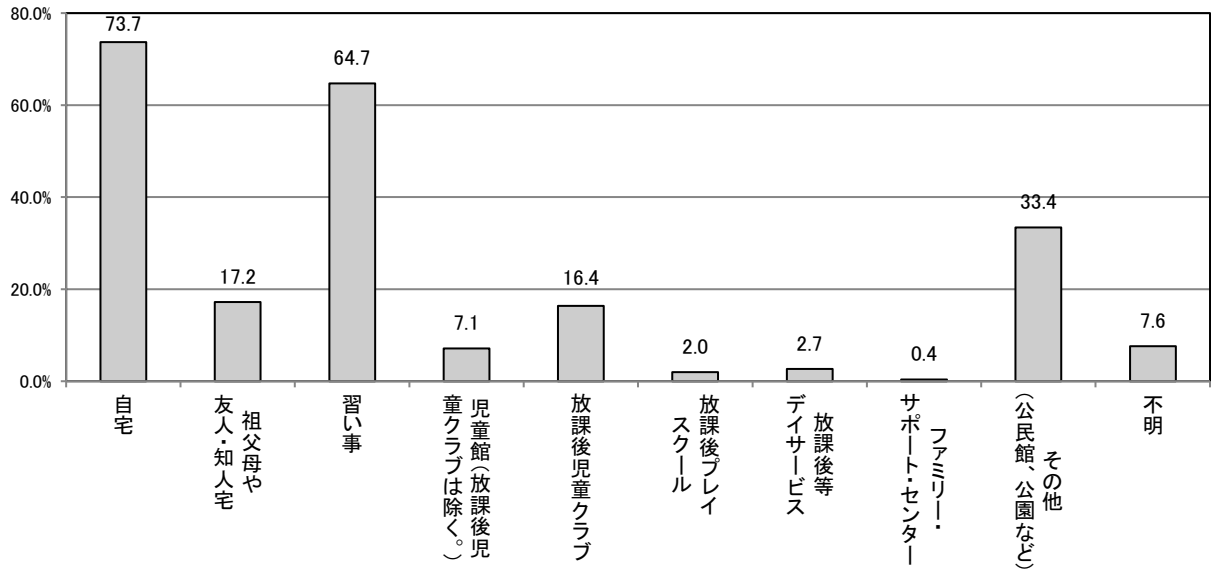
*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

2. 放課後の時間を過ごさせたい場所(対象:就学児童)

放課後の時間を過ごさせたい場所について、「自宅」が最も多く73.7%、次いで「習い事」が64.7%、「その他（公民館、公園など）」が33.4%となっている。また、「放課後児童クラブ」は16.4%となっている。

なお、母親がフルタイムで就労している人のうち、28.7%が「放課後児童クラブ」と回答している。

＜放課後の時間を過ごさせたい場所＞(複数回答)(n=就学児童全員:2426)



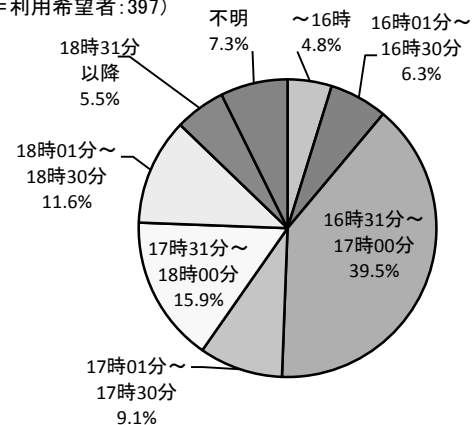
＜放課後の時間を過ごさせたい場所＞(複数回答)(n=就学児童全員)

(%)

		全体 (人)	自宅	祖父母や友人・知人宅	習い事	児童館(放課後児童クラブは除く)	放課後児童クラブ	放課後プレイスクール	放課後等デイサービス	ファミリー・サポート・センター	その他 (公民館、公園など)	不明
母の就労状況	就学児童・計	2426	73.7	17.2	64.7	7.1	16.4	2.0	2.7	0.4	33.4	7.6
	フルタイム	694	62.4	16.4	59.4	5.8	28.7	1.9	1.7	0.4	21.6	9.9
	パート・アルバイト等	1079	76.9	16.9	63.9	8.0	14.0	1.9	2.5	0.5	36.3	6.5
	無業	622	81.5	19.0	72.5	7.2	7.1	2.1	4.2	0.2	42.1	5.8
	不明	31	58.1	9.7	51.6	3.2	9.7	3.2	0.0	0.0	22.6	29.0

放課後児童クラブ利用希望者の利用終了時刻について、「16時31分～17時00分」が最も多く39.5%、次いで「17時31分～18時00分」が15.9%、「18時01分～18時30分」が11.6%となっている。

＜放課後児童クラブ利用希望者の利用終了時刻＞
(n=利用希望者:397)



放課後の時間を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数（平均）について、「自宅」が3.4日、「習い事」が2.4日、「その他（公民館、公園など）」が2.3日となっている。また、「放課後児童クラブ」は3.6日となっている。

＜放課後の時間を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数＞

(n=就学児童全員:2426)

上段:件数/下段:%	平均 日数 (日)						*	*	不明
		1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	
自宅	3.4	248	381	324	154	525	15	93	48
		13.9	21.3	18.1	8.6	29.4	0.8	5.2	2.7
祖父母や友人・知人宅	1.9	220	104	34	6	33	6	2	12
		52.8	24.9	8.2	1.4	7.9	1.4	0.5	2.9
習い事	2.4	359	549	425	130	59	8	1	38
		22.9	35.0	27.1	8.3	3.8	0.5	0.1	2.4
児童館(放課後児童クラブは除く。)	1.7	92	48	16	4	7	0	0	5
		53.5	27.9	9.3	2.3	4.1	0.0	0.0	2.9
放課後児童クラブ	3.6	24	63	101	57	134	9	0	9
		6.0	15.9	25.4	14.4	33.8	2.3	0.0	2.3
放課後ブレイスクール	2.3	16	16	6	1	8	0	0	1
		33.3	33.3	12.5	2.1	16.7	0.0	0.0	2.1
放課後等デイサービス	3.3	6	18	13	10	10	6	0	2
		9.2	27.7	20.0	15.4	15.4	9.2	0.0	3.1
ファミリー・サポート・センター	2.4	3	4	0	0	1	1	0	0
		33.3	44.4	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0
その他(公民館、公園など)	2.3	252	258	166	45	58	3	5	24
		31.1	31.8	20.5	5.5	7.2	0.4	0.6	3.0

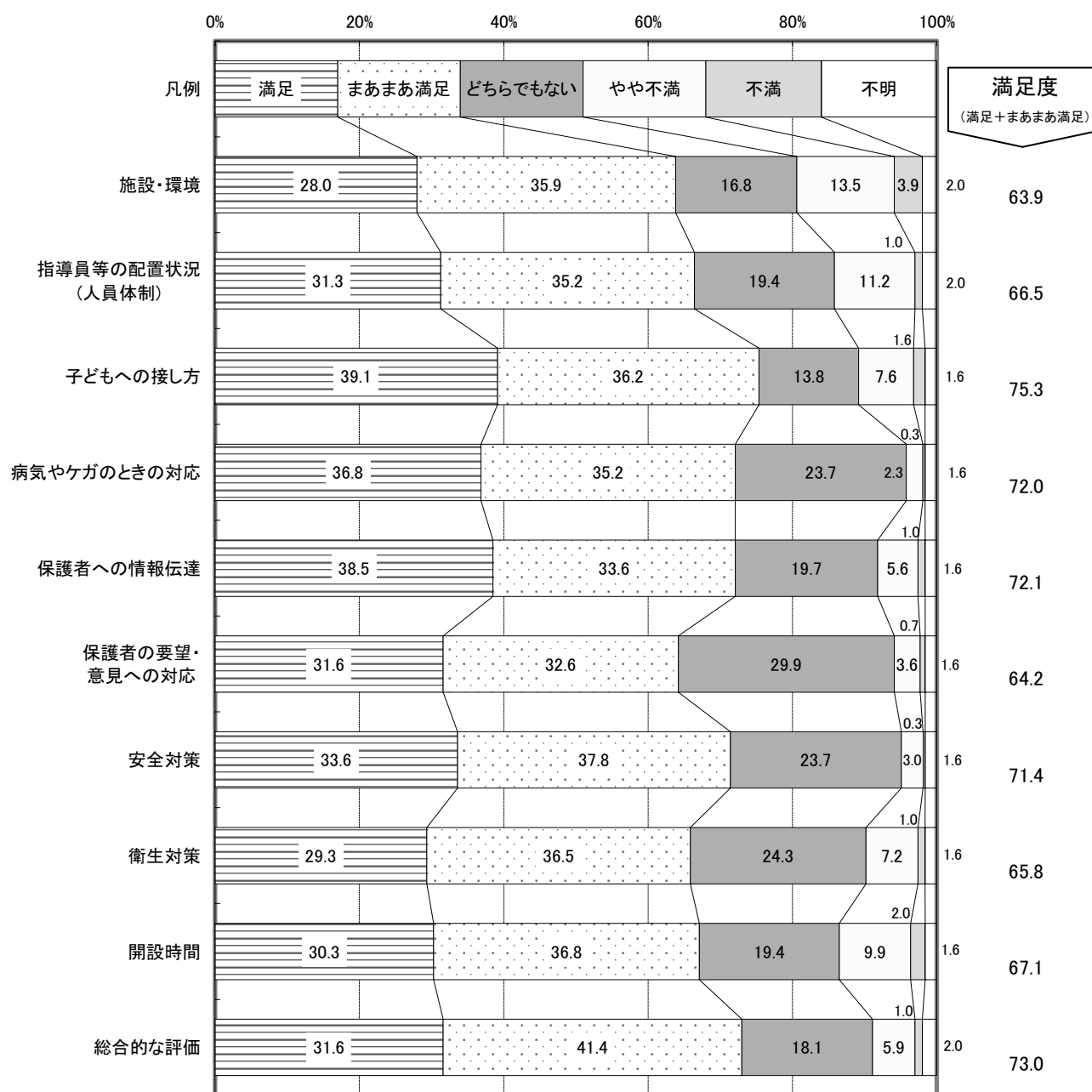
*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

3. 放課後児童クラブの利用状況(対象:就学児童)

1) 放課後児童クラブの満足度

放課後児童クラブの満足度について、満足度が高い（「満足」＋「まあまあ満足」）項目は、「子どもへの接し方」が最も多く75.3%、次いで「総合的な評価」が73.0%、「保護者への情報伝達」が72.1%となっている。

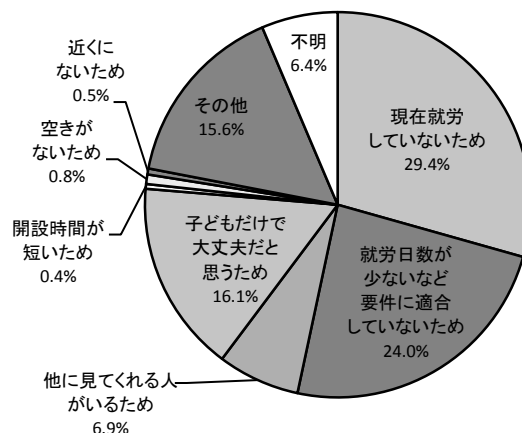
＜放課後児童クラブの満足度＞（n＝利用者：304）



2)放課後児童クラブを利用していない理由

放課後児童クラブを利用していない理由について、「現在就労していないため」が最も多く29.4%、次いで「就労日数が少ないなど要件に適合していないため」が24.0%、「子どもだけで大丈夫だと思うため」が16.1%となっている。

＜放課後児童クラブを利用していない理由＞
(n＝利用していない人：1987)



母親がフルタイムで就労している人の放課後児童クラブを利用していない理由について、「子どもだけで大丈夫だと思うため」が最も多く38.8%となっている。

母親がパート・アルバイト等で就労している人の放課後児童クラブを利用していない理由について、「就労日数が少ないなど要件に適合していないため」が最も多く50.4%となっている。

＜放課後児童クラブを利用していない理由＞(n＝利用していない人)

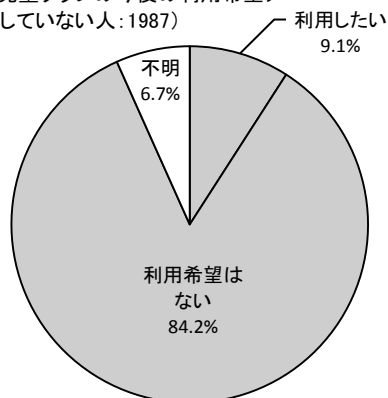
(%)

		全体 (人)	現在 就労 してい ない ため	に就 適 合 日 数 が い 少 な い た め ど 要 件	い他 るに た見 て く れ る 人 が	だ子 ども も だ う だ け た め で 大 丈 夫	開 設 時 間 が 短 い た め	空 き が な い た め	近 く に な い た め	そ の 他	不 明
母 の 就 労 状 況	就学児童・計	1987	29.4	24.0	6.9	16.1	0.4	0.8	0.5	15.6	6.4
	フルタイム	449	4.2	2.9	16.3	38.8	0.9	2.0	1.1	25.2	8.7
	パート・アルバイト等	909	3.4	50.4	6.1	15.6	0.3	0.7	0.4	17.7	5.4
	無業	605	87.6	0.2	0.8	0.2	0.0	0.2	0.0	5.1	6.0
	不明	24	20.8	20.8	16.7	12.5	0.0	0.0	0.0	16.7	12.5

3) 放課後児童クラブの今後の利用希望

放課後児童クラブを利用していない人の今後の利用希望について、「利用したい」が9.1%、「利用希望はない」が84.2%となっている。

＜放課後児童クラブの今後の利用希望＞
(n=利用していない人:1987)



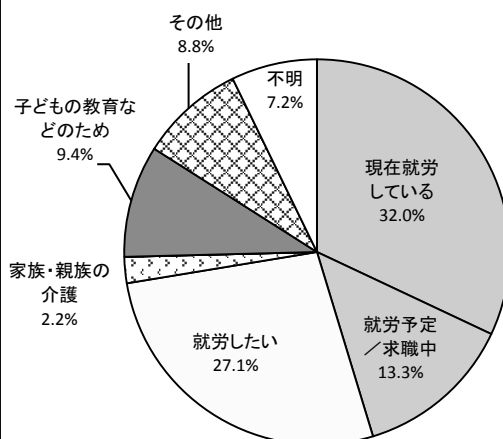
＜放課後児童クラブの今後の利用希望＞(n=利用していない人)

(%)

		全体 (人)	利用 したい	利用 希望は ない	不明
母 の 就 労 状 況	就学児童・計	1987	9.1	84.2	6.7
	フルタイム	449	8.2	83.3	8.5
	パート・アルバイト等	909	7.6	86.8	5.6
	無業	605	12.4	80.7	6.9
	不明	24	0.0	91.7	8.3

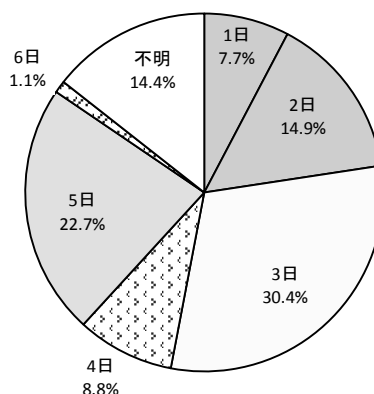
放課後児童クラブを利用したい理由について、「現在就労している」が最も多く32.0%、次いで「就労したい」が27.1%、「就労予定／求職中」が13.3%となっている。

＜放課後児童クラブを利用したい理由＞
(n=利用希望者:181)



放課後児童クラブの1週あたりの利用希望日数について、「3日」が最も多く30.4%、次いで「5日」が22.7%、「2日」が14.9%となっている。

＜放課後児童クラブの1週あたりの利用希望日数＞
(n=利用希望者:181)

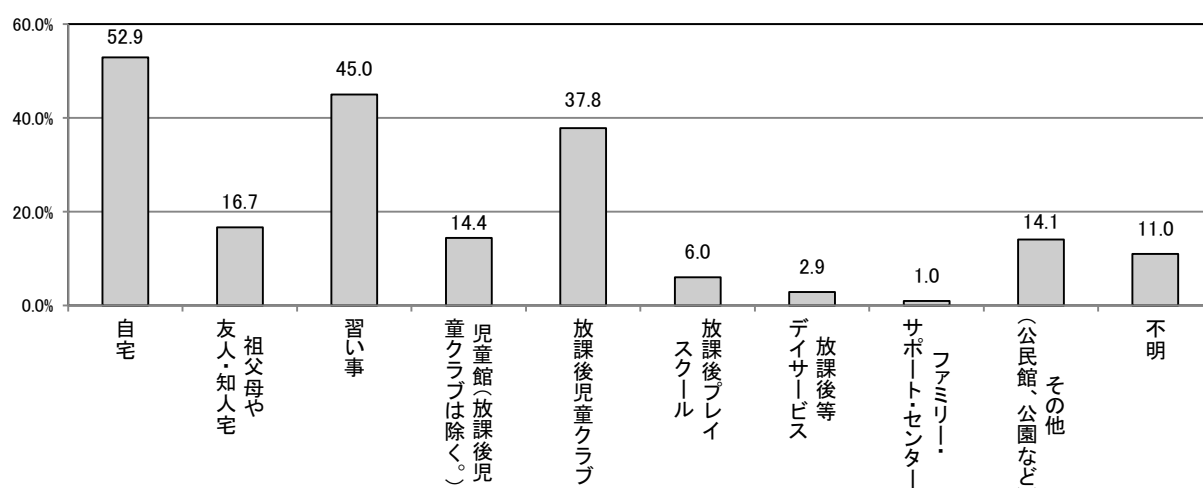


4. 低学年の間の放課後の過ごし方についての希望(対象:就学前児童5歳以上)

1) 低学年の間の放課後を過ごさせたい場所

低学年の間の放課後を過ごさせたい場所について、「自宅」が最も多く52.9%、次いで「習い事」が45.0%、「放課後児童クラブ」が37.8%となっている。

<低学年の間の放課後を過ごさせたい場所>(複数回答)(n=就学前児童5歳以上:418)



低学年の間の放課後を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数(平均)は、「自宅」が3.4日、「習い事」が1.9日、「放課後児童クラブ」が4.4日となっている。

<低学年の間の放課後を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数>

(n=就学前児童5歳以上:418)

上段:件数/下段:%	平均日数 (日)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	不明
自宅	3.4	28	43	54	25	56	4	7	4
		12.7	19.5	24.4	11.3	25.3	1.8	3.2	1.8
祖父母や友人・知人宅	2.0	38	13	6	0	9	1	0	3
		54.3	18.6	8.6	0.0	12.9	1.4	0.0	4.3
習い事	1.9	63	82	33	8	1	0	0	1
		33.5	43.6	17.6	4.3	0.5	0.0	0.0	0.5
児童館(放課後児童クラブは除く。)	2.9	15	15	9	4	13	3	0	1
		25.0	25.0	15.0	6.7	21.7	5.0	0.0	1.7
放課後児童クラブ	4.4	2	8	26	19	87	13	0	3
		1.3	5.1	16.5	12.0	55.1	8.2	0.0	1.9

<低学年の間の放課後を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数(続き)>

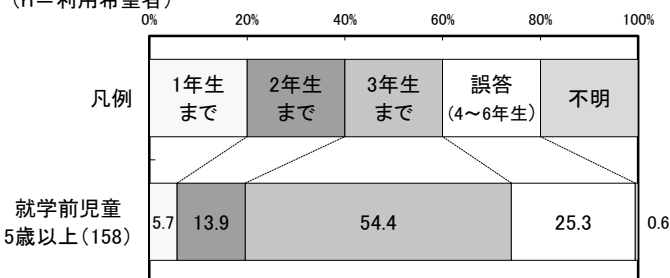
上段:件数/下段:%	平均 (日) 日数	1 日	2 日	3 日	4 日	5 日	6 日	7 日	不 明
放課後プレスクール	2.3	9	8	4	0	4	0	0	0
		36.0	32.0	16.0	0.0	16.0	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	2.7	4	1	3	0	3	0	0	1
		33.3	8.3	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	8.3
ファミリー・サポート・センター	2.5	1	2	0	0	1	0	0	0
		25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
その他(公民館、公園など)	2.2	19	20	14	1	3	0	1	1
		32.2	33.9	23.7	1.7	5.1	0.0	1.7	1.7

*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

2)放課後児童クラブの利用希望

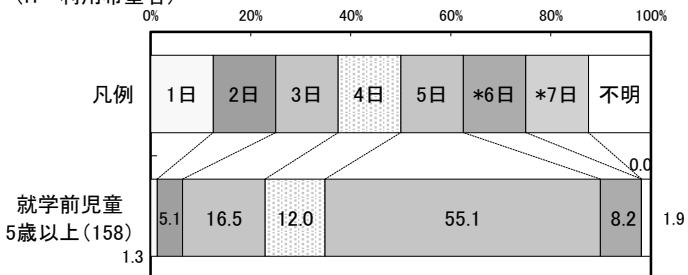
低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年について、「3年生まで」が最も多く54.4%、次いで「2年生まで」が13.9%、「1年生まで」が5.7%となっている。

<低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年>
(n=利用希望者)



低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数について、「5日」が最も多く55.1%、次いで「3日」が16.5%、「4日」が12.0%となっている。

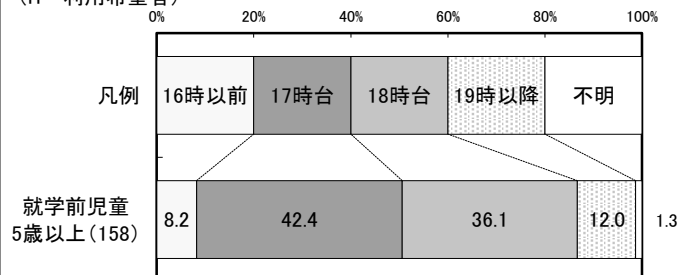
<低学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数>
(n=利用希望者)



*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

低学年の間の放課後児童クラブの利用終了時刻について、「17時台」が最も多く42.4%、次いで「18時台」が36.1%、「19時以降」が12.0%となっている。

<低学年の間の放課後児童クラブの希望終了時刻>
(n=利用希望者)

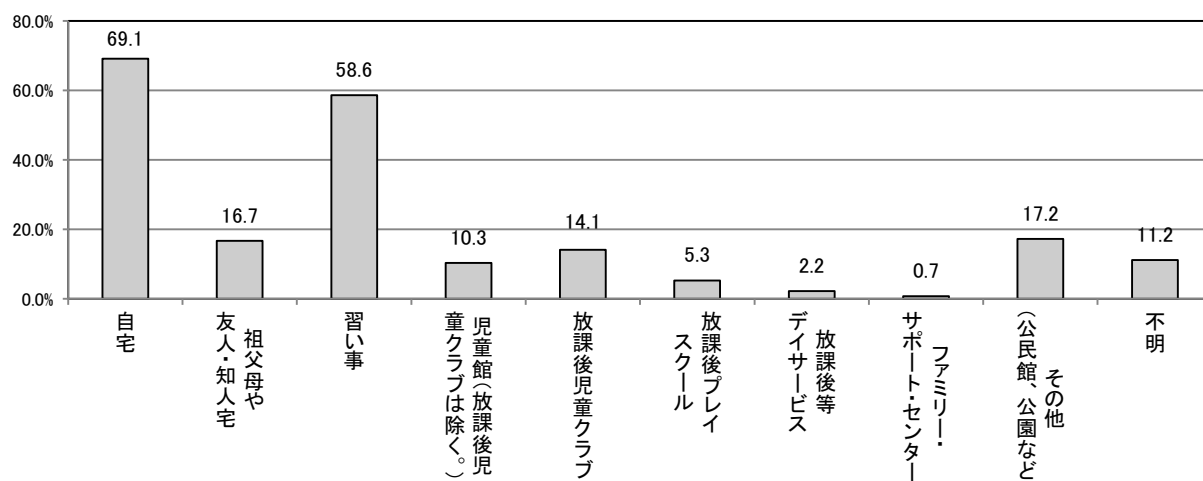


5. 高学年の間の放課後の過ごし方についての希望(対象:就学前児童5歳以上)

1) 高学年の間の放課後を過ごさせたい場所

高学年の間の放課後を過ごさせたい場所について、「自宅」が最も多く69.1%、次いで「習い事」が58.6%、「その他（公民館、公園など）」が17.2%となっている。また、「放課後児童クラブ」は14.1%となっている。

＜高学年の間の放課後を過ごさせたい場所＞（複数回答）（n＝就学前児童5歳以上：418）



高学年の間の放課後を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数（平均）について、「自宅」が3.5日、「習い事」が2.2日、「その他（公民館、公園など）」が2.1日となっている。また、「放課後児童クラブ」は4.1日となっている。

＜高学年の間の放課後を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数＞

(n＝就学前児童5歳以上：418)

上段:件数/下段:%	平均日数 (日)	1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	不明
自宅	3.5	32	62	59	25	88	8	8	7
		11.1	21.5	20.4	8.7	30.4	2.8	2.8	2.4
祖父母や友人・知人宅	2.3	29	15	9	0	11	2	0	4
		41.4	21.4	12.9	0.0	15.7	2.9	0.0	5.7
習い事	2.2	57	102	62	19	3	0	0	2
		23.3	41.6	25.3	7.8	1.2	0.0	0.0	0.8
児童館(放課後児童クラブは除く。)	2.6	11	10	9	4	6	0	0	3
		25.6	23.3	20.9	9.3	14.0	0.0	0.0	7.0
放課後児童クラブ	4.1	2	4	16	7	27	3	0	0
		3.4	6.8	27.1	11.9	45.8	5.1	0.0	0.0

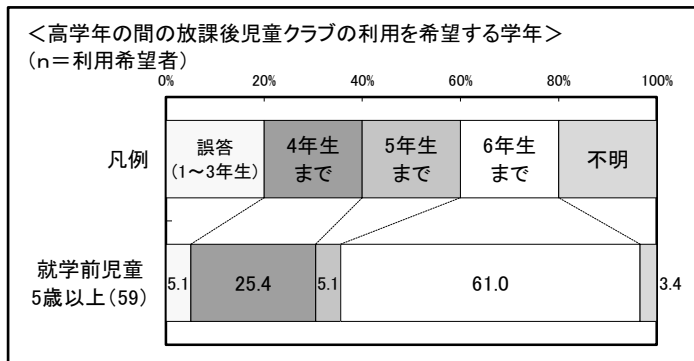
<高学年の間の放課後を過ごさせたい場所別の1週あたりの日数(続き)>

上段:件数/下段:%	平均 日数 (日)								不明
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	
放課後プレスクール	2.1	6	11	3	0	2	0	0	0
		27.3	50.0	13.6	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0
放課後等デイサービス	3.3	2	2	0	1	4	0	0	0
		22.2	22.2	0.0	11.1	44.4	0.0	0.0	0.0
ファミリー・サポート・センター	1.7	1	2	0	0	0	0	0	0
		33.3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他(公民館、公園など)	2.1	24	26	16	0	3	2	0	1
		33.3	36.1	22.2	0.0	4.2	2.8	0.0	1.4

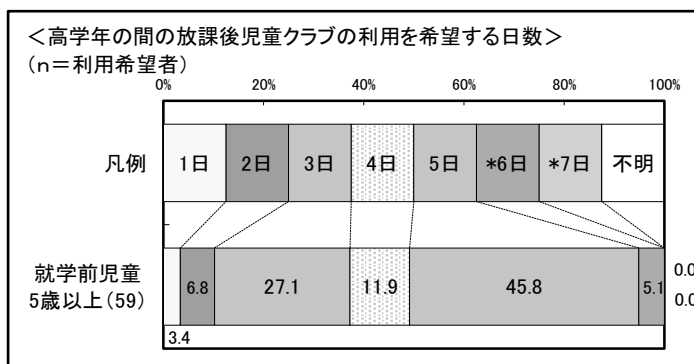
*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

2)放課後児童クラブの利用希望

高学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する学年について、「6年生まで」が最も多く61.0%、次いで「4年生まで」が25.4%、「5年生まで」が5.1%となっている。

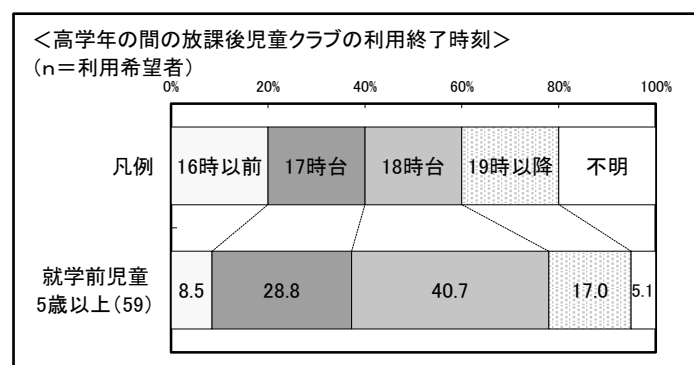


高学年の間の放課後児童クラブの利用を希望する日数について、「5日」が最も多く45.8%、次いで「3日」が27.1%、「4日」が11.9%となっている。



*平日の小学校終了後に関する問いに対し、週6日、7日という回答がみられたが、そのまま集計した。

高学年の間の放課後児童クラブの利用終了時刻について、「18時台」が最も多く40.7%、次いで「17時台」が28.8%、「19時以降」が17.0%となっている。



6. 土日祝、長期休暇中の放課後児童クラブの利用希望

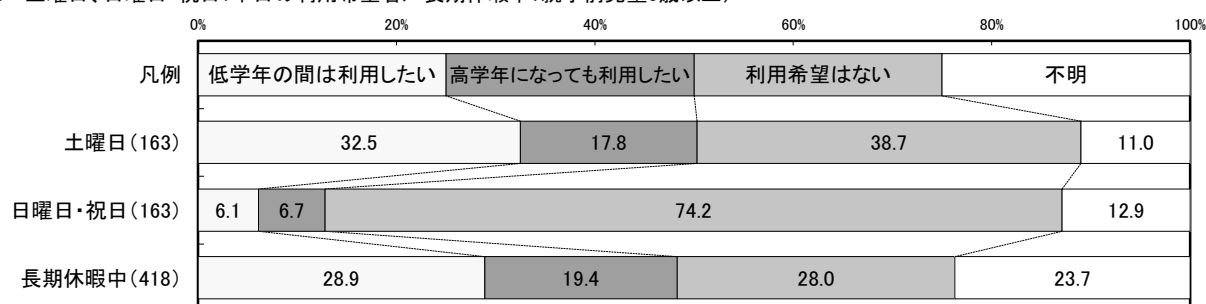
平日の放課後児童クラブ利用希望者のうち、土曜日の利用希望について、就学前児童では「利用したい（「低学年の間は利用したい」＋「高学年になっても利用したい」）」が50.3%、「利用希望はない」が38.7%となっている。就学児童では「利用したい」が36.5%、「利用希望はない」が59.2%となっている。

日曜日・祝日の利用希望について、就学前児童では「利用したい」が12.8%、「利用希望はない」が74.2%となっている。就学児童では「利用したい」が16.1%、「利用希望はない」が76.1%となっている。

平日の放課後児童クラブの利用希望の有無に関わらず、長期休暇中の利用希望について、就学前児童では「利用したい」が48.3%、「利用希望はない」が28.0%となっている。就学児童では「利用したい」が29.7%、「利用希望はない」が60.6%となっている。

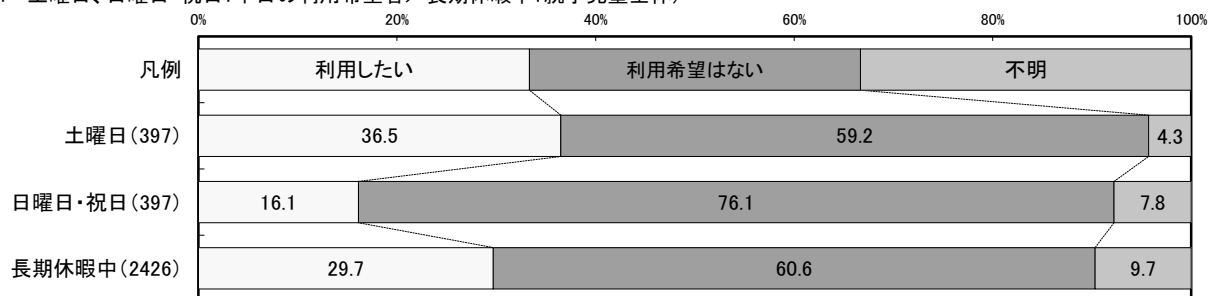
【就学前児童5歳以上】＜土日祝、長期休暇中の利用希望＞

(n=土曜日、日曜日・祝日:平日の利用希望者／長期休暇中:就学前児童5歳以上)



【就学児童】＜土日祝、長期休暇中の利用希望＞

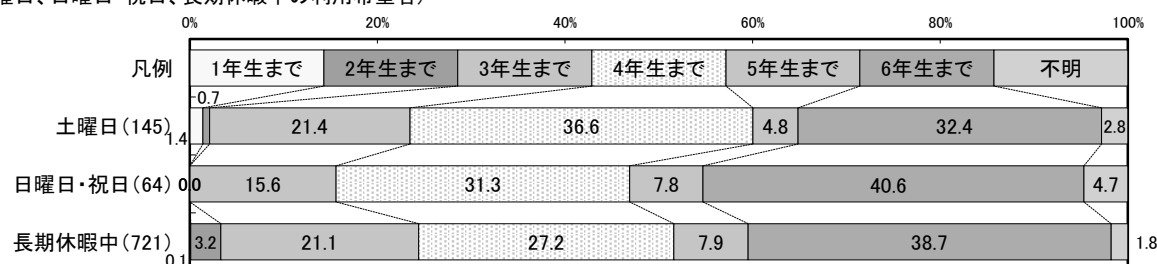
(n=土曜日、日曜日・祝日:平日の利用希望者／長期休暇中:就学児童全体)



就学児童の利用を希望する学年について、土曜日は「4年生まで」が最も多く36.6%、日曜日・祝日は「6年生まで」が最も多く40.6%、長期休暇中は「6年生まで」が最も多く38.7%となっている。

【就学児童】＜土日祝、長期休暇中の利用を希望する学年＞

(n=土曜日、日曜日・祝日、長期休暇中の利用希望者)

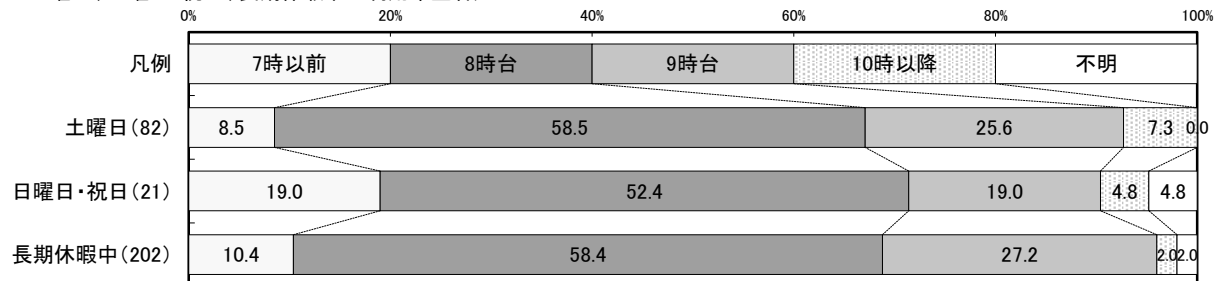


放課後児童クラブ利用希望者の土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（開始時刻）について、就学前児童では「8時台」が最も多く、土曜日が58.5%、日曜日・祝日が52.4%、長期休暇中が58.4%となっている。

就学児童では「8時台」が最も多く、土曜日が64.1%、日曜日・祝日が57.8%、長期休暇中が65.6%となっている。

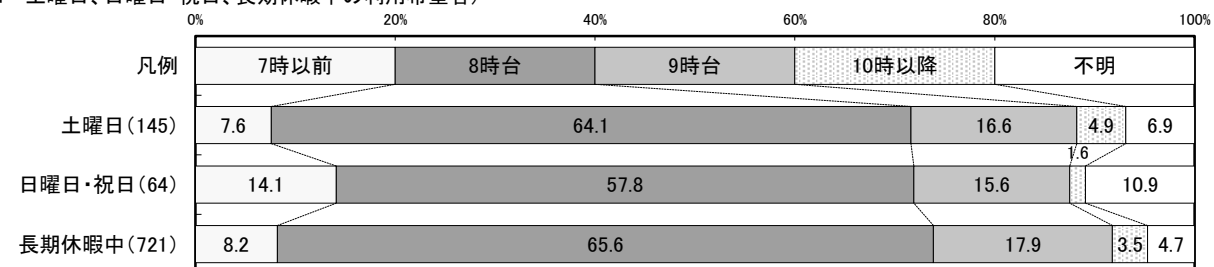
【就学前児童5歳以上】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（開始時刻）＞

（n＝土曜日、日曜日・祝日、長期休暇中の利用希望者）



【就学児童】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（開始時刻）＞

（n＝土曜日、日曜日・祝日、長期休暇中の利用希望者）

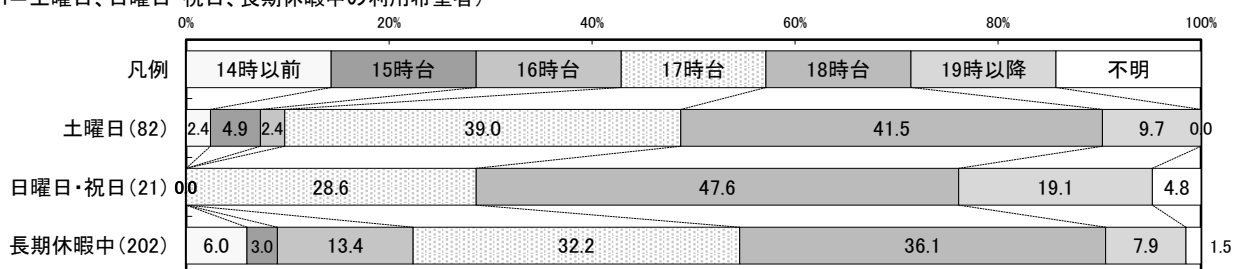


放課後児童クラブ利用希望者の土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（終了時刻）について、就学前児童では「18時台」が最も多く、土曜日が41.5%、日曜日・祝日が47.6%、長期休暇中が36.1%となっている。

就学児童では「17時台」が最も多く、土曜日が36.6%、日曜日・祝日が32.8%、長期休暇中が37.2%となっている。

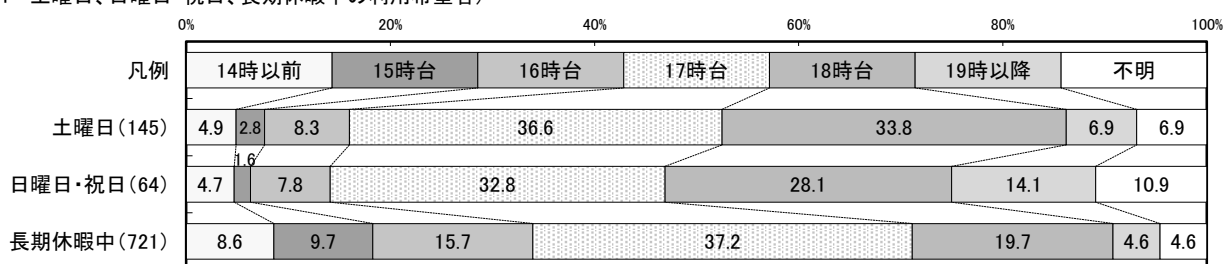
【就学前児童5歳以上】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（終了時刻）＞

（n＝土曜日、日曜日・祝日、長期休暇中の利用希望者）



【就学児童】＜土日祝、長期休暇中の利用したい時間帯（終了時刻）＞

（n＝土曜日、日曜日・祝日、長期休暇中の利用希望者）



7. 病児・病後児保育（対象：就学前児童（平日の教育・保育事業利用者）、就学児童全員）

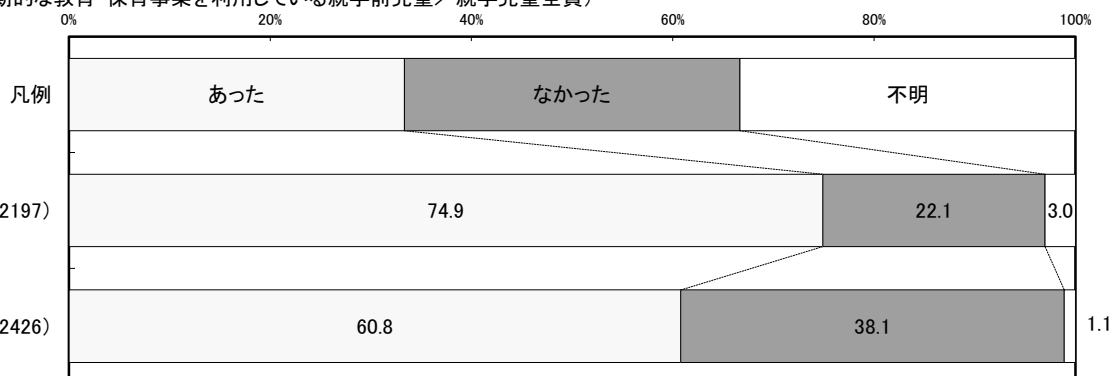
1) 子どもの病気・ケガの時の対処

この1年間に病気やケガで教育・保育事業や学校を休んだ経験について、就学前児童では「あった」が74.9%、「なかった」が22.1%となっている。

就学児童では「あった」が60.8%「なかった」が38.1%となっている。

＜この1年間に病気やケガで教育・保育事業や学校を休んだ経験＞

（n＝平日の定期的な教育・保育事業を利用している就学前児童／就学児童全員）

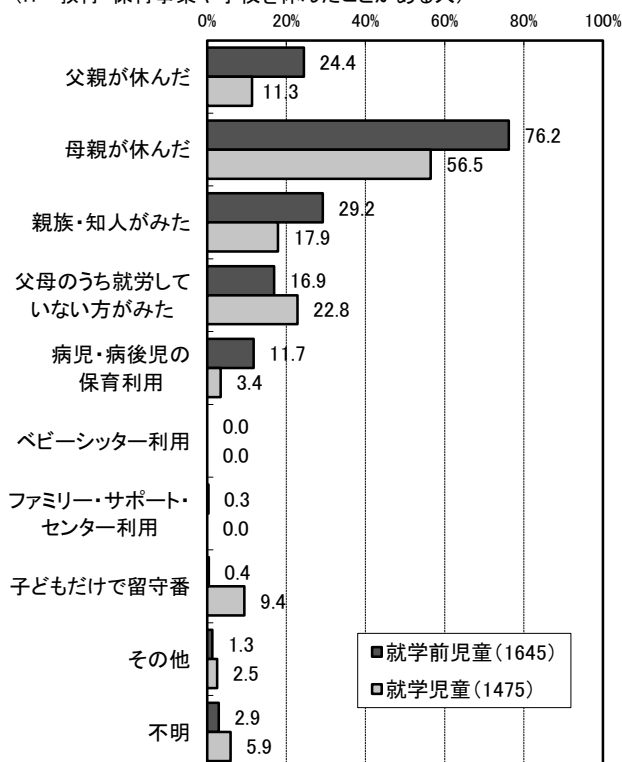


教育・保育事業や学校を休んだ時の対処方法（年間平均日数）について、就学前児童では「母親が休んだ」が最も多く76.2%（7.5日）、次いで「親族・知人がみた」が29.2%（5.4日）、「父親が休んだ」が24.4%（3.7日）となっている。

就学児童では「母親が休んだ」が最も多く56.5%（3.5日）、次いで「父母のうち就労していない方がみた」が22.8%（4.4日）、「親族・知人がみた」が17.9%（3.0日）となっている。

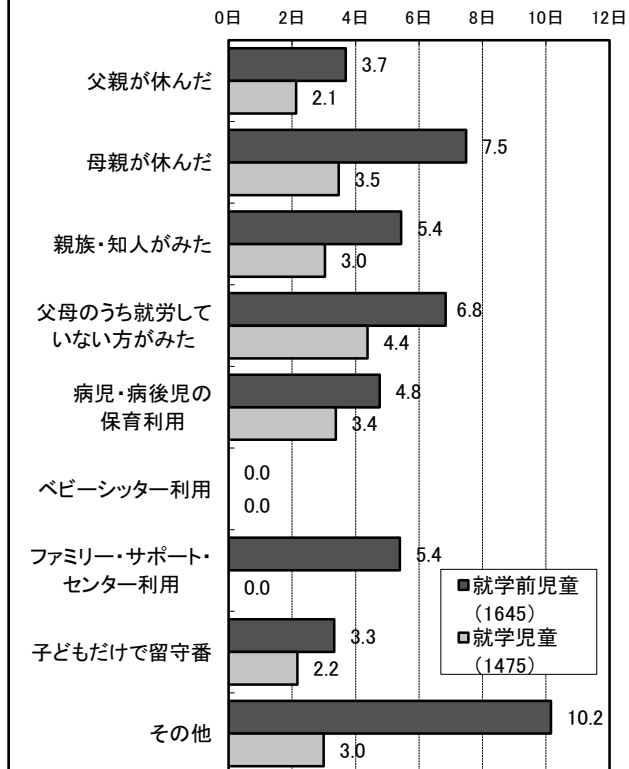
＜教育・保育事業や学校を休んだ時の
対処方法＞（複数回答）

（n＝教育・保育事業や学校を休んだことがある人）



＜教育・保育事業や学校を休んだ時の対処方法別の
年間平均日数＞

（n＝教育・保育事業や学校を休んだことがある人）

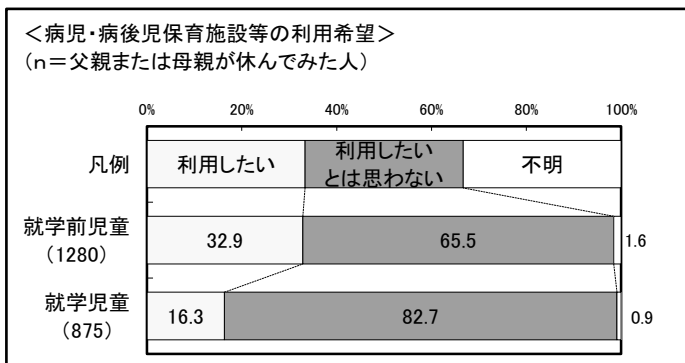


2) 病児・病後児保育についての希望

父親または母親が休んでみた人のうち、病児・病後児保育施設等の利用希望について、就学前児童では「利用したい」が32.9%、「利用したいとは思わない」が65.5%となっている。

就学児童では「利用したい」が16.3%、「利用したいとは思わない」が82.7%となっている。

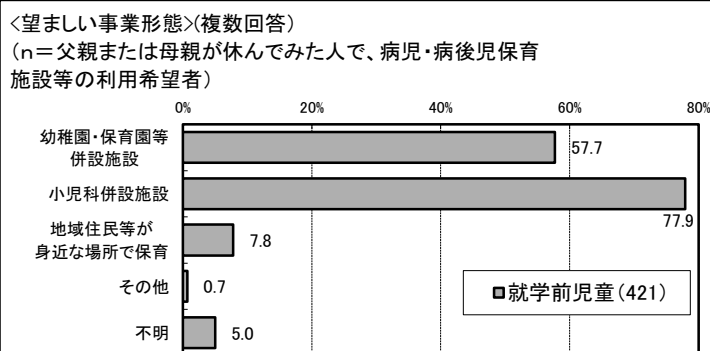
年齢別に見ると、「利用したい」と回答した人は0歳で最も多く40.3%となっている。



＜病児・病後児保育施設等の利用希望＞(n=父親または母親が休んでみた人) (%)

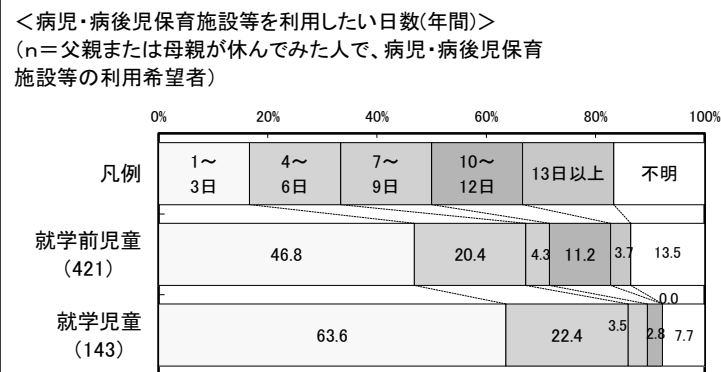
	全体 (人)	利用 したい	利用 しない とは思 わない	不明
就学前児童・計	1280	32.9	65.5	1.6
0歳	206	40.3	58.3	1.5
1～2歳	451	36.1	62.5	1.3
3歳以上	614	28.2	69.9	2.0
不明	9	22.2	77.8	0.0

望ましい事業形態について、「小児科併設施設」が最も多く77.9%、次いで「幼稚園・保育園等併設施設」が57.7%、「地域住民等が身近な場所で保育」が7.8%となっている。



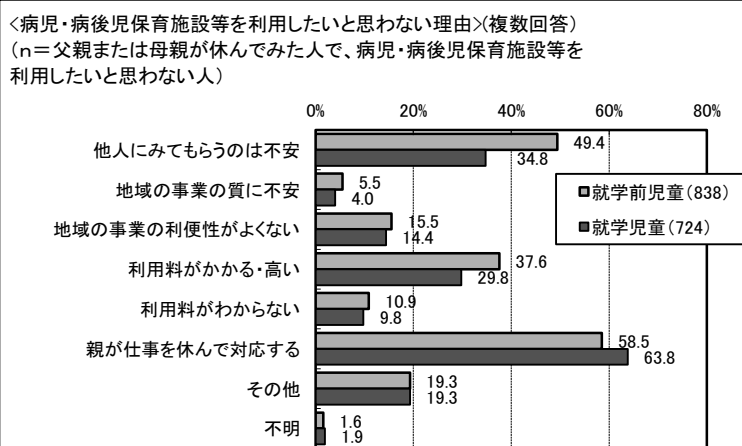
病児・病後児保育施設等を利用したい日数(年間)について、就学前児童では「1～3日」が最も多く46.8%、次いで「4～6日」が20.4%、「10～12日」が11.2%となっている。

就学児童では「1～3日」が最も多く63.6%、次いで「4～6日」が22.4%、「7～9日」が3.5%となっている。



病児・病後児保育施設等を利用したいと思わない理由について、就学前児童では「親が仕事を休んで対応する」が最も多く58.5%、次いで「他人にみてもらうのは不安」が49.4%、「利用料がかかる・高い」が37.6%となっている。

就学児童では「親が仕事を休んで対応する」が最も多く63.8%、次いで「他人にみてもらうのは不安」が34.8%、「利用料がかかる・高い」が29.8%となっている。

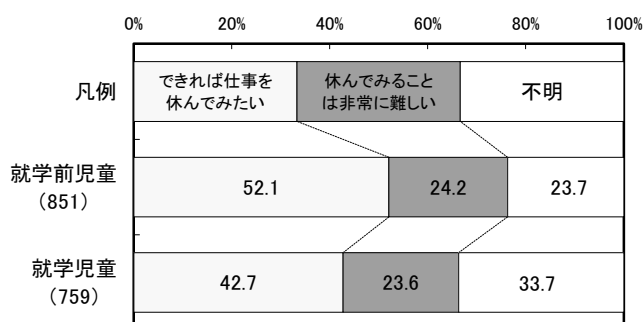


3)子どもが病気の際に親が仕事を休んでみたい希望とその困難度

子どもが病気の際に親が仕事を休んでみたい希望について、就学前児童では「できれば仕事を休んでみたい」が52.1%、「休んでみることは非常に難しい」が24.2%となっている。

就学児童では「できれば仕事を休んでみたい」が42.7%、「休んでみることは非常に難しい」が23.6%となっている。

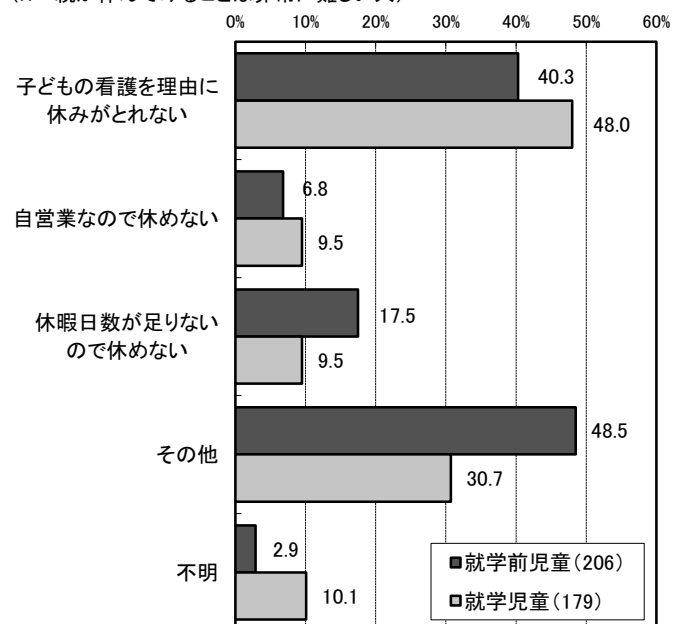
＜子どもが病気の際に親が仕事を休んでみたい希望＞
(n=親以外の人にみてもらったことがある人)



親が休んでみることは非常に難しい理由について、「その他」を除いて就学前児童では「子どもの看護を理由に休みがとれない」が最も多く40.3%、次いで「休暇日数が足りないので休めない」が17.5%、「自営業なので休めない」が6.8%となっている。

就学児童では「子どもの看護を理由に休みがとれない」が最も多く48.0%、次いで「自営業なので休めない」、「休暇日数が足りないので休めない」が9.5%となっている。

＜親が休んでみることは非常に難しい理由＞(複数回答)
(n=親が休んでみることは非常に難しい人)



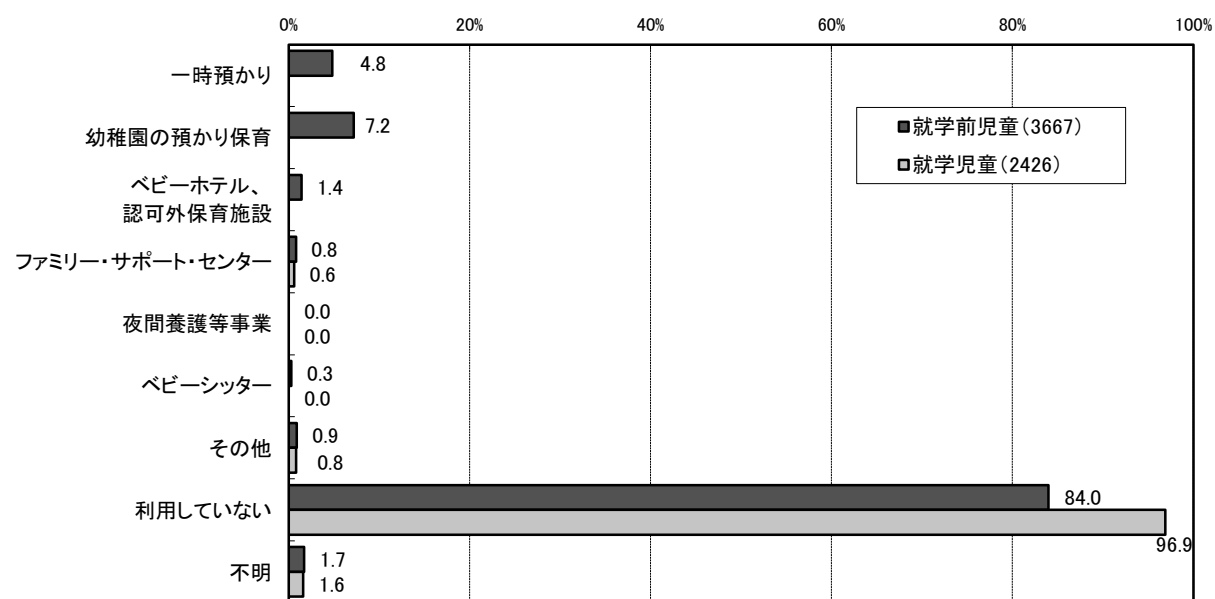
8. 一時預かり等

1) 私用等で一時的に子どもを預けた経験

私用（冠婚葬祭、リフレッシュ等）、親の通院、不定期の就労等の目的で利用したことのある事業について、就学前児童では「利用していない」が最も多く84.0%、次いで「幼稚園の預かり保育」が7.2%、「一時預かり」が4.8%となっている。

就学児童では「その他」を除いて「利用していない」が最も多く96.9%、次いで「ファミリー・サポート・センター」が0.6%となっている。

＜私用等の目的で利用したことのある事業＞（複数回答）（n＝全員）



一時預かり等の年間平均利用日数について、就学前児童では「幼稚園の預かり保育」が21.0日、「一時預かり」が11.6日となっている。

就学児童では「ファミリー・サポート・センター」が12.2日となっている。

＜一時預かり等の年間平均利用日数＞（n＝就学前児童全員）

	件数	利用割合(%)	平均日数(日)
一時預かり	175	4.8	11.6
幼稚園の預かり保育	263	7.2	21.0
ベビーホテル、認可外保育施設	53	1.4	13.9
ファミリー・サポート・センター	31	0.8	18.9
夜間養護等事業：トワイライトステイ	0	0.0	0.0
ベビーシッター	11	0.3	9.4
その他	32	0.9	22.5

＜一時預かり等の年間平均利用日数＞（n＝就学児童全員）

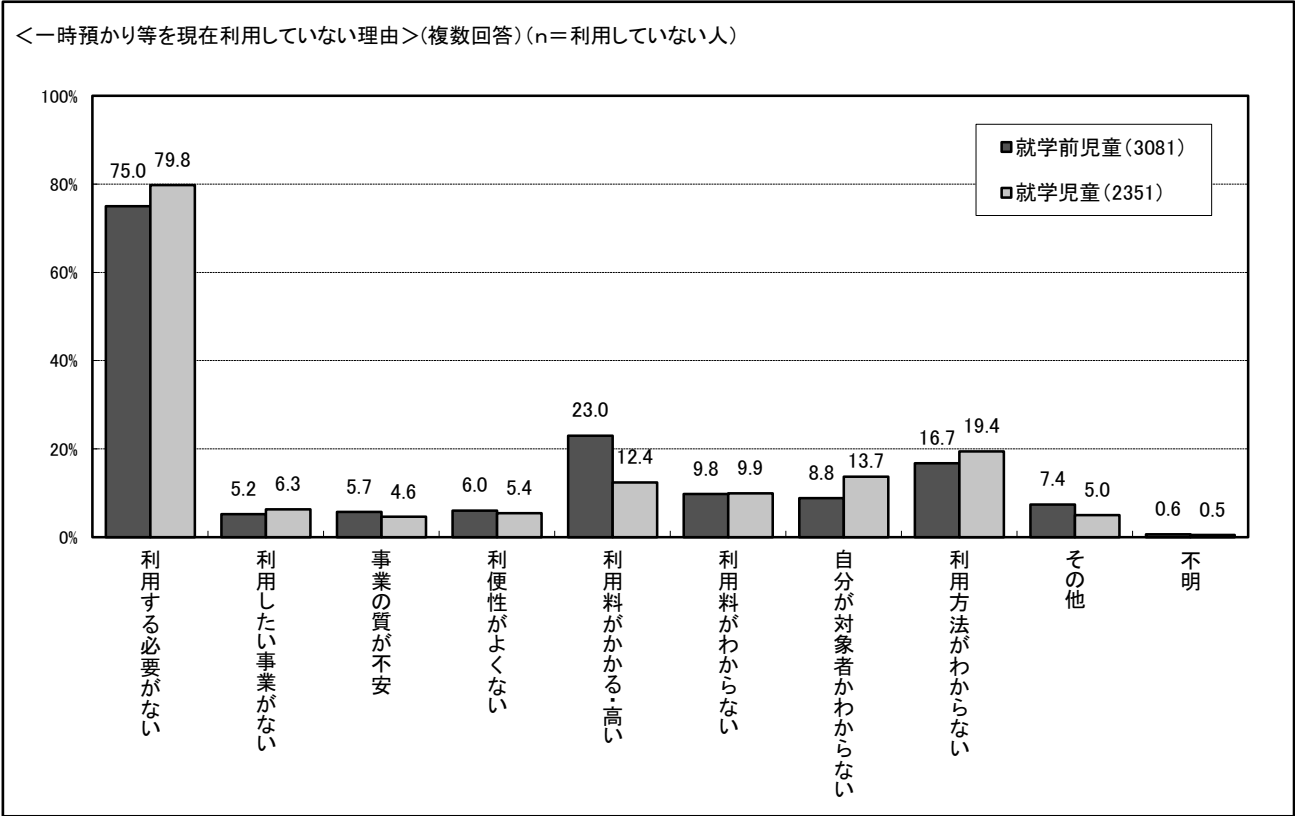
	件数	利用割合(%)	平均日数(日)
ファミリー・サポート・センター	15	0.6	12.2
夜間養護等事業：トワイライトステイ	1	0.0	0.0
ベビーシッター	0	0.0	0.0
その他	20	0.8	20.0

*夜間養護等事業：トワイライトステイは日数の回答なし。

2)一時預かり等を利用していない理由

一時預かり等を現在利用していない理由について、就学前児童では「利用する必要がない」が最も多く75.0%、次いで「利用料がかかる・高い」が23.0%、「利用方法がわからない」が16.7%となっている。

就学児童では「利用する必要がない」が最も多く79.8%、次いで「利用方法がわからない」が19.4%、「自分が対象者かわからない」が13.7%となっている。

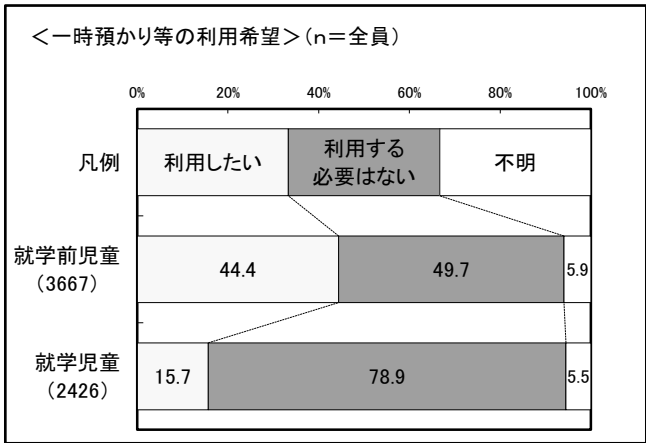


3)一時預かり等の利用希望

一時預かり等の利用希望について、就学前児童では「利用したい」が44.4%、「利用する必要はない」が49.7%となっている。

就学児童では「利用したい」が15.7%、「利用する必要はない」が78.9%となっている。

年齢学齢別に見ると、「利用したい」と回答した人は3歳以上の就学前児童で最も多く45.8%となっている。



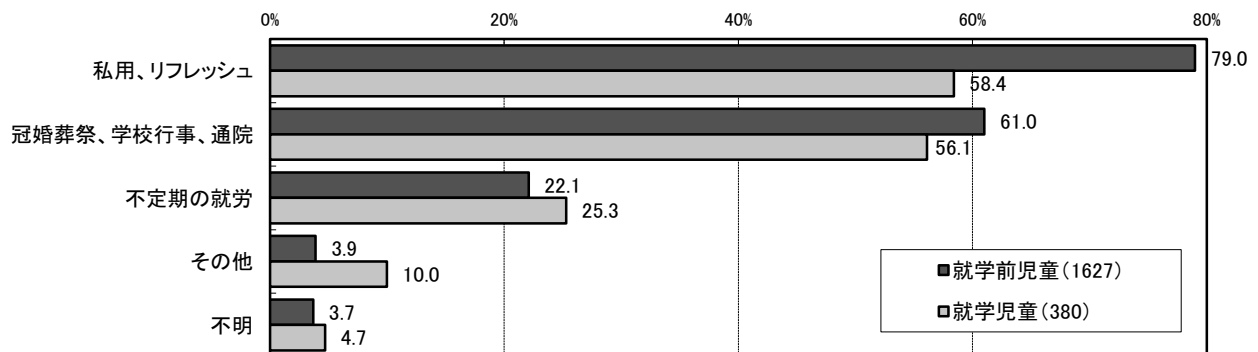
＜一時預かり等の利用希望＞(n=全員) (%)

	全体 (人)	利用したい	利用する必要はない	不明
就学前児童・計	3667	44.4	49.7	5.9
0歳	1141	42.2	51.0	6.7
1～2歳	1171	44.8	50.1	5.0
3歳以上	1327	45.8	48.4	5.8
不明	28	42.9	46.4	10.7
就学児童・計	2426	15.7	78.9	5.5
低学年	1317	19.9	75.4	4.7
高学年	1083	10.3	83.4	6.3
不明	26	23.1	65.4	11.5

利用したい目的別の内訳について、就学前児童では「私用、リフレッシュ」が最も多く79.0%、次いで「冠婚葬祭、学校行事、通院」が61.0%、「不特定の就労」が22.1%となっている。

就学児童では「私用、リフレッシュ」が最も多く58.4%、次いで「冠婚葬祭、学校行事、通院」が56.1%、「不特定の就労」が25.3%となっている。

＜利用したい目的別の内訳＞(複数回答)(n=利用希望者)



年間平均利用希望日数について、就学前児童では22.0日、就学児童では15.3日となっている。

このうち、「不特定の就労」のための年間平均利用希望日数は、就学前児童では22.6日、就学児童では18.4日と最も多くなっている。

＜年間平均利用希望日数(就学前児童)＞(n=利用希望者)

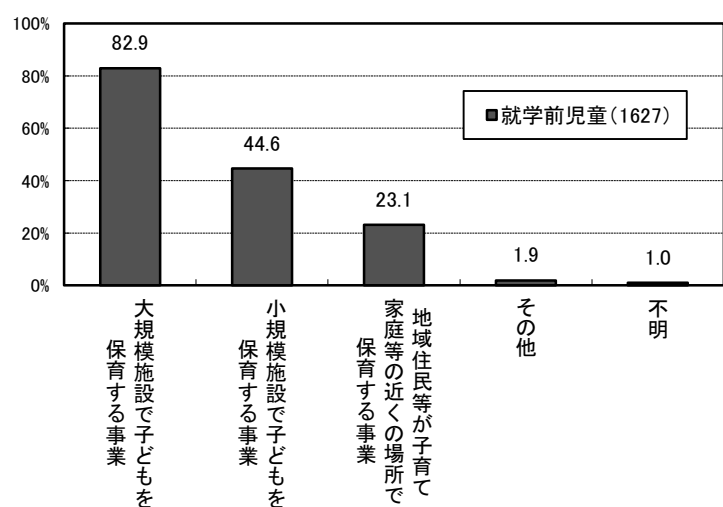
	件数	希望率(%)	平均希望日数(日)
計	1627	44.4	22.0
私用、リフレッシュ	1286	79.0	13.5
冠婚葬祭、学校行事、通院	993	61.0	7.7
不特定の就労	360	22.1	22.6
その他	64	3.9	13.3

＜年間平均利用希望日数(就学児童)＞(n=利用希望者)

	件数	希望率(%)	平均希望日数(日)
計	380	15.7	15.3
私用、リフレッシュ	222	58.4	9.4
冠婚葬祭、学校行事、通院	213	56.1	6.2
不特定の就労	96	25.3	18.4
その他	38	10.0	9.2

一時預かり等の望ましい事業形態について、「大規模施設で子どもを保育する事業」が最も多く82.9%、次いで「小規模施設で子どもを保育する事業」が44.6%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」が23.1%となっている。

＜一時預かり等の望ましい事業形態＞(複数回答)(n=利用希望者)



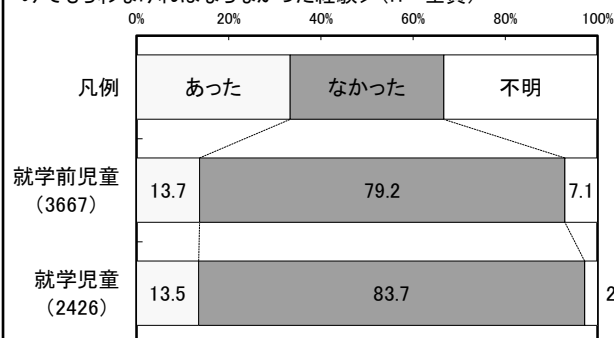
4) 子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験

この1年間に子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験について、就学前児童では「あった」が13.7%、「なかった」が79.2%となっている。

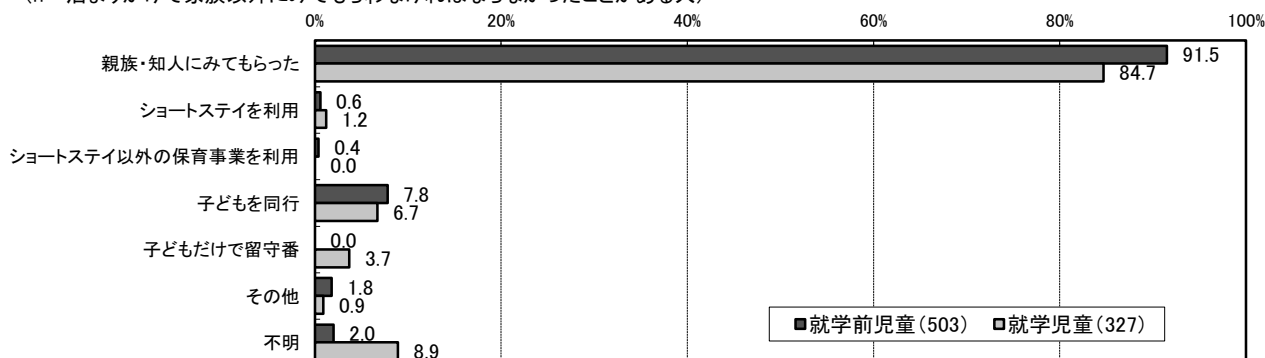
就学児童では「あった」が13.5%、「なかった」が83.7%となっている。

みてもらわなければならなかった時の対処方法（年間平均日数）について、「親族・知人にみてもらった」と回答した人が就学前児童では91.5%（5.2日）、就学児童では84.7%（4.5日）と最も多くなっている。

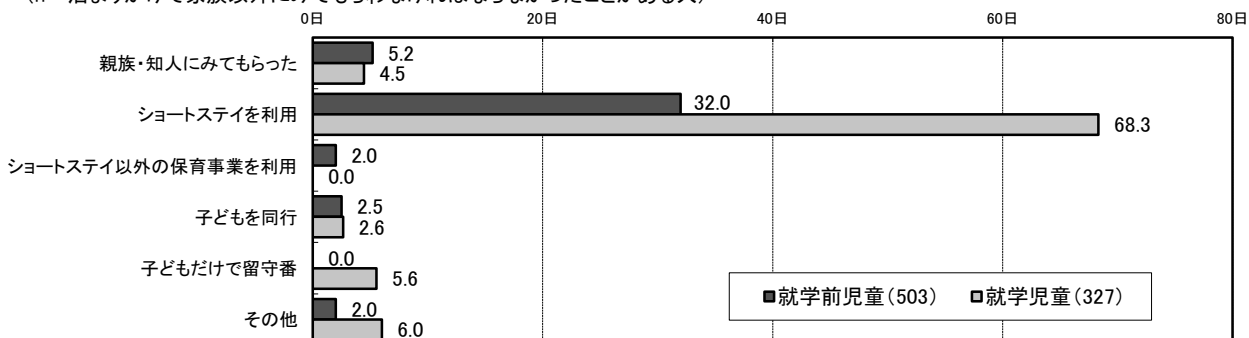
＜この1年間に子どもを泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならなかった経験＞（n＝全員）



＜みてもらわなければならなかった時の対処方法＞（複数回答）
（n＝泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならなかったことがある人）



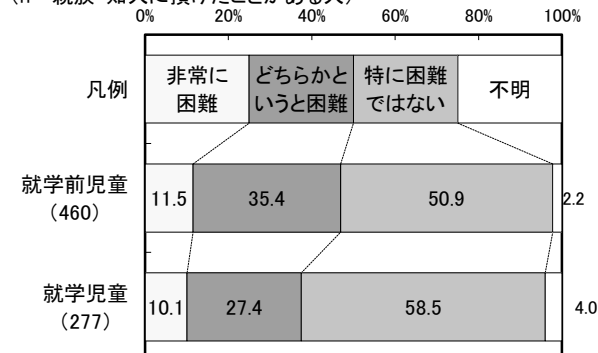
＜対処方法別の年間平均日数＞（複数回答）
（n＝泊まりがけで家族以外にみてもらわなければならなかったことがある人）



親族・知人に預ける場合の困難度について、就学前児童では「特に困難ではない」が最も多く50.9%、次いで「どちらかという困難」が35.4%、「非常に困難」が11.5%となっている。

就学児童では「特に困難ではない」が最も多く58.5%、次いで「どちらかという困難」が27.4%、「非常に困難」が10.1%となっている。

＜親族・知人に預ける場合の困難度＞
（n＝親族・知人に預けたことがある人）



Ⅳ. 子どもの遊び環境、地域子育て支援拠点事業、子育てに関する悩みや不安感等について

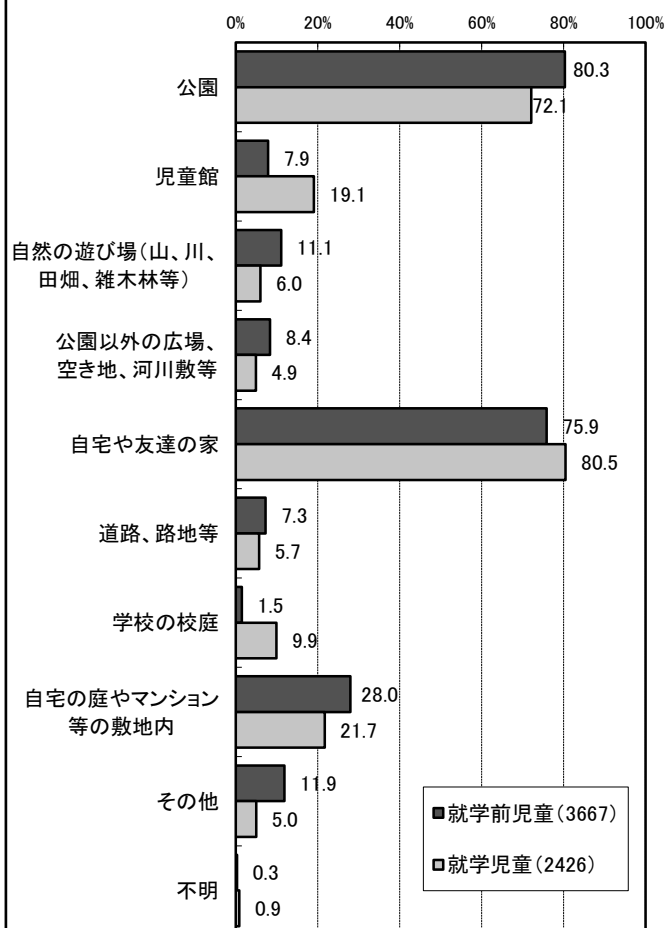
1. 子どもの遊び環境

1) 子どもの日常的な遊び場

子どもの日常的な遊び場について、就学前児童では「公園」が最も多く80.3%、次いで「自宅や友達の家」が75.9%、「自宅の庭やマンション等の敷地内」が28.0%となっている。

就学児童では「自宅や友達の家」が最も多く80.5%、次いで「公園」が72.1%、「自宅の庭やマンション等の敷地内」が21.7%となっている。

＜子どもの日常的な遊び場＞（複数回答）（n＝全員）



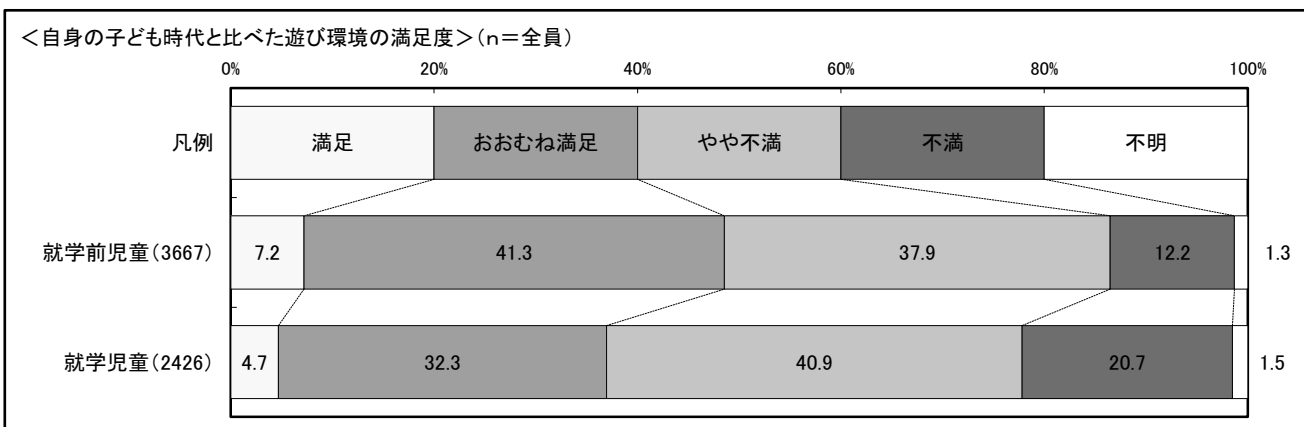
＜子どもの日常的な遊び場＞（n＝全員）

(%)

	全体 (人)	公園	児童館	等川自然 (川、田の 畑遊び 雑木山、 林等、	空公園 き園地、 以外、 河川敷 敷場等、	自宅 や友達 の家	道路・ 路地等	学校 の校庭	ン自 宅の 敷地 やマ ンシ ョ	その他	不明
就学前児童・計	3667	80.3	7.9	11.1	8.4	75.9	7.3	1.5	28.0	11.9	0.3
0歳	1141	68.5	14.1	8.6	7.4	78.6	6.6	0.5	23.5	17.3	0.5
1～2歳	1171	87.2	7.7	12.2	10.4	73.8	8.1	1.3	30.9	14.0	0.3
3歳以上	1327	84.4	2.8	12.4	7.6	75.4	7.0	2.5	29.3	5.7	0.2
不明	28	78.6	7.1	3.6	0.0	71.4	21.4	3.6	28.6	3.6	3.6
就学児童・計	2426	72.1	19.1	6.0	4.9	80.5	5.7	9.9	21.7	5.0	0.9
低学年	1317	73.4	26.3	6.8	5.3	78.1	6.1	7.7	25.4	4.9	0.7
高学年	1083	70.6	10.2	4.9	4.3	83.4	5.0	12.3	17.4	5.2	1.1
不明	26	65.4	19.2	7.7	7.7	80.8	15.4	15.4	15.4	0.0	7.7

2)子どもの遊び環境への満足度

自身の子ども時代と比べた遊び環境の満足度について、就学前児童では「満足（「満足」＋「おおむね満足」）」が48.5%、「不満（「不満」＋「やや不満」）」が50.1%となっている。
就学児童では「満足」が37.0%、「不満」が61.6%となっている。

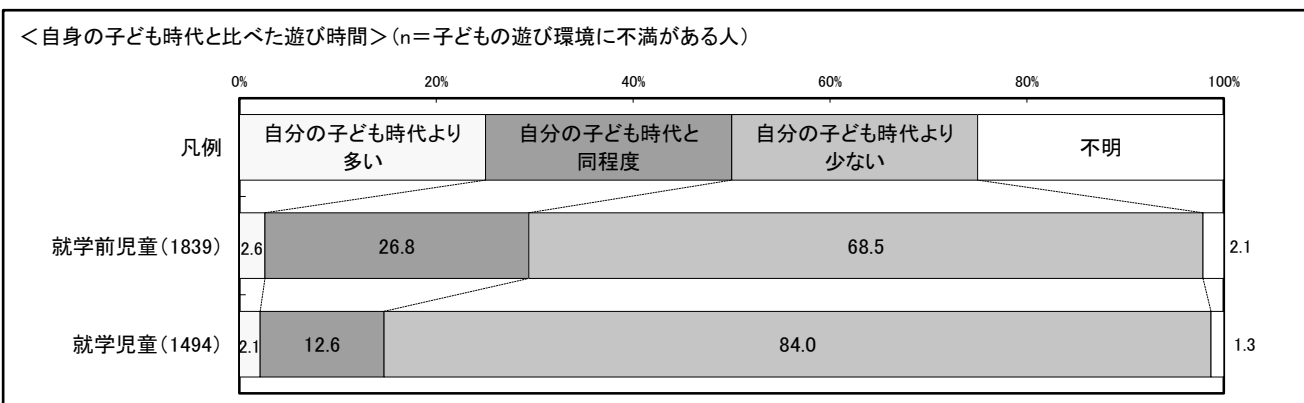


＜自身の子ども時代と比べた遊び環境の満足度＞(n=全員) (%)

	全体 (人)	満足	おおむね満足	やや不満	不満	不明
就学前児童・計	3667	7.2	41.3	37.9	12.2	1.3
0歳	1141	9.6	47.2	32.5	8.9	1.8
1～2歳	1171	7.8	41.8	37.1	11.8	1.5
3歳以上	1327	4.8	36.4	43.2	15.1	0.5
不明	28	3.6	14.3	46.4	28.6	7.1
就学児童・計	2426	4.7	32.3	40.9	20.7	1.5
低学年	1317	4.9	33.4	40.9	19.4	1.3
高学年	1083	4.3	30.8	41.2	22.1	1.6
不明	26	3.8	34.6	26.9	26.9	7.7

子どもの遊び環境に不満がある人のうち、自身の子ども時代と比べた遊び時間について、就学前児童では「自分の子ども時代より少ない」が最も多く68.5%、次いで「自分の子ども時代と同程度」が26.8%、「自分の子ども時代より多い」が2.6%となっている。

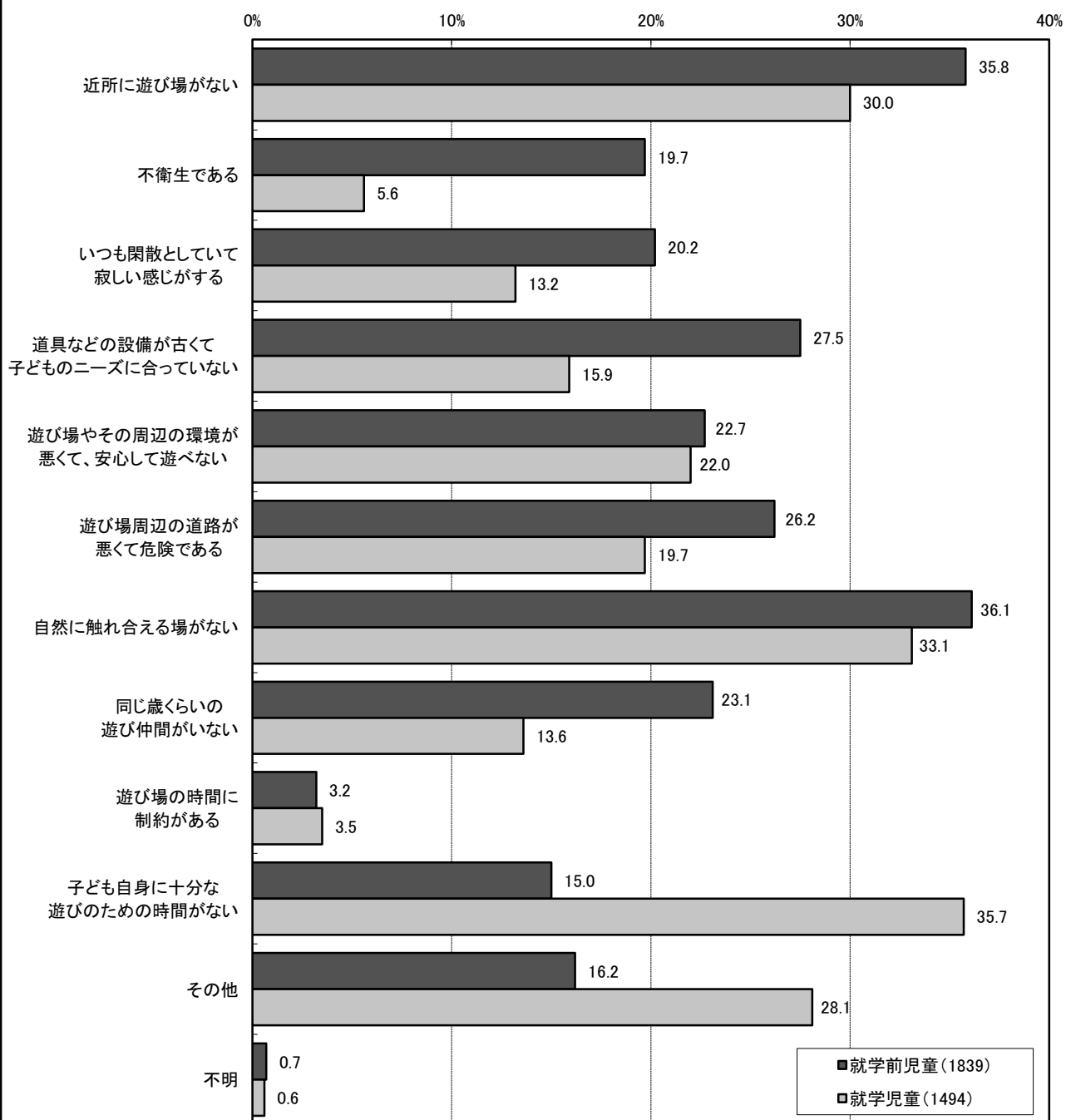
就学児童では「自分の子ども時代より少ない」が最も多く84.0%、次いで「自分の子ども時代と同程度」が12.6%、「自分の子ども時代より多い」が2.1%となっている。



子どもの遊び環境の不満な点について、就学前児童では「自然に触れ合える場がない」が最も多く36.1%、次いで「近所に遊び場がない」が35.8%、「道具などの設備が古くて子どものニーズに合っていない」が27.5%となっている。

就学児童では「子ども自身に十分な遊びのための時間がない」が最も多く35.7%、次いで「自然に触れ合える場がない」が33.1%、「近所に遊び場がない」が30.0%となっている。

<子どもの遊び環境の不満な点> (複数回答) (n=子どもの遊び環境に不満がある人)

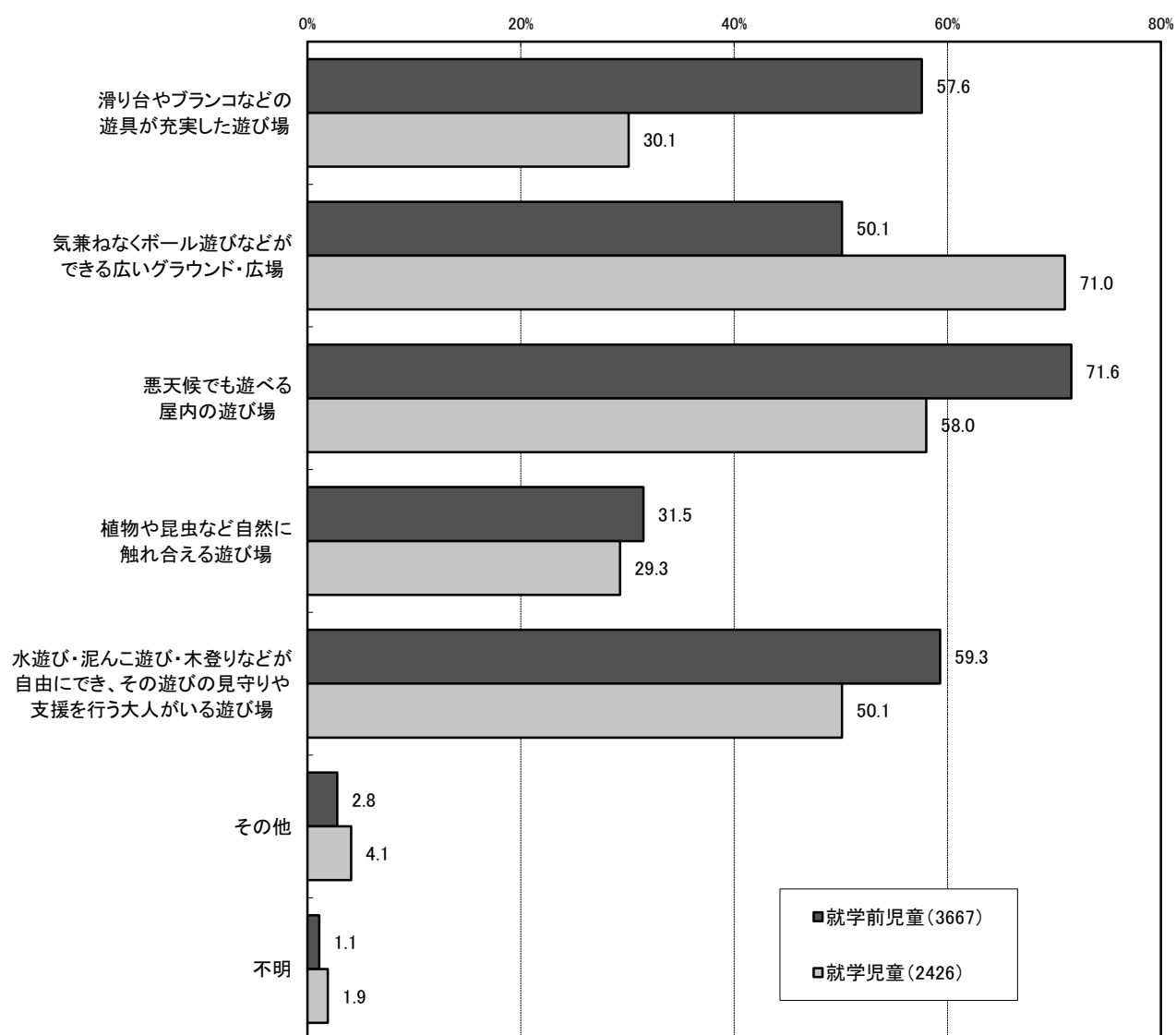


3)子どもの遊び場への要望

どんな遊び場があればいいと思うかについて、就学前児童では「悪天候でも遊べる屋内の遊び場」が最も多く71.6%、次いで「水遊び・泥んこ遊び・木登りなどが自由にでき、その遊びの見守りや支援を行う大人がいる遊び場」が59.3%、「水遊び・泥んこ遊び・木登りなどが自由にでき、その遊びの見守りや支援を行う大人がいる遊び場」が57.6%となっている。

就学児童では「気兼ねなくボール遊びなどができる広いグラウンド・広場」が最も多く71.0%、次いで「悪天候でも遊べる屋内の遊び場」が58.0%、「水遊び・泥んこ遊び・木登りなどが自由にでき、その遊びの見守りや支援を行う大人がいる遊び場」が50.1%となっている。

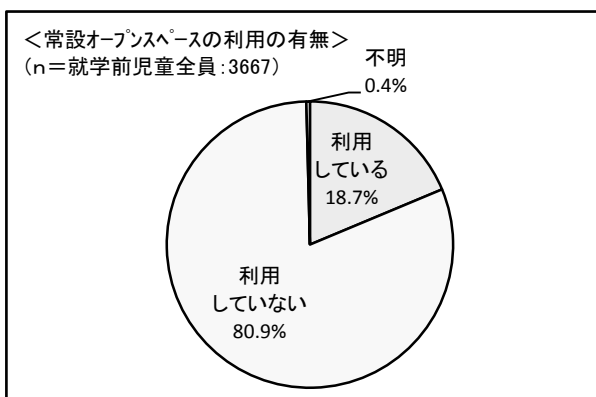
＜どんな遊び場があればいいと思うか＞（複数回答）（n=全員）



2. 地域子育て支援拠点事業(対象:就学前児童)

1) 常設オープンスペースの利用状況

常設オープンスペースの利用の有無について、「利用している」が18.7%、「利用していない」が80.9%となっている。年齢別に見ると、「利用している」と回答した人が0歳では35.6%、1～2歳では19.7%となっている。

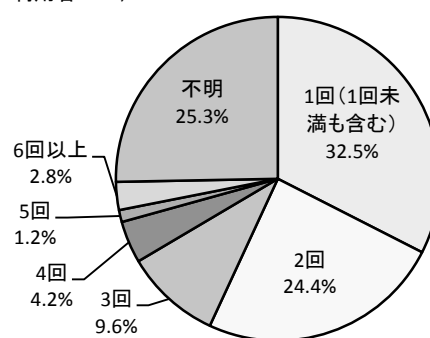


＜常設オープンスペースの利用の有無＞(n=就学前児童全員) (%)

	全体 (人)	利用 している	利用 していない	不明
就学前児童・計	3667	18.7	80.9	0.4
0歳	1141	35.6	63.7	0.7
1～2歳	1171	19.7	79.9	0.3
3歳以上	1327	3.1	96.8	0.2
不明	28	21.4	75.0	3.6

1か月あたりの利用頻度について、「1回(1回未満も含む)」が最も多く32.5%、次いで「2回」が24.4%、「3回」が9.6%となっている。

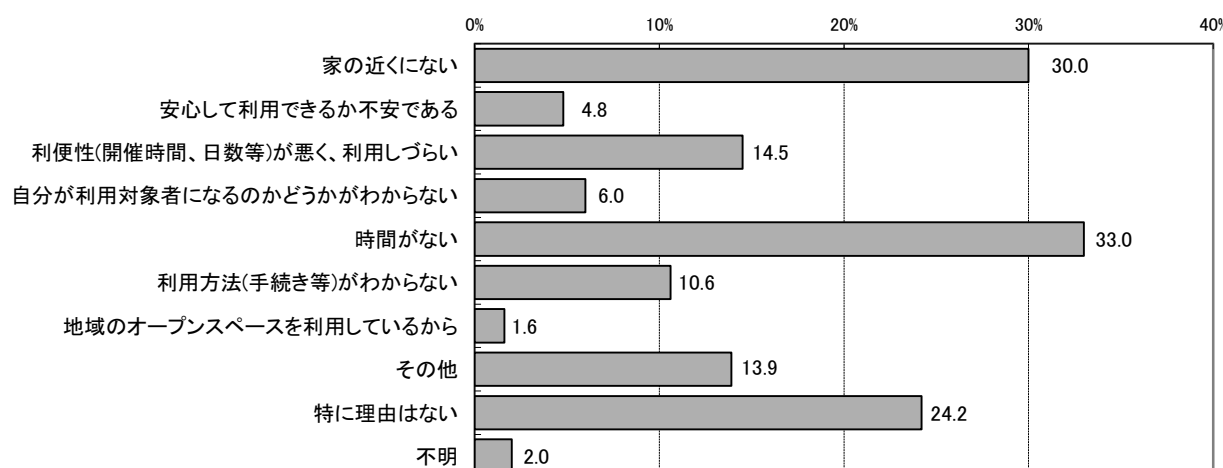
＜常設オープンスペースの1か月あたりの利用頻度＞
(n=利用者:684)



2) 常設オープンスペースを利用していない理由

常設オープンスペースを利用していない理由について、「時間がない」が最も多く33.0%、次いで「家の近くにない」が30.0%、「特に理由はない」が24.2%となっている。

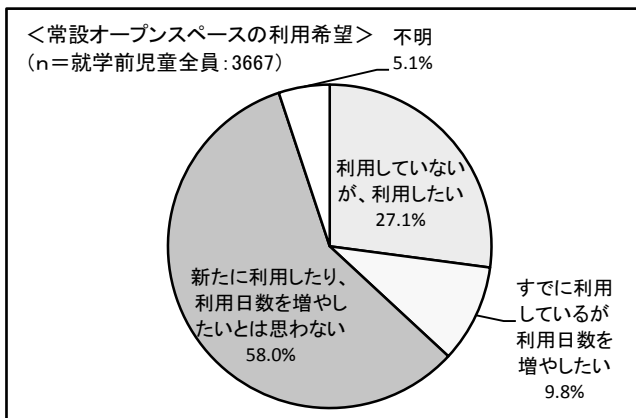
＜常設オープンスペースを利用していない理由＞(複数回答)(n=利用していない人:2968)



3) 常設オープンスペースの利用希望

常設オープンスペースの利用希望について、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が最も多く58.0%、次いで「利用していないが、利用したい」が27.1%、「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」が9.8%となっている。

年齢別に見ると、「利用していないが、利用したい」と「すでに利用しているが利用日数を増やしたい」と回答した人の合計が0歳では50.5%となっている。

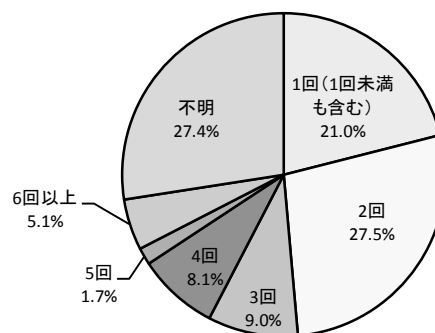


＜常設オープンスペースの利用希望＞(n=就学児童全員) (%)

	全体 (人)	利用 したい が、利	利用 する 日に 数を 増や してい たい	は利用 する 日に 数を 増や したい 、と利	不明
就学前児童・計	3667	27.1	9.8	58.0	5.1
0歳	1141	31.6	18.9	44.8	4.6
1～2歳	1171	28.0	10.5	57.2	4.3
3歳以上	1327	22.2	1.4	70.2	6.1
不明	28	39.3	3.6	46.4	10.7

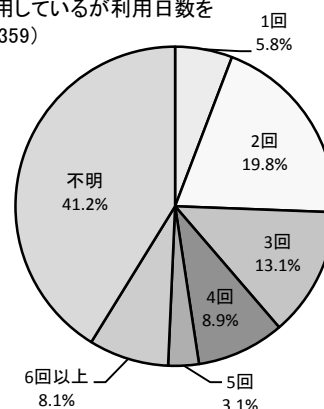
常設オープンスペースの1か月あたりの利用希望回数について、「2回」が最も多く27.5%、次いで「1回（1回未満も含む）」が21.0%、「3回」が9.0%となっている。

＜常設オープンスペースの1か月あたりの利用希望回数＞
(n=利用していないが、利用したい人:995)



常設オープンスペースの1か月あたりの追加利用回数について、「2回」が最も多く19.8%、次いで「3回」が13.1%、「4回」が8.9%となっている。

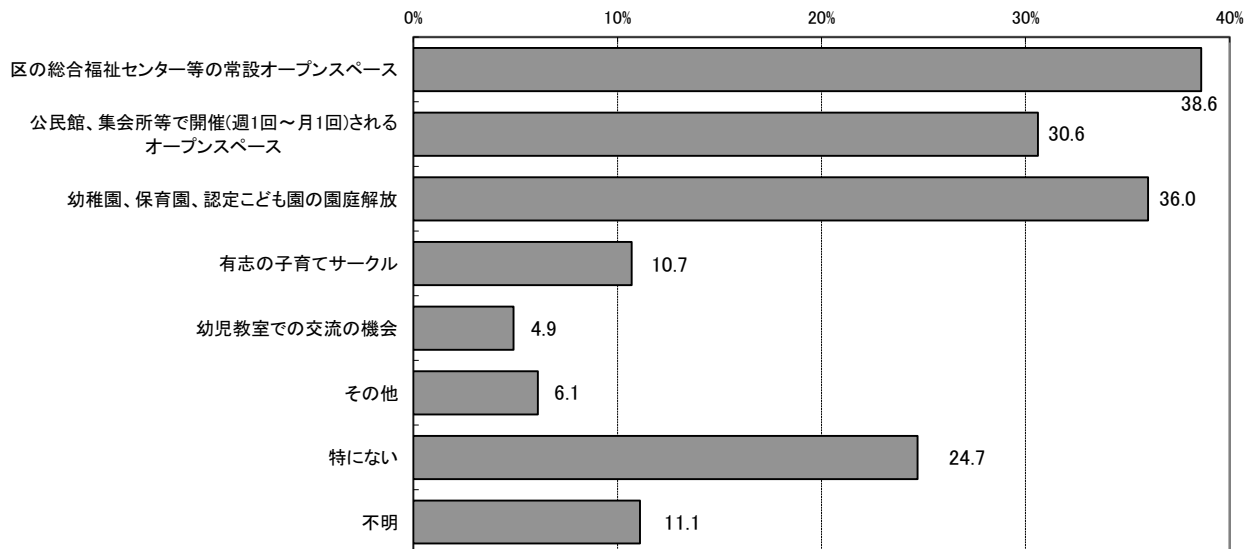
＜常設オープンスペースの1か月あたりの追加利用回数＞
(n=すでに利用しているが利用日数を増やしたい人:359)



4)3歳未満の子どもを対象とした交流の場の利用

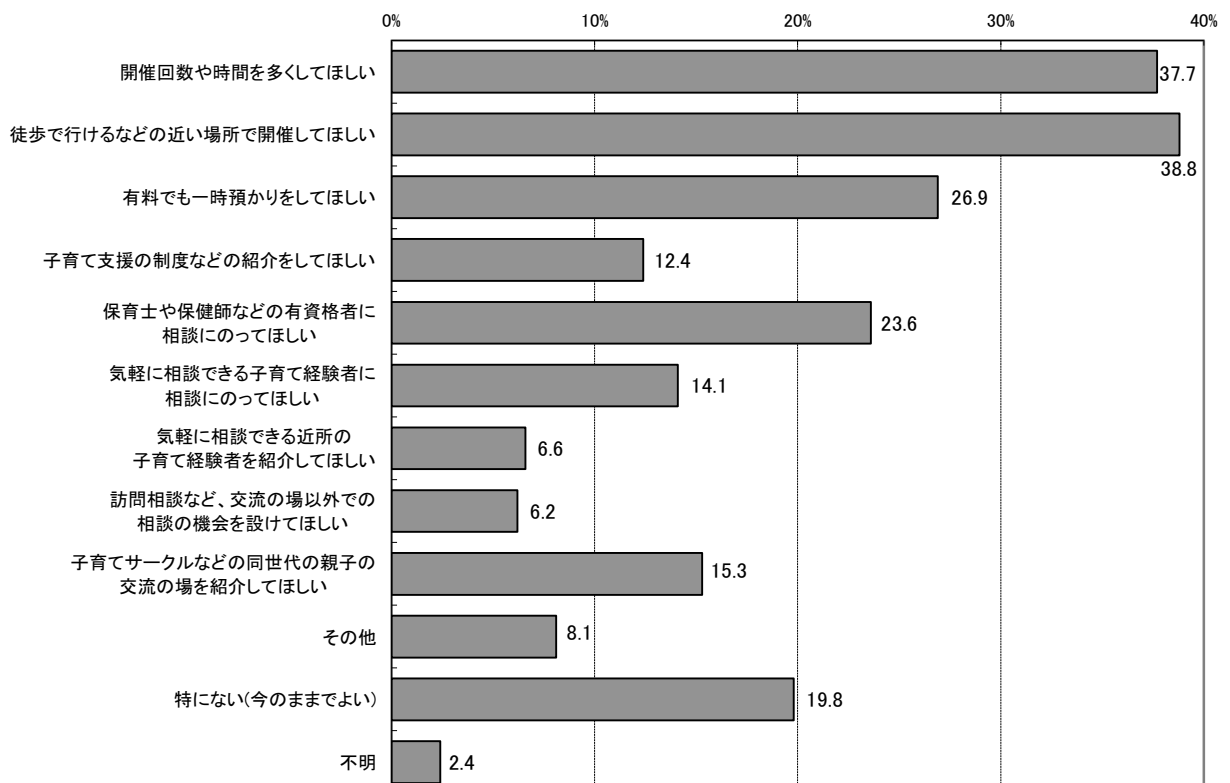
これまでに子どもと一緒に参加した交流の場について、「区の総合福祉センター等の常設オープンスペース」が最も多く38.6%、次いで「幼稚園、保育園、認定こども園の園庭解放」が36.0%、「公民館、集会所等で開催(週1回～月1回)されるオープンスペース」が30.6%となっている。

＜これまでに子どもと一緒に参加した交流の場＞(複数回答)(n=子どもが3歳未満の人:2312)



オープンスペースに対する希望について、「徒歩で行けるなどの近い場所で開催してほしい」が最も多く38.8%、次いで「開催回数や時間を多くしてほしい」が37.7%、「有料でも一時預かりをしてほしい」が26.9%となっている。

＜オープンスペースに対する希望＞(複数回答)(n=子どもが3歳未満でオープンスペース利用者:1143)



3. 子育て支援サービスの認知度・利用度・今後の利用希望

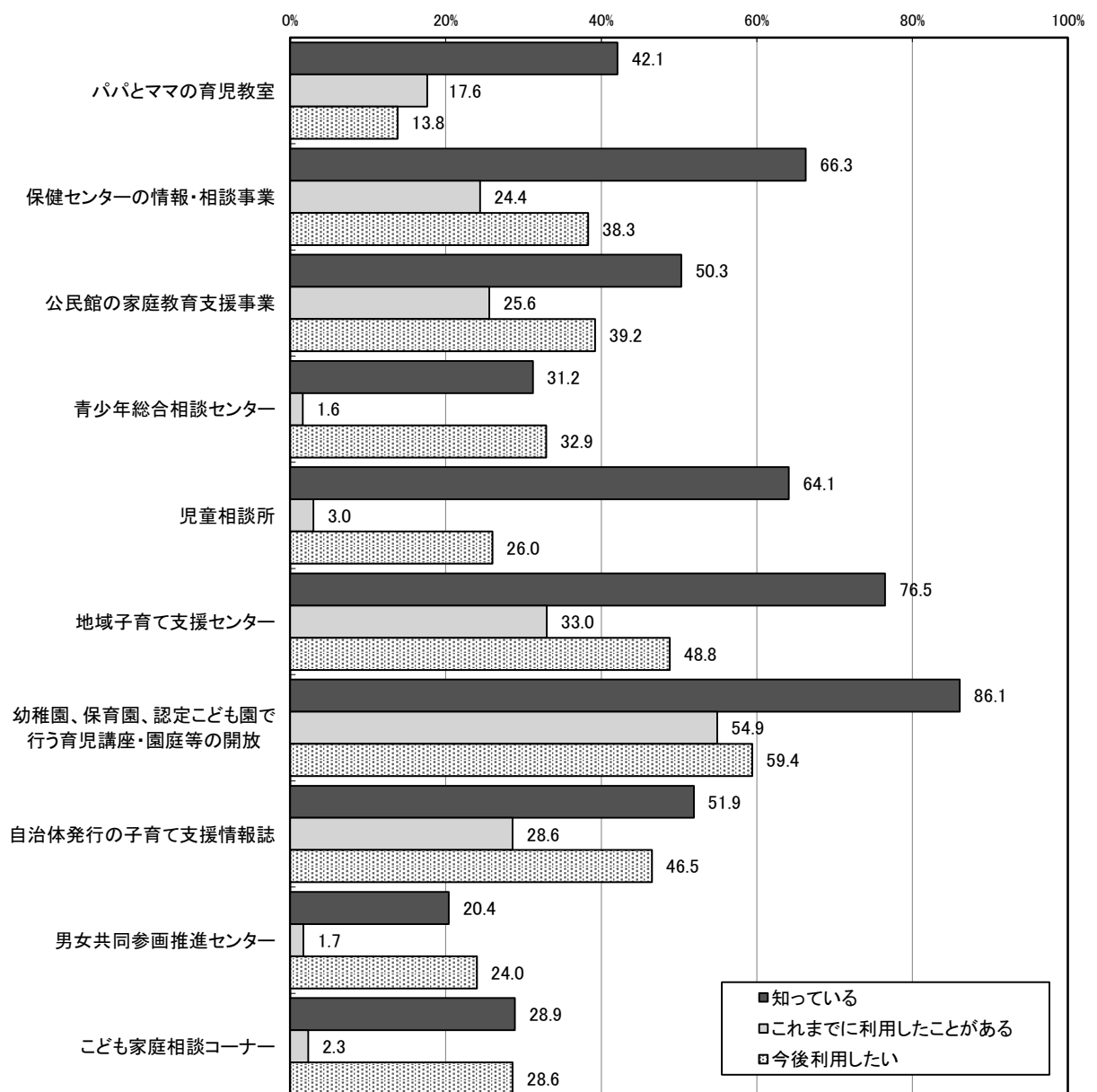
1) 就学前児童

子育て支援サービスについて、「知っている」と回答した人は「幼稚園、保育園、認定こども園で行う育児講座・園庭等の開放」が最も多く86.1%、次いで「地域子育て支援センター」が76.5%、「保健センターの情報・相談事業」が66.3%となっている。

「これまでに利用したことがある」と回答した人は「幼稚園、保育園、認定こども園で行う育児講座・園庭等の開放」が最も多く54.9%、次いで「地域子育て支援センター」が33.0%、「自治体発行の子育て支援情報誌」が28.6%となっている。

「今後利用したい」と回答した人は「幼稚園、保育園、認定こども園で行う育児講座・園庭等の開放」が最も多く59.4%、次いで「地域子育て支援センター」が48.8%、「自治体発行の子育て支援情報誌」が46.5%となっている。

＜子育て支援サービスの認知度、利用度、今後の利用希望＞（n＝就学前児童全員：3667）



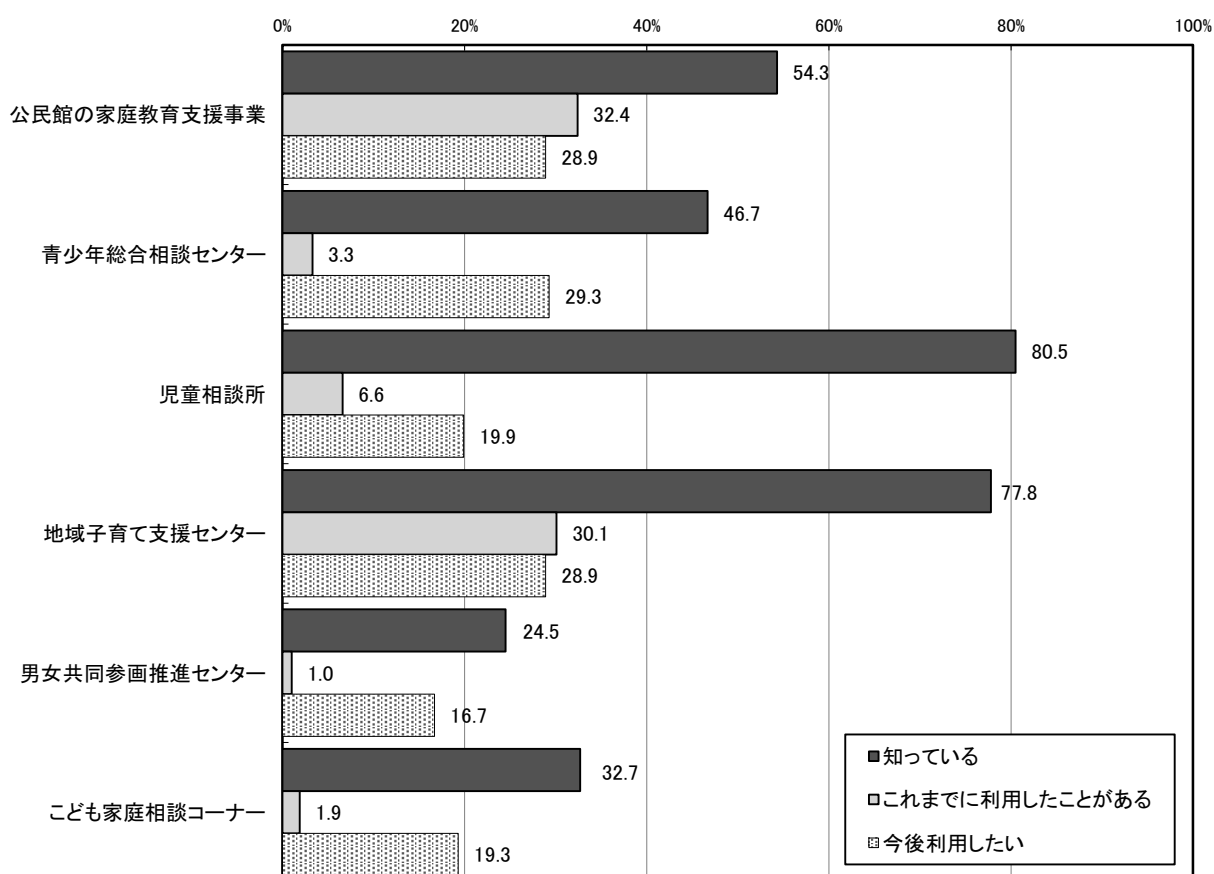
2)就学児童

子育て支援サービスについて、「知っている」と回答した人は「児童相談所」が最も多く80.5%、次いで「地域子育て支援センター」が77.8%、「公民館の家庭教育支援事業」が54.3%となっている。

「これまでに利用したことがある」と回答した人は「公民館の家庭教育支援事業」が32.4%、次いで「地域子育て支援センター」が30.1%、「児童相談所」が6.6%となっている。

「今後利用したい」と回答した人は「青少年総合相談センター」が最も多く29.3%、次いで「公民館の家庭教育支援事業」、「地域子育て支援センター」が28.9%となっている。

＜子育て支援サービスの認知度、利用度、今後の利用希望＞(n=就学児童全員:2426)



4. 子育てに関する悩みや不安感

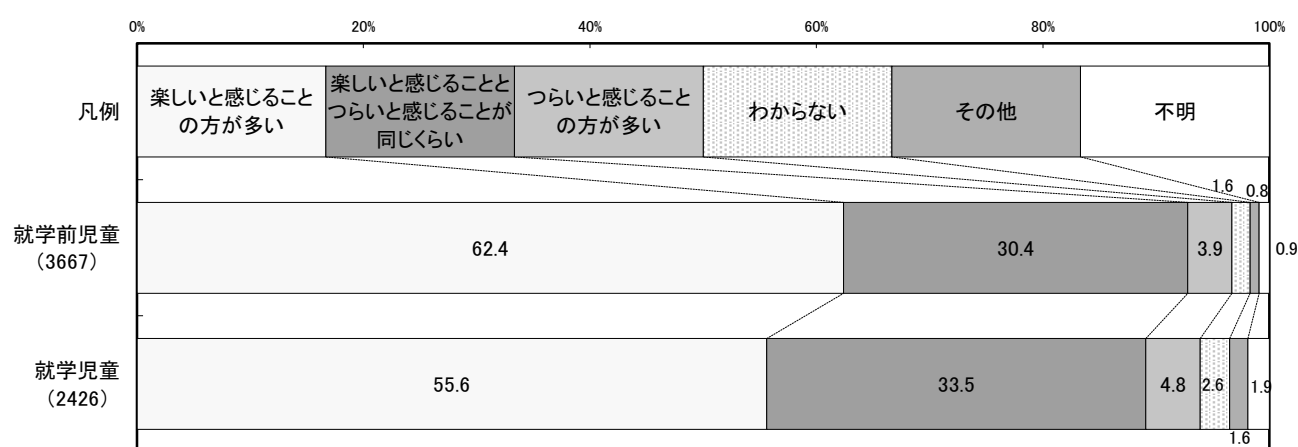
1) 子育ての楽しさと負担

子育ての楽しさと負担について、就学前児童では「楽しいと感じることの方が多い」が最も多く62.4%、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が30.4%、「つらいと感じることの方が多い」が3.9%となっている。

就学児童では「楽しいと感じることの方が多い」が最も多く55.6%、次いで「楽しいと感じることとつらいと感じることが同じくらい」が33.5%、「つらいと感じることの方が多い」が4.8%となっている。

年齢学齢別に見ると、「楽しいと感じることの方が多い」と回答した人は0歳で最も多く68.7%となっている。

＜子育ての楽しさと負担＞(n=全員)



＜子育ての楽しさと負担＞(n=全員)

(%)

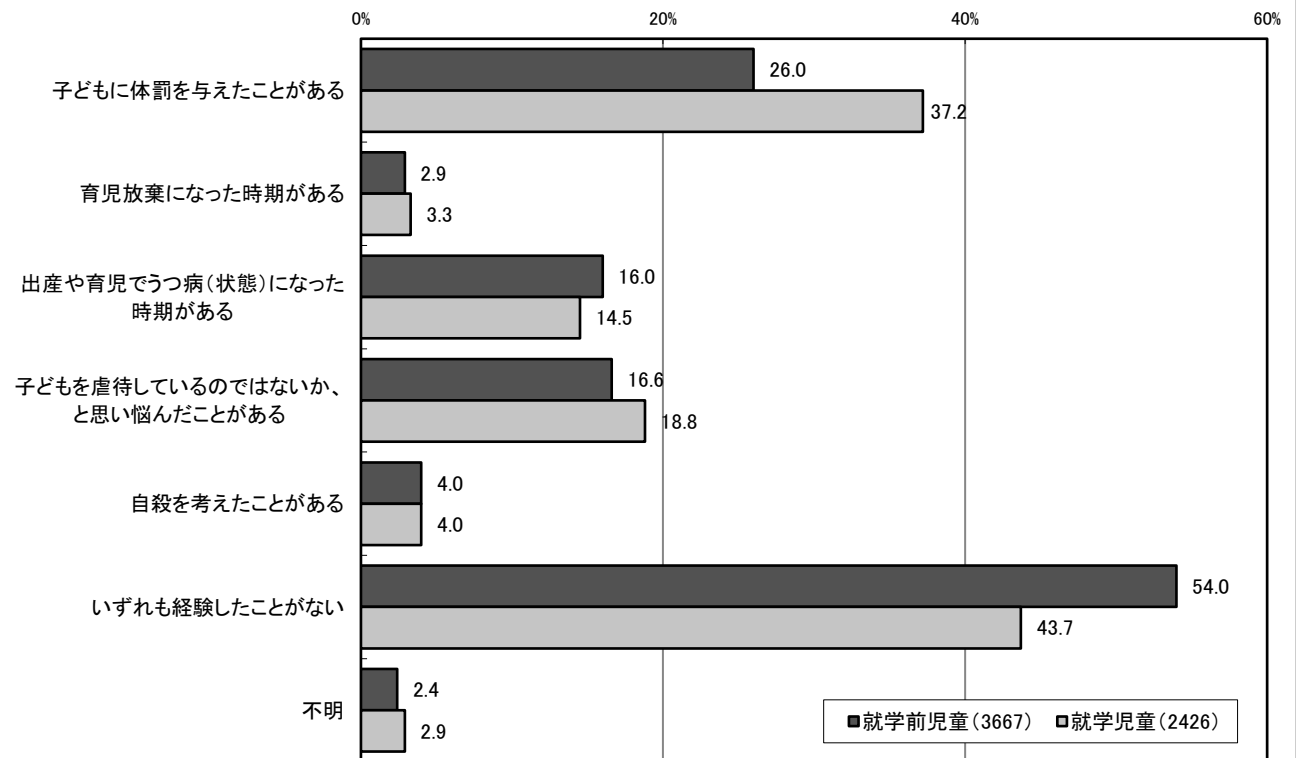
	全体 (人)	楽しい と感じ ること の方 が多い	楽しい と感じ ること と つらい と感じ ること が 同じ くらい	つらい と感じ ること の方 が多い	わ か ら な い	そ の 他	不 明
就学前児童・計	3667	62.4	30.4	3.9	1.6	0.8	0.9
0歳	1141	68.7	25.9	3.0	1.1	0.5	0.9
1～2歳	1171	62.2	31.1	3.3	1.4	1.4	0.7
3歳以上	1327	57.5	33.4	5.1	2.3	0.6	1.1
不明	28	46.4	42.9	3.6	0.0	0.0	7.1
就学児童・計	2426	55.6	33.5	4.8	2.6	1.6	1.9
低学年	1317	56.0	34.2	4.6	2.4	1.2	1.5
高学年	1083	55.4	32.5	5.1	2.8	2.1	2.1
不明	26	46.2	38.5	3.8	0.0	0.0	11.5

2)子育てにかかわってからの経験

子育てにかかわってからの経験について、就学前児童では「いずれも経験したことがない」が最も多く54.0%、次いで「子どもに体罰を与えたことがある」が26.0%、「子どもを虐待しているのではないか、と思い悩んだことがある」が16.6%となっている。

就学児童では「いずれも経験したことがない」が最も多く43.7%、次いで「子どもに体罰を与えたことがある」が37.2%、「子どもを虐待しているのではないかと、思い悩んだことがある」が18.8%となっている。

＜子育てにかかわってからの経験＞（複数回答）（n＝全員）



＜子育てにかかわってからの経験＞（複数回答）（n＝全員）

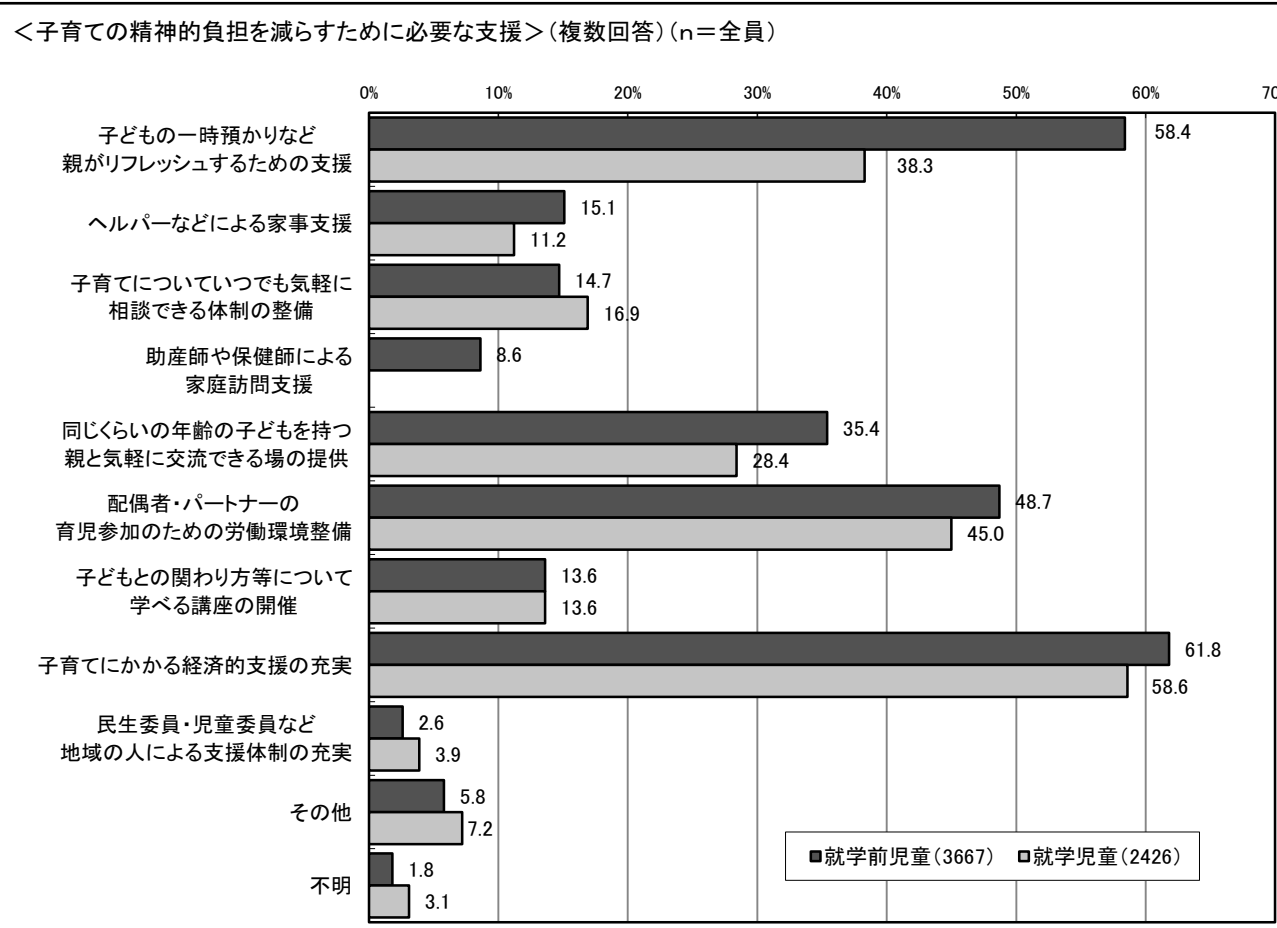
(%)

	全体 (人)	子どもに 体罰を 与えた こと がある	育児 放棄に なった 時期が ある	出産や 育児で うつ病 がある (状態)	子ども を虐待 してい るのだ かと思 い悩ん だこと がある	自殺を 考えた ことが ある	いづれ も経験 したこ とがあ る	不明
就学前児童・計	3667	26.0	2.9	16.0	16.6	4.0	54.0	2.4
0歳	1141	16.2	2.4	14.6	11.9	3.8	64.6	2.6
1～2歳	1171	25.4	2.6	15.9	16.1	3.5	54.7	2.2
3歳以上	1327	35.0	3.5	17.1	21.0	4.7	44.5	2.2
不明	28	28.6	7.1	17.9	21.4	7.1	42.9	7.1
就学児童・計	2426	37.2	3.3	14.5	18.8	4.0	43.7	2.9
低学年	1317	35.6	2.7	15.0	19.4	3.6	43.7	2.7
高学年	1083	39.3	4.0	13.9	18.0	4.5	43.6	3.0
不明	26	30.8	3.8	15.4	15.4	0.0	42.3	7.7

3)子育ての精神的負担を減らすために必要な支援

子育ての精神的負担を減らすために必要な支援について、就学前児童では「子育てにかかる経済的支援の充実」が最も多く61.8%、次いで「子どもの一時預かりなど親がリフレッシュするための支援」が58.4%、「配偶者・パートナーの育児参加のための労働環境整備」が48.7%となっている。

就学児童では「子育てにかかる経済的支援の充実」が最も多く58.6%、次いで「配偶者・パートナーの育児参加のための労働環境整備」が45.0%、「子どもの一時預かりなど親がリフレッシュするための支援」が38.3%となっている。



＜子育ての精神的負担を減らすために必要な支援＞（複数回答）（n＝全員） (％)

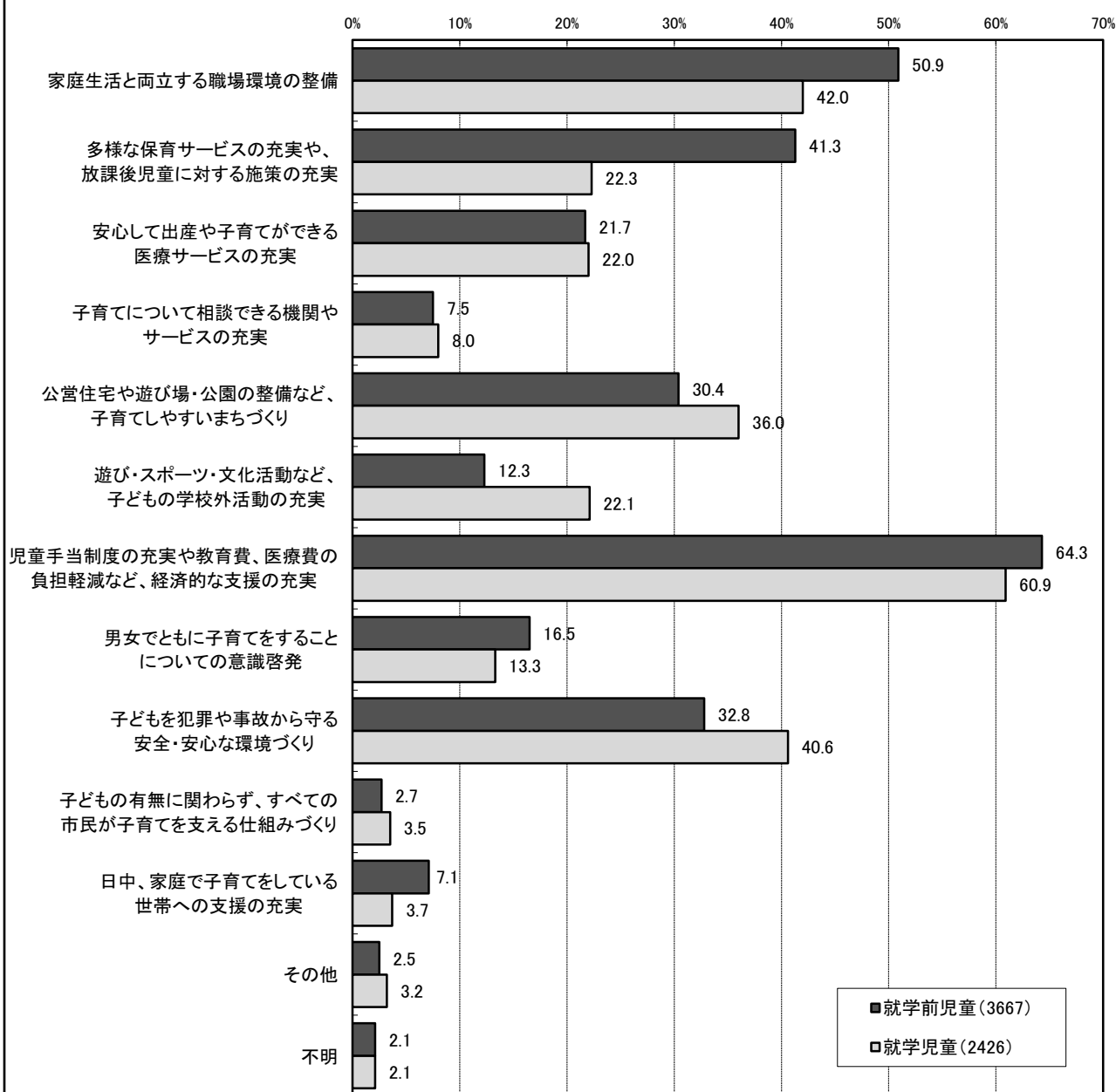
	全体（人）	子どもの一時預かりなど親がリフレッシュするための支援	ヘルパーなどによる家事支援	子育てについていつでも気軽に相談できる体制の整備	助産師や保健師による家庭訪問支援	同じくらいの年齢の子どもを持つ親と気軽に交流できる場の提供	労働環境整備の充実	配偶者・パートナーの育児参加のための支援	子どもとの関わり方等について学べる講座の開催	子育てにかかる経済的支援の充実	民生委員・児童委員など地域の人の支援体制の充実	その他	不明
就学前児童・計	3667	58.4	15.1	14.7	8.6	35.4	48.7	13.6	61.8	2.6	5.8	1.8	
0歳	1141	59.3	14.6	15.4	12.1	37.9	50.8	13.1	59.6	1.8	5.3	1.8	
1～2歳	1171	61.1	15.4	14.0	8.0	35.7	48.7	12.6	63.8	2.8	5.3	1.3	
3歳以上	1327	55.5	15.3	14.6	6.1	32.9	46.9	14.8	61.8	3.2	6.8	2.1	
不明	28	46.4	10.7	14.3	7.1	46.4	46.4	17.9	75.0	7.1	3.6	7.1	
就学児童・計	2426	38.3	11.2	16.9		28.4	45.0	13.6	58.6	3.9	7.2	3.1	
低学年	1317	42.4	12.1	16.1		29.6	46.5	13.8	57.9	3.6	6.7	2.5	
高学年	1083	33.3	9.9	18.0		27.1	43.5	13.5	59.6	4.2	7.8	3.4	
不明	26	38.5	19.2	11.5		19.2	30.8	11.5	53.8	7.7	7.7	15.4	

4)子育てしやすい社会づくりに向けた行政への期待

子育てしやすく、子どもが健やかに育つ社会をつくるために、国や市などの行政に期待することについて、就学前児童では「児童手当制度の充実や教育費、医療費の負担軽減など、経済的な支援の充実」が最も多く64.3%、次いで「家庭生活と両立する職場環境の整備」が50.9%、「多様な保育サービスの充実や、放課後児童に対する施策の充実」が41.3%となっている。

就学児童では「児童手当制度の充実や教育費、医療費の負担軽減など、経済的な支援の充実」が最も多く60.9%、次いで「家庭生活と両立する職場環境の整備」が42.0%、「子どもを犯罪や事故から守る安全・安心な環境づくり」が40.6%となっている。

＜国や市などの行政に期待すること＞(複数回答)(n=全員)



	全 体 （ 人 ）	家 庭 生 活 と 両 立 す る 職 場 環 境 の 整 備	多 様 な 保 育 サ ー ビ ス の 充 実 や 、 放 課 後 児 童 に 対 す る 施 策 の 充 実	安 心 し て 出 産 や 子 育 て が で き る 医 療 サ ー ビ ス の 充 実	子 育 て に つ い て 相 談 で き る 機 関 や サ ー ビ ス の 充 実	公 営 住 宅 や 遊 び 場 ・ 公 園 の 整 備 な ど 、 子 育 て し や す い ま ち づ く り	遊 び ・ ス ポ ー ツ ・ 文 化 活 動 な ど 、 子 ど も の 学 校 外 活 動 の 充 実	児 童 手 当 制 度 の 充 実 や 教 育 費 、 医 療 費 の 負 担 軽 減 な ど 、 経 済 的 な 支 援 の 充 実	男 女 で と も に 子 育 て を す る こ と に つ い て の 意 識 啓 発	子 ど も を 犯 罪 や 事 故 か ら 守 る 安 全 ・ 安 心 な 環 境 づ く り	子 ど も の 有 無 に 関 わ ら ず 、 す べ て の 市 民 が 子 育 て を 支 え る 仕 組 み づ く り	日 中 、 家 庭 で 子 育 て を し て い る 世 帯 へ の 支 援 の 充 実	そ の 他	不 明
就学前児童・計	3667	50.9	41.3	21.7	7.5	30.4	12.3	64.3	16.5	32.8	2.7	7.1	2.5	2.1
0歳	1141	55.4	37.9	23.4	8.6	29.4	8.3	65.0	17.8	31.6	2.5	9.7	2.4	1.8
1～2歳	1171	49.6	42.2	22.0	7.0	31.9	11.0	65.1	16.1	30.1	3.4	9.0	3.1	2.2
3歳以上	1327	48.2	43.3	20.0	6.8	29.8	16.6	63.1	15.7	36.2	2.1	3.3	2.0	2.2
不明	28	50.0	42.9	17.9	14.3	32.1	25.0	53.6	14.3	35.7	7.1	7.1	3.6	3.6
就学児童・計	2426	42.0	22.3	22.0	8.0	36.0	22.1	60.9	13.3	40.6	3.5	3.7	3.2	2.1
低学年	1317	42.4	28.4	20.7	6.5	38.0	21.5	59.5	13.1	43.2	3.9	3.6	2.8	1.9
高学年	1083	41.5	15.0	23.3	9.4	33.7	22.6	62.8	13.7	37.7	2.9	3.8	3.6	2.3
不明	26	42.3	15.4	34.6	19.2	30.8	26.9	53.8	3.8	34.6	7.7	0.0	3.8	7.7

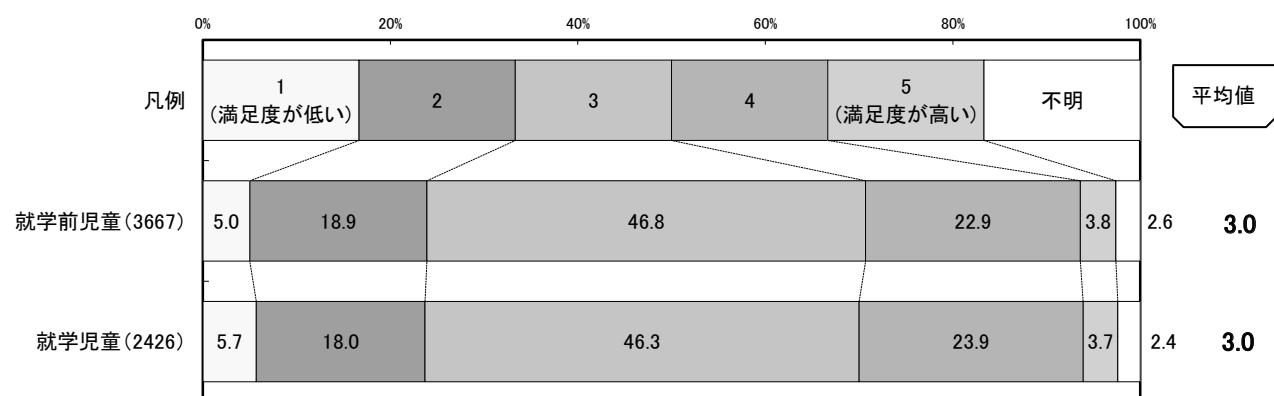
5) 地域における子育ての環境や支援への満足度

地域における子育ての環境や支援への満足度（5段階評価）について、就学前児童では「3」が最も多く46.8%、次いで「4」が22.9%、「2」が18.9%となっている。

就学児童では「3」が最も多く46.3%、次いで「4」が23.9%、「2」が18.0%となっている。

なお、就学前児童、就学児童ともに、満足度の平均値は3.0となっている。

＜地域における子育ての環境や支援への満足度＞（n＝全員）



＜地域における子育ての環境や支援への満足度＞（n＝全員）

(%)

	全体 (人)	1 (満足度が低い)	2	3	4	5 (満足度が高い)	不明
就学前児童・計	3667	5.0	18.9	46.8	22.9	3.8	2.6
0歳	1141	4.4	18.8	45.5	25.6	3.7	2.1
1～2歳	1171	5.0	17.4	48.3	22.6	4.1	2.6
3歳以上	1327	5.7	20.4	46.2	20.9	3.8	2.9
不明	28	3.6	14.3	60.7	14.3	0.0	7.1
就学児童・計	2426	5.7	18.0	46.3	23.9	3.7	2.4
低学年	1317	5.1	19.1	46.0	24.7	3.6	1.6
高学年	1083	6.3	16.4	47.1	23.2	3.8	3.2
不明	26	11.5	30.8	26.9	19.2	3.8	7.7

V. 子育て支援に関する意見

「子育て支援に関する意見」を分類し、回答総数を100%とした割合を出したのが下のグラフである。

■就学前児童

「保育」に対する意見が最も多く28.7%となっており、中でも「保育料」（5.0%）についての意見が多い。

次いで「行政支援サービス」に対する意見が14.2%となっており、中でも「オープンスペース」（4.5%）についての意見が多い。

次いで「保健医療」に対する意見が12.2%となっており、中でも「医療・医療費」（10.5%）についての意見が多い。

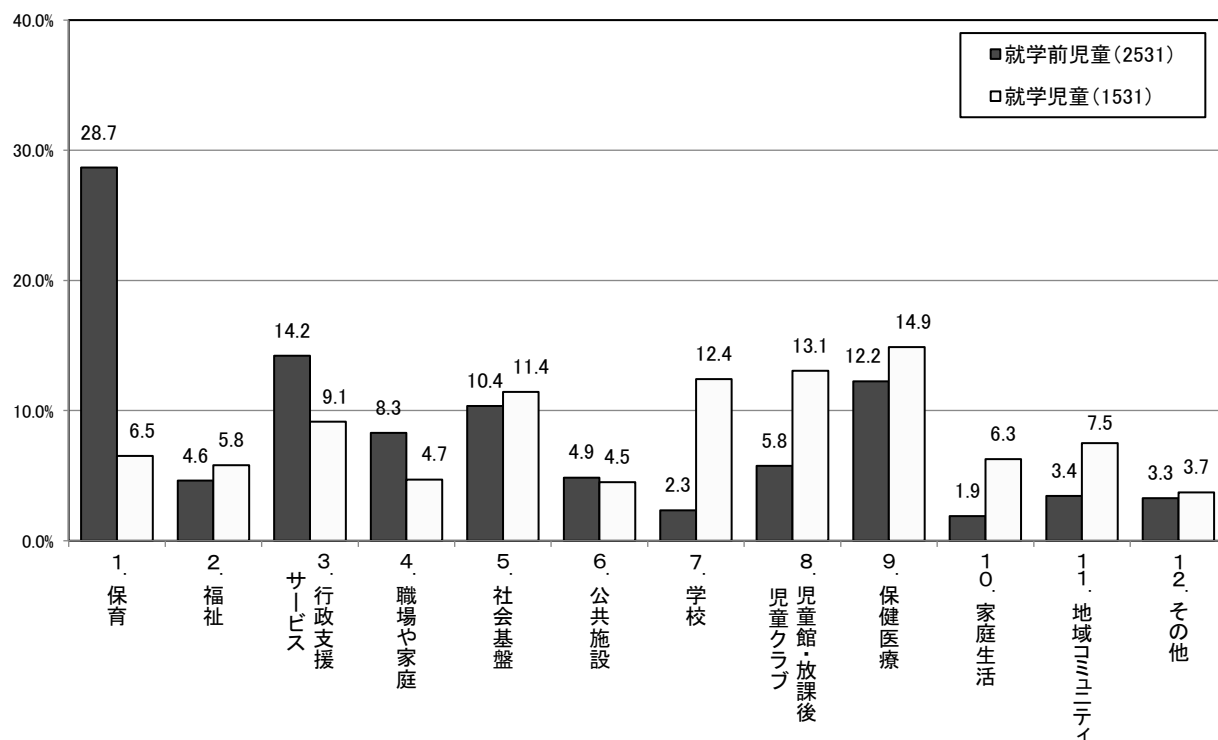
■就学児童

「保健医療」に対する意見が最も多く14.9%となっており、中でも「医療・医療費」（13.1%）についての意見が多い。

次いで「児童館・放課後児童クラブ」に対する意見が13.1%となっており、中でも「放課後児童クラブ」（5.4%）についての意見が多い。

次いで「学校」に対する意見が12.4%となっており、中でも「学校教育」（4.4%）についての意見が多い。

＜子育て支援に関する意見＞（n＝回答総数）



<意見・小分類> (n=回答総数)

		就学前児童		就学児童	
1 保育 (p.71)	(1)施設設備(幼稚園含む)	45	1.8%	0	0.0%
	(2)保育サービス等(幼稚園含む)	66	2.6%	2	0.1%
	(3)保育園・幼稚園入所	118	4.7%	10	0.7%
	(4)待機児童	67	2.6%	6	0.4%
	(5)保育料(保育園・幼稚園共に)	127	5.0%	25	1.6%
	(6)保育士(幼稚園教諭)	115	4.5%	17	1.1%
	(7)認定こども園	12	0.5%	0	0.0%
	(8)一時預かり	92	3.6%	11	0.7%
	(9)病児保育	26	1.0%	15	1.0%
	(10)その他	58	2.3%	14	0.9%
	計	726	28.7%	100	6.5%
2 福祉 (p.75)	(11)ひとり親世帯	7	0.3%	12	0.8%
	(12)児童手当	69	2.7%	38	2.5%
	(13)手当(育児休業給付金等)	13	0.5%	0	0.0%
	(14)その他	28	1.1%	39	2.5%
	計	117	4.6%	89	5.8%
3 行政支援サービス (p.76)	(15)情報提供	51	2.0%	26	1.7%
	(16)支援施策	57	2.3%	36	2.4%
	(17)相談窓口	26	1.0%	29	1.9%
	(18)オープンスペース	114	4.5%	0	0.0%
	(19)経済的支援	57	2.3%	33	2.2%
	(20)その他	55	2.2%	16	1.0%
	計	360	14.2%	140	9.1%
4 職場や家庭 (p.79)	(21)産休・育休	71	2.8%	3	0.2%
	(22)育児の分担	18	0.7%	10	0.7%
	(23)ワークライフバランス	25	1.0%	10	0.7%
	(24)職場環境の改善	62	2.5%	21	1.4%
	(25)その他	34	1.3%	28	1.8%
	計	210	8.3%	72	4.7%
5 社会基盤 (p.80)	(26)道路	47	1.9%	21	1.4%
	(27)安全なまちづくり	23	0.9%	48	3.1%
	(28)公園	190	7.5%	106	6.9%
	(29)その他	2	0.1%	0	0.0%
	計	262	10.4%	175	11.4%
6 公共施設 (p.82)	(30)図書館	8	0.3%	8	0.5%
	(31)遊び場	64	2.5%	45	2.9%
	(32)公民館・スポーツ施設等	30	1.2%	16	1.0%
	(33)その他	21	0.8%	0	0.0%
	計	123	4.9%	69	4.5%
7 学校 (p.83)	(34)学校教育	18	0.7%	67	4.4%
	(35)教員	8	0.3%	25	1.6%
	(36)その他	33	1.3%	98	6.4%
	計	59	2.3%	190	12.4%
8 児童館・放課後児童クラブ (p.84)	(37)児童館	42	1.7%	45	2.9%
	(38)放課後児童クラブ	65	2.6%	83	5.4%
	(39)その他	39	1.5%	72	4.7%
	計	146	5.8%	200	13.1%
9 保健医療 (p.85)	(40)保健センター等	17	0.7%	9	0.6%
	(41)医療・医療費	267	10.5%	201	13.1%
	(42)その他	26	1.0%	18	1.2%
	計	310	12.2%	228	14.9%
10 家庭生活 (p.86)	(43)家庭・生活	27	1.1%	76	5.0%
	(44)その他	21	0.8%	20	1.3%
	計	48	1.9%	96	6.3%
11 地域コミュニティ (p.87)	(45)地域支援	32	1.3%	89	5.8%
	(46)交流	42	1.7%	17	1.1%
	(47)その他	13	0.5%	9	0.6%
	計	87	3.4%	115	7.5%
12 その他 (p.88)	(48)その他	83	3.3%	57	3.7%
	計	83	3.3%	57	3.7%
総合計		2531	100%	1531	100%

主な意見の抜粋

※複数の事項について記載のある意見は、代表的な項目に分類しています。

1. 保育

(1)施設設備(幼稚園含む)

【就学前児童】

・ 保育園を増やしてほしい。
・ 保育施設の充実。
・ 保育園の園庭を広くしてほしい。
・ 認可保育施設をもっと増やしてほしい。
・ 公立幼稚園をこれ以上減らさないでほしい。ニーズが少なくなっている必要としている家庭もあります。
・ 現在自分の子どもを通わせている保育園や、園庭開放、見学などで複数の市立保育園(認可)を見た事があるが、いずれも施設や設備が古すぎる。ドアのたてつけの悪さや案内、トイレの汚さ(古くて暗く水はけも悪い)など、私立の幼稚園などと比べ環境が悪すぎる。子育ての環境に投資されてないと感じる。(たくさん税金を払っても保育園にはお金使われてないんだな…と感じる。)
・ 安佐南区は子どもの人数が多い為、保育園や幼稚園に入りづらく、働きたくてもなかなか働けないです。無認可はいろいろと事故などもニュースなどで耳にする事が多く、子どもを預ける事が少し不安な面もあります。少しずつ保育園は増えていますが、希望する幼稚園は増えません。できれば認定こども園に入れたいと考えておりますが、認定こども園も少なすぎてなかなか難しいです。もう少し幼稚園を増やして欲しいです。

(2)保育サービス等(幼稚園含む)

【就学前児童】

・ 発達支援の充実、保育園での専門職の方がいてくれるとありがたいです。
・ 保育園に教育面を幼稚園と同等に行ってほしい。色、数、ひらがなの読み書き等、教えてほしいです。家庭学習では、時間も環境も悪く、なかなか進まない。
・ 認可保育園に通ってます。園から、土曜日はなるべく預けない方向で説明されます。必ず、仕事の人のみと言われます。平日、毎日仕事、我が家は三人子どもがおり、たまにの休みを遊ぶわけでもないし、家事、平日できない家の片づけ、子どもたちがいないと出来ないのに…。保育料払ってるのに…。息抜きなんて贅沢がしたいわけではないのに…。夫は仕事、一人で三人見ながら家事育児、家庭環境はそれぞれ違う。
・ 市の保育園でお世話になっています。知り合いで認可保育園であるが市の保育園ではない方の話では未満児でも発表会があったり、水泳や体操教室など教育に力を入れているの知ってうちの子の保育園ではそこまでしていない様に思います。先生方には感謝しかないのですが、保育園、幼稚園での教育の格差はあると思います。全く同じに出来ないのは分かりますが、小学校に上がった時に差があったりするのかなと思った事はあります。保育料も決して安くはないのでもう少しして欲しいなと思った事はあります。
・ 保育園3歳以上児のごはんの持参を廃止してごはんも給食にしてもらいたい。ごはん分の金額なら出してもかまわないので。夏には食中毒などの不安もあります。
・ 仕事以外の理由で土曜日に保育園を利用したい(例:親の病院、美容室、育休中で夫は仕事や不在)が、仕事の無い日は基本的にはダメと言われる。ウソをついて預ける人もいるが、気分が悪く自分には出来ないもので、堂々と預けたい。保育園によっては理由も聞かず、快く土曜日も預かってくれる所もあり、差がある。
・ 希望する人が、フルタイム・パートタイム等の仕事の有無にかかわらず、保育してもらえ施設をもっと増やしてほしいです。週2〜3日でもいいと思います。
・ 保育園によって、英語や体育の教室の時間がある保育園があると聞いた。仕事をしているとなかなか習い事をさせてあげる時間がないので、保育園でも小学校へ上がる準備として勉強の教育もしてほしい。

【就学児童】

・ 保育園への入園は、ハードルが高過ぎる。短時間の就労でも保育してもらえると助かる。短時間でも働きたいが保育園に入園できないと働けない。就労時間によって、保育時間を決められてしまうのはやめてほしい。保育中に就労、家事を全て終わらすことが出来れば、子どもとの時間をもっと作れるし、楽しめる。子どもを家で見守りながら家事等するのは個人的につらいことがある。(子どもの要求に答えられない)「一緒に遊ぼう」「そばにいてほしい」という子どもの要求。

(3)保育園・幼稚園入所

【就学前児童】

・ 希望する保育園などに入れるようにしてほしい。近くに保育園があるのに遠くの保育園に通うのは、なかなかしんどいと思う。
・ 1歳の時点で保育園に入所できず延長中です。上に年子の子どもがおり保育園入所中です。しかし翌年3/31までしか保育園の入所が許されていません。3/31以降も入所するためには、4/1に絶対復帰するのが条件です。しかしそうすると下の子の慣らし保育をすることなく復帰ということになります。下の子の精神的な負担も考えると、このシステムの改善をお願いしたいです。
・ 4月から子どもを保育園に入れて育休から復帰しようと考えているが、無事受かって保育園に入園できるのか不安に思う。
・ 職場の事情もあり、9カ月で復帰しましたが、時期によっては上の兄弟と同じ保育園に入れられないかもしれないという不安もあり、復帰時期を早めました。実際に、第1子と第2子で異なる保育園に通園していたこともあり、その時は本当に大変でした。利用したい時に保育園を利用できる環境を整えてもらいたい。また保育園の保護者の中には本当に保育の必要性がないような方もいます。利用にあたり優先度を見極めてもらいたい。
・ 子どもが2歳半ですが、認可保育園に受かりません。まずはこの問題を解決していただきたい。
・ 保育園には大変お世話になっていて、私自身大変助かっています。ただ、2人目と3人目の子どもが別々の保育園のため朝・夕のお迎えに疲れ、子どもにあたったり自分のイライラがおさまらない時があります。保育園だけのストレスではないとは思いますが、できれば仕事をせず子育てができれば良いですが、経済的に厳しく園に頼らざるを得ません。来年は同じ園に入れば…と思います。
・ 2〜3年後、仕事復帰を計画した時に保育園などにスムーズに入ることができたらとても嬉しいです。

主人の転勤に伴い、広島市に転入したタイミングで子どもを授かり、仕事を始めたいが優先度が低く保育園に入ることができない。入園もできない、入園できる確約もないため、就職活動すらできない。マザーズハローワークも中区にしかなく、気軽に行くこともできない。保育園に希望する人が入園できるようにしてほしい。
今現在、上の子と下の子がちがう保育園に通っています。朝から保育園をハシゴする事も大変ですし、できれば同じとこに通わせてあげたかったです。上の子も「妹が同じ保育園にいたらお世話したりできるのに・・・」と言い、同じクラスで弟・妹が同じ保育園にいるお友達をうらやましがっています。親のためだけでなく、子どものためにも兄弟同じ保育園に優先的に入れることを希望します。
2019年10月から、幼稚園や保育園費用が無償化することが予定されていますが、もしそうすると費用が掛からなくなることは大変うれしいことですが、幼稚園や保育園に園児の偏りがでてくるのではないかと不安です。できれば上の子と同じところに入園させたいけど、あまりにも人数が少ないと友達作りができるか、また小学校に上がる時のことなど悩みが出てきます。どこに入園させるかは自由ですが、偏りは少なくなるといいなと思ってます。
保育園入園を1歳前後で考えているが、1月生まれの為1歳児入園となり、希望する園は入れないと思う。上の子と下の子を別々の園に送り迎える(公共交通機関)のは負担がかなり大きく、場合によっては退職も考えざるをえない。2020年4月に2人目の子が入園できなければ上の子は退園。希望外の保育園に入って転園待ちをすると、育休復帰の点数が無くなり、選考にて不利になる。結果別々の園にもずっと通う事となる。
一番の不安は幼稚園に入ることができるかどうかという点です。広島に住み始めて、1年も経過していないので地理などにもうとく、情報をつかみにくいのが現状です。行政から積極的にアプローチしていただきたく思います。又、幼稚園に入るタイミングで転勤の可能性もあるので、そういったケースにも対応していただけると安心できると思います。

【就学児童】

保育園にいつでも入所できる態勢をととのえてほしい。働きたいと思っていても、保育園がきまらず働けない現状があった。
保育園に入れたくても入れない状況です。なんとかして欲しい。

(4)待機児童

【就学前児童】

1年間待機児童でした。今年度から保育園に入れましたが、少し遠くの保育園にしか入れませんでした。その辺りの充実を希望します。
働く準備は出来ていたのになかなか保育園が決まらず、数カ月待機でした。1歳児の入園が多いので、待つのは覚悟していましたが、その間、何もできないのが不安でした。職場にも待っていただいていたので、自分の居場所がなくなるのでは？と思った時もありました。待機児童は期間もないのでつらいです。
H31. 10～無償化などにするのではなく、まずは待機児童をなくしてどんな家庭状況の子も保育園に行けるようにしてほしい。
保育園の待機児童をなんとかしてほしい。入れればどこでもよいわけではない。大切な子どもを預けても大丈夫だと親が思える場所に入れたい。今は、選べる環境ではない。
規模や人員に限りがあるのは理解しているが、まずは待機が出ないようにする、もしくは待機が出た場合の対応をすぐできるようにしてほしい。
現在、保育園に入ることができません。待機児童を減らして欲しいです。
保育料の無償化よりも施設の増設を望みます。タダで入れる事になったとしても、受け入れ先がなければ無意味です。3才未満児の受け入れ数を増やして下さい。
保育園をもっと増やしてすぐに入れるような環境作りを望んでいます。働きたいママはいっぱいいます。
保育施設が不足している。就活したいけど預け先が見つからない。
私は運よく希望の保育園に入園することができましたが、やはり保育園の数が少ないと思います。途中入園になると厳しく、私は1歳のタイミングで保育園にいれたかったのですが、年度かわりの4月(8カ月のとき)で入れました。希望するタイミングで入園したかったのが本音です。

【就学児童】

保育園の待機児童問題の解決。
保育園の待機児童数が減るように施設の増加(民間委託・有料でも良いと思います)を希望します。

(5)保育料(保育園・幼稚園共に)

【就学前児童】

保育園0歳～1歳 保育料無償化希望。(所得関係なく。)保育料金が高いです…。
保育園の費用が高い。費用のために働いているので意味がない。
保育料の無償化は子どもを預けやすくなるが、預けられっぱなしで、さみしい思いをするのではないかと思います。便利さだけでなく、子どもたちの心を育てていける社会になってほしいです。
保育料が負担になっています。どうか、よろしくお願い致します。働いても、働いてもつらいです。
3歳未満児の保育料がもう少し安くなると助かります。
働きたくても働けない。思うように働けず、保育料で収入がどんどんなくなってしまうという声を周囲でもよく耳にします。皆がもっと豊かに子育てできる環境になるようによろしくお願いいたします。
保育料が高く、フルタイムで働く必要があるので減額してほしい。
保育料が高いため、なんのために働いているのかわからないと思う。派遣で出産前から働いているが、保育園の申し込み等、正社員で働いている人のためのものという印象がとて強かった。
子どもは1人1人平等であるべきだと思います。頑張っても所得制限があることや保育料の差を減らして欲しいです。

【就学児童】

今後働くことを考えていますが、保育料の無償化も途中で打ち切りにならないよう頑張ってもらえることを願っています。
認可外保育の保育料も自治体に補助してもらいたい。
保育園の保育料が高いのでかなり負担になります。金額を下げてほしい。

・	保育園、幼稚園の保育料無料化は必要ない。条件をつけて無償化を検討してほしい。3人の子どもの将来がとても心配に思える。
---	--

(6)保育士(幼稚園教諭)

【就学前児童】

・	保育園の保育士の方にはとてもお世話になっていて感謝しています。そんな保育士の先生方の待遇が改善されると良いなと思います。
・	保育・教育に携る人の待遇を充実させ、人員を増やして精神的負担を減らして欲しい。そうすることで子ども達のことをより考え、大切にしてくれる環境が整っていくと思う。
・	支援の多様化は受け皿を増やすという意味では有効かもしれませんが、数を増やすだけでは「箱が増えただけ」質が追いつかないのではないのでしょうか。有資格者(保育士など)の給与改善も必須です。保育する人、される人(子ども)、どちらのゆとりも重要視していただければと思います。
・	兄がいますが、幼稚園の先生不足を感じます。先生を育てる、長く働いて頂ける環境づくりが大切かと思います。それが保育教育に大きな影響がある気がします。質の向上を求めます。
・	通っている保育園の保育士の数が十分でなく、離職率が高い。待遇改善して安心して通わせられるようにしてほしい。
・	保育士をしています、保育士が足りないことで、子どもが保育園に入れなかったり、早く復帰してほしいなどがあり、保育士の処遇を良くしてたくさん保育士になりたいと思えるようにしてほしい！！
・	保育士の就労条件(環境)を改善してあげて欲しい。保育士の正規採用人数の増加。教育関係職員の正規採用人数の増加。
・	保育所には大変感謝しているのですが、私立と公立では私立の方が公立よりも手厚い感じがあるにもかかわらず、保育士さんへの対遇に格差があるように感じます。差が給与や休みなどにあるのかはよく知りませんが、もし差があるのなら是正してほしいです。→保育士さんにやめてもらいたくないです。
・	生後6か月から保育園にお世話になっております。手作りの給食やおやつを提供していただいたり、温かい先生方がたくさんいらっしゃる、安心して子ども達を預ける事ができ、とても感謝しております。ただ、毎年辞めていかれる保育士の方が多すぎるのが、悲しいです。子ども達が大好きな先生が辞められると不安になるので、保育士の方が辞めない環境作りをしっかりと頂きたいです。
・	今の保育園は先生の人数が子どもに対して少なく感じる(一人一人をちゃんとみていない気がする。)

【就学児童】

・	3人共保育園に預けて、乳幼児期を過ごしましたが、一番感じるのは先生方の入れ替わりが激しいという事です。他の保育園、認定こども園などでも同様の事をよく耳にします。個人個人の先生方は素晴らしいけども、その雇用の背景には、やはり過労働、低賃金の問題が出てきます。まだまだ不安定な乳幼児期に親ではない大人が毎日たくさんの子どもの事と関わる事は本当に大変です。先生であれ人間なので、やはり余裕がないと子ども達への影響となって返ってくる事も出てきます。預ける親も預かる園も安心して保育できるよう、人員の確保、育成を含め、賃金の改定を強く求めます。
・	保育士の方への待遇は、もっと充実すべきだと思います。日中ずっとたくさんの子どもの生活を見守るというのは、本当に激務だと思います。あれだけの人数の子どもの事と過ごす中、一人ひとりをきちんと気にかけて下さいました。わが子だけ見るのも大変なのに…。保育士の方はすごい…と心から尊敬しています。一生懸命子どもたちとかわかって下さる保育士の方が、もっと働きやすくなってほしいです。給与ももっと高くていいと思います。命をあずかるお仕事です。
・	保育士や教員の育成にも力を入れて、園の増加や余裕のある教員の配置など、より良い環境にしてもらいたいです。
・	直接子どもに関わる人の満足度が高くないと、なかなかよい教育や保育ができないと思います。働く時間や有休などの取りやすさ、お給料などの待遇を見直してほしいです。制度としてはあっても実態とはかけはなれているのでは・・・?と思うような長時間労働の保育士さんをお見かけします。子ども達には未来があるので、直に関わる人は雇用主が厳しく選べるような人気の職業に押し上げてほしいです。その場合、お給料は大切ですよ。

(7)認定こども園

【就学前児童】

・	認定こども園に通わせていますが、土曜日など月に1回でも快く子どもを預かってもらえると、体力的、精神的にももっとゆとりが出来るのかなと思います。働いている、働いていないに関わらず、母には休みがありません。(特に子どもが小さい時)もっと気軽に子どもを見てもらえたりする事で母さんはリフレッシュ出来るんじゃないかなあと思うのですが…。
・	共働きで子育てをする際、教育環境よりも保育環境が優先されます。しかし、子どもが3才以上になった時、幼稚園に通う子との教育レベルの差が気になります。そうした不安を解消するために「認定こども園」制度が創設されたのではないかと思います。広島市の施策展開として、「保育園」と「認定こども園」の新設時に、計画性があるのかが疑問です。通園可能な範囲で選択できるようにしてほしいと思います。
・	認定こども園の保育利用しているが、警報が出るとすぐに休園になる。安全のためとはわかるが、仕事をしている人が急に7時すぎから休みを取ることは難しい。警報が出ていても雨も降っていない…ということもあった。他園では預かりをしているのに、利用している園での対応が厳しすぎるように思います。幼稚園じゃないので、市として指導してほしいです。市としての基準を設けたり。

(8)一時預かり

【就学前児童】

・	一時保育等も、仕事をしていなければ園側に専業主婦なのになぜ利用するのか?という雰囲気になり、更に追いつめられる。
・	近所に頼れる親族がいない、主人も帰宅が遅い孤立しがちな育児をしている母親に、育児サークルや一時預かりをもっと広め、負担を軽くし、子どもを笑顔でみてる人が多い社会になってほしい。一時預かりはなかなか利用できないので、一時預かり部屋のある保育園はとてました。
・	保育園の一時預かりの金額が高い。福山市は1日2,000円程度でお願いできた。祖父母に頼らず父母で子育てしている世帯は多いと思うし、今後一層増えると思うので一時預かりはもっと利用しやすくしてほしい。
・	一時保育をその日にでもすぐ利用できるような環境にしてほしいです。1カ月前の予約では、上の子の行事がはつきりしなかったりするので、前日の予約で利用出来るようになれば、非常に助かります。

・	リフレッシュで一時保育を利用したいが、1時間の料金が安く気軽に利用し辛い。いざ意を決して申し込んだら、「用事ではなくリフレッシュ利用ですか！？」と何度も聞かれ、何か悪い事をしている気分になりキャンセルしたこともあります。病院に行きたくても連れて行くことを考えると、自分の病院は後回しにして虫歯だらけ、腰痛も歩けなくなるまで我慢してしまいます。一時預かりをもっと気軽に取れるよう、産後に助産師・保育士さんとコミュニケーションが何度も取れるといいと思います。
・	幼稚園によって預り事業があるところとないところがあるが、一時預りがあると少しでもパートで働くことができるので、一時預りを充実させてほしいです。
・	幼稚園入園予定ですが、4月生まれなので入園まで家庭で子どもを見るのはとてもツライ。祖父や祖母にあずけるのも気兼ねする。有料でよいので、たまには離れたい。一時預かりをアプリなどで簡単に空き状況を見て、予約できるようにしてほしい。
・	一時保育をしてくれる所をもっと増やしてほしい。
・	子どもの一時預かりなど、親がリフレッシュするための支援にはかなり期待しています。
・	保育園の一時預かりを母子手帳で調べて問い合わせたところ、載っている園でも、保育士不足で今はやっていない、定員は待機児童で満員と言われ、受け入れてくれる園でも1日1人しか枠がないなどほぼ役割を果たしていない。預けたい時に預けられないのでは一時預かりの意味がない。

【就学児童】

・	安心して子どもを預けられる。急に対応してもらえる施設がほしい。
・	保育園の一時預かりを登録し、何度か一時預かりをお願いしようと予約したが、定員に達していたり、保育園の行事の関係で預かってもらえなかった。いざという時に、助けてくれる何かがあればいいと思う。
・	未就園児がいて現在働いていない主婦です。やはり分かっていて産んだのですが、兄弟が多いほど子育てが大変だと思います。上の子の学校や幼稚園の行事に下の子を連れて行くのは大変です。一時保育に預けたいのですが、すぐに一時的に預けられる場所がありません。保育園の一時保育に申し込もうとしたらまず、事前に見学や登録に行かなくてはいいけない。たくさん書類かかないといけません。最初は「ならし」で短時間からにしてください。(午前中のみなど)その上、一ヶ月前くらいから申し込まねばいけなくて人数制限あるから早目でなくてはダメで、保育園の予定のある日は預かりはダメ。ようやく預けられるようになっても園長先生に「病院とかですか？」と理由をきかれる。もうめんどくさくて一時保育は使うのは断念しました。もっと気軽にとっさの時などに使える一時保育であってほしいです。
・	リフレッシュのための一時保育の利用料を安くして気軽に利用できるようになれば良いと思います。赤ちゃんのお世話の仕方等を学ぶ場は多くありますが、幼児、小学生へのほめ方、叱り方等を学ぶ場は少ないように思います。そういうことを学べる場がもっと増えたらよいと思います。

(9) 病児保育

【就学前児童】

・	病児保育できる場所を増やしてほしい。
・	病児保育の施設を増やして欲しい。でも、朝、診療後の受け入れではなかなか仕事へ間に合わない。
・	病児保育の充実化が全々できてない。熱は当日に出るものなのに予約が前日からいと言われ困った経験がある。広島病児保育の場所をもう少し増やしてほしい。
・	祖父母が県外にいるため、緊急時に子どもを見てもらえる人がいません。子どもが熱等で保育園を休まなければいけない際、できれば母が仕事を休みたいですが、急な欠席は職場に迷惑がかり心苦しいです(職場は理解してくれています)。病児保育をよく利用しています。しかしほとんどのところが9:00(8:30)～18:00までのため、通常の勤務時間では送り迎えが、間に合わず職場に時間を短縮する配慮をお願いせざるをえません。またインフルエンザ等が流行しているときは、人数に入れず断られることが多かったです。いろんなところに電話して、空いているところを見つけるのが大変でした。病児保育の預かり枠の拡大、時間の延長を切に願います。

【就学児童】

・	病児保育を利用しても開始時間の問題で、親が遅刻、早退しないといけなから利用できる時間帯を延ばしてほしい。
・	下の子どもが幼稚園の時に働いていた時が・・・子どもが病気になったりしたとき、仕事が休めず大変だったので、気軽に預けることのできる病児保育室を増やしてほしいと思いました。病児保育室は利用料金が安く感じるのも、もう少し安いのであれば利用者も増えると思います。軽い風邪や軽い熱でも対応してくれる所があればいいと思います。
・	親の年収や学歴で子どもの学力が決まると言われ、貧困の連鎖は深刻だと思います。一人親ですが、実家も遠く、子どもが学校を休む時はサポートがありません。病児保育も利用させてもらっていますが、前日の診察がないと、朝預けることができず、またインフルの時期はやっぱり利用も難しくなります。受け入れの拡大、対策を検討してほしいです。

(10) 保育 その他

【就学前児童】

・	日・祝日に仕事が入ることもあるので、休日保育をしている保育園をふやすなど日・祝の保育を充実させてほしい。
・	よその国のように英語で話ができる教育を小さいうちからしていただきたいです。アジアの国では母国語と英語の2か国語で会話できる人が多いなか、日本人はしゃべれない！！
・	末っ子の育児休暇取得中であるが、末っ子の1歳に達した年の年度末までに職場復帰できなければ上の子の保育園が退園になる仕組みを取りやめて欲しい。その時に必ず希望する保育園に入れる保障がないのに上の子が退園になると、慣れて楽しく通っている子がかわいそうである。
・	保育園等の園解放のオープン時間が午前中までなので午後15時までやってほしい。お昼も持参して食べれる場所を提供していただき、そのまま1日中遊べるようにしてほしい。

【就学児童】

・	日曜、祝日の預かりサービスの充実を強く希望します。
---	---------------------------

2. 福祉

(11)ひとり親世帯

【就学前児童】

・ 1人親が多くなっている現在でも、1人親が苦しくみじめな思いをする事がたくさんある。1人親は大変なので経済的にも、仕事の休みに対してもっと充実させてほしい。
・ 父子家庭のため、女の子の悩みがわからないため、相談ができるコミュニティが必要です。
・ 子どもが1人の場合は月に4万円程度母子手当がでますが2人や3人の場合に同額が1人分ずつ出ないのはおかしいと思います。月に1万円ですべて子どもが育てられると思っているのでしょうか。

【就学児童】

私は未婚の母ですが、子どもが乳児の頃は両親そろっているのが当たり前で、オープンスペースでも居場所がなく、つらい思いをしました。母子寡婦会を職場の人に紹介してもらって、同じ境遇の人達に知り合うことが出来、また地域の会の人も紹介してもらって、声をかけてもらったのでとても安心しました。児扶手の更新の時は是非母子会の色々な楽しいイベントのチラシなどを一緒に同封してはどうでしょうか。母子会のことを知らない母子家庭、父子家庭の人がとても多いと思います。(ランドセルをもらえた時は本当に嬉しかったです)また、地域のオープンスペースに是非、常設でなくても良いので、ひとり親専用のオープンスペースがあれば良いと思います。仕事もあるので、日曜とかちょっと子連れでほっとできる時間があると良いなと思いました。(保護者同士の交流が孤独な育児の救いになると思います。母子家庭の親御さんは特に同じ立場の人と交流したいのではないのでしょうか。)
・ 現在、父子家庭ですが、やはり経済的な支援、特に収入に関係なく医療のサポートは欲しいです。
・ 母子手当が低すぎる。
・ ひとり親家庭の手当てを増額してほしい。将来の金銭面が不安。

(12)児童手当

【就学前児童】

・ 児童手当大変有り難い制度です。大学進学費用として貯めています。児童手当なかったら大学行かせられないかもしれません。なかなか給与上がらず厳しいです。
・ 所得により児童手当が制限されるのはいかがなものかと思います。子どもという国・地域の財産は所得に関係なく国民全員で支援・負担するものではないのでしょうか。児童手当制度の所得制限の仕組みを再考いただきますようよろしくお願いします。
・ 児童手当を増額して下さい。
・ 児童手当が3歳になったら減るというのは一番困りました。3歳から幼稚園などにお金がかかるので。
・ 児童手当…ありがたいことではあるが、現金のばらまきが全て子どものために使われているか不明。税金を使うのであれば、不透明な部分よりも用途が分かるものへ使ってほしい。小学校の給食費等を無償とする方が良いと思います。
・ 児童手当をもらっておきながら、小学校の給食費未払いなどの問題はあり得ないことで、手当を現金支給ではなく、給食費や教育費を天引きしてから分配するべきである。
普通のサラリーマンなのに、様々な補助に対して所得制限があるのが納得いかない。身を粉にして夜遅くまで働いて、稼いでいるのに、児童手当でお金を支給するのではなく平等に給食費無料、ランドセル無料とかになればいいのにとママさん達で話していますよ！
・ 子どもの手当を増やしてほしい。子どもを産めと国で言いつつも子どもを産むたび、苦しくなる。

【就学児童】

収入に応じて支援を減らすのは不満。高収入者はそれだけの税金を納めているにも関わらず支援は少ない。人の支援をするために税金を払っている訳ではないし子どもは全て平等。そういう制度ではなく、児童手当のかわりに小学校の子どもがいる世帯は全て給食費無料など全ての人が平等に受けれるサービスにすべき!!
・ 実感できる支援をもっと充実させてほしい。子ども手当の増額等。
・ 子育て支援の整備などにお金をかけるのではなく、児童手当の充実や子育て、教育費などに関わるもの(金額)の軽減をしてくれたら、働く時間も少なく済み、もう少し(母親が)子どもと一緒にあげられると思う。

(13)手当(育児休業給付金等)

【就学前児童】

・ 育児給付金の振込日を定めてほしい。会社の事務の人次第でいつ振り込まれるのか分からず少し困る時がある。
・ 転勤や引越など退職＝育児休業手当が受け取れない女性を支援してくれるような制度はないでしょうか？復帰出来る職場もないので経済的に不安な面もあります。私の場合は結婚して広島にきて、パート程度の仕事しかしておらず1年未満で妊娠、出産となったので今となっては、どこか正社員として働く場所を見つけていた方が良かったのかなとも思います。安芸高田市ではそういった家庭への支援もあるようだったので何かあればありがたく思います。
・ 双子を育てています。育休中、手当をもらえたのはとても助かったのですが、オムツ、育児用品、服、すべて2人分必要なのでとてもお金がかかりました。1人ずつ生めば育休も手当でも2回もらえたのにな…なんて思ったりしました。
・ 育休手当は、とても助かりますが、その間職場にいる人たちへのサポートや手当がないので、自分ばかりで大変申し訳ない気持ちになりました。

(14)福祉 その他

【就学前児童】

・ 体が不自由で同じ年の子とは相談したい内容も違ったりするのでその相談先はあるのか。障害がある子どもの育て方について勉強できる所があれば知りたい。

第2子にも障害がある事がわかりました。障害があると、普通に受けられるサービスも難しくなってきます。1人の療育をすると、その間はもう1人の子をどうしておけばよいのか…と、難しさも出てきます。保育園も私立だと、障害受入などが拒否される事もあるので、どうやって育てて行けば良いか悩みだらけです。療育場所も遠く、すぐ行く事も出来ません。それぞれの区に1ヶ所ずつでもあると不安が違ってくると思います。
発達障害の子に対する講座や相談の場所を増やして欲しい。現在は子どもの療育センターにかかわっているが、半年に1度程度しか支援等がない為、親として関わり方が分からなくなる事が多く、不安な気持ちになっているから。
療育センターの予約がとることが難しい。重度障害のお子さんを優先的に療育されているが、軽度～中度レベルの子は療育することでのびる可能性ももっている。もっと人員をふやして、軽度障害の子どもも積極的にみていただきたいです。
- 療育センターからなどの施設訪問や保育所等訪問について幼稚園や保育園、学校は拒むことなく積極的に受け入れて欲しい。 (保・幼)園などの職員の多くが障害児についての知識や経験が不十分です。保護者から具体的にスケジュールカードを使って欲しいなどの提案やお願いをしても聞き入れてもらうことが難しかったりします。なぜしてくれないのか？1先生自身カードの使い方が分からない2カードをどのように作ったら良いか分からない3どのタイミングで提示すれば良いか分からない4なぜ視覚的なカードが必要なのか分からない5先生に時間の余裕が無いなどの原因があると考えます。研修などで勉強会を開かれているようですが、身についているとは感じられません。資料を広げて話を聞いているだけでなく、実務経験をするなどの研修制度を行政にはお願いしたいです。実務経験していれば、先生方の対応できる引き出しがぐんと上がり、結果的に子どもに力がつき、コミュニケーションなど出来る事が沢山増えてくると思います。先生方は「この年齢はこんなもんよ」で終わらせるのではなく、「本当にそうかな？」と見極める力を持って欲しいです。就学前の期間、小さい年齢からの対応こそが子どもの将来にどれだけ影響してくるのかを考えて欲しいです。
障害をもつ子どもへの受入れ施設を増やす。

【就学児童】

小学校など学校で発達障害について勉強する時間があれば良いと思う。少しでも理解していけるようになってもらえたら。
発達障害の子どもたちが、それぞれ苦手なことをトレーニングできる専門的な公共機関を設立してほしい。そしてできれば支援クラス担任の先生を1人増やしてほしい。学校生活の中で先生の目が行きとどかず、時間や規則を守るといった基本的な事が身につけておらず、先生も親も非常に困っているの。
発達障害について、相談できるところが少ない。学校の先生も詳しくない。療育センターでは、軽めの子はあまり相手にされていない感じ。親はどんどん孤独になります。いつもこのままで、これでいいのかと考えてしまう。

3. 行政支援サービス

(15)情報提供

【就学前児童】

広島に引越しをしてきた時、役所の人から子育てサービスについて全く説明がなく、不親切で何も分からず困ったので、他県からの人にも分かるようにしてほしい。
親が2人共フルタイムの場合、平日役所等に出向く事はほとんどない為、各種行政サービス等何があるかほとんど情報が入ってこない。仮に入って来たとしても役所仕事の為、平日開催なんだろうとあきらめもある為、ほとんど何も利用していない。もっと情報の発信に工夫をしていただきたい。こちらも努力しようと思いますが、私どもと同じ環境の人達は少なくないと思います。合わせられる人達だけのためのサービスではないようにしてもらいたい。
近年、共働きの方が多いと思いますが、我が家のように「裕福だから“専業主婦”ということではなく、人生において子どもと接することが出来る時間は限られているからこそ小さい間は一緒にいたいので専業主婦」という家庭があることも考えていただけると嬉しいです。保育園というコミュニティーもなく、自ら情報を集め、行動しなければ子ども共々社会から遅れている感じがするので、そういった内容の広報紙があったら助かります。
今利用している保育園はとても良く、この園に預けることが出来て良かったと感じる程です。今後、引っ越しを考えている上で、他地域の園の様子など参考にできるもの、場所等、園に直接足を運ばなくても分ったら助かる。引っ越し先の地域を子育て環境優先で選びたいのでネット以外の情報も欲しい。
教育費の支援制度について、年度始めだけでなく、前期、後期で案内してほしい。保育料の改訂は、前期・後期で別れているのに、案内がないのは少し困る。現況届を提出するなら、その家庭に未成年の子が何人いて、支援が適応するかどうかかわかると思うので、適応する家庭には一報入れるなどできるのでは？と思ってしまふ。手続きとか、調査とか、たくさん業務があるとは思いますが、知らない人が損をするような制度はいかなものかなと思います。こちらも勉強不足ではありますが、幸い、ご近所にも職場にも満足していますが、さらに子育てしやすい広島市になってくれるといいなと思います。
たくさん情報がありすぎて困る。選べない。迷う。色んな書類にバラバラにかかずに、1枚にまとめてほしい。(統一してほしい)
第1子で、どこにどんな保育園があるか、保育料はいくら、などをまとめたものがほしい。また手続きの方法なども。

【就学児童】

行政が行っている子育てに関する経済的支援制度など、知っている人は利用しているが知らない人は利用していない、みたいなことが何回かあった為、利用してこんなメリットがありますよ的な通達を送れば、皆さん不満が出ないと思う。
いろいろな事業やサポート、サービス等知らない事が多く、利用したことがない(利用できない)。
いろいろなサポートがあるにもかかわらず、知らない事が多かった。もっとわかりやすくサービスを利用しやすい環境づくり及びサービスの認知度を高めて欲しい。
広島市に転入して2年目です。支援・相談など、どこにしてよいかわからないまま。あまり情報もなく知り合いもいないので、なんとか頑張っています。転入して来られた方には手厚くサポートしてあげられるようお願いしたい。

(16) 支援施策

【就学前児童】

・	私は主人がとても忙しく、「お金がなくても家にいてほしい」という強い希望でずっと専業主婦です。実家は広島市内ですが、母は共働きの姉夫婦のサポートで忙しく、私が熱を出した時や育児にしんどい時、「一日だけ来て欲しい」と頼んでも「あなたは家にいて、(夫に)食べさせてもらっているんだから」「楽をしているんだから」と、全く手伝ってもらえませんでした。二人の子が幼稚園に入園してから、少しは楽になりましたが、どれだけ2〜3才の子どもと一日中一緒に過ごすのが大変か、子どもがいる女性ならわかっていると思います。「子どもと一日中一緒にいるのがしんどいから、パートする」という声もよく聞きます。主人の帰宅が遅くなるのも、結局子育て中の女性の分の仕事で専業主婦の妻を持つ男性に回ってくるからではないかと思います。自分だけが大変と言うつもりはありませんが、「夫の帰宅が遅く、実家を頼ることができない専業主婦」の方は多いと思います。家で一人で子育てを頑張っている専業主婦にこそ支援が必要だと思います。
・	子育て支援は、ただ金銭的な負担を軽減するだけの施策ではなく、「安心、安全」を重視してもらいたいです。
・	子を設けるかどうかは個人の自由だが、間違いなく社会貢献となる営みである(少子化の解消)。その割には社会の支援が不十分で、日本をますます悪くしたいかのように思える。例えば、マタハラ、保育園・児童相談所設置に対する反対運動、行政施策の不十分。一方、生産性発言のような人間を工業生産物のようにとらえる考え方もはびこっていて、権利主体としての個人(子どもを含む)を尊重する考えが未だ不十分である。
・	「産前・産後サポート事業」を利用したが、子どもがまだ退院していないため利用できないと言われた。すぐ利用したかったが「前例がないため」と言われ、結局子どもが退院してから利用となった。子どもが退院していなくても利用できるようにしてほしい。
・	双子などの多胎育児をサポートする制度を作してほしいです。

【就学児童】

・	少子化の歯止めになるように、子育て世帯への支援をお願いします。
---	---------------------------------

(17) 相談窓口

【就学前児童】

・	子どもについての相談をもっと気軽に出来たらいいなと思います。電話するのも訪問するのも、これくらいのことで相談してもいいのだからかと悩んでしまいます。
・	相談できる場所、電話番号を知っていても毎日忙しすぎて、相談する時間ありません。1人で悩んで時間が経つのが毎日です。
・	24時間体制の相談TELがあったら嬉しいです。だいたいイライラするのが18時以降で次の日になったら怒りが落ち着いているので電話する気になりません。それか、手紙でも(文通のように)出せたら嬉しいです。
・	育児相談先の看護師、助産師、民生委員の方の相談者への対応が不適切な事がよくあると思います。安心して、不安な気持ちを聞いてほしくて電話しているのに否定的な言葉やめんどくさそうな答え方をされている方がいます。電話対応される方の研修など、内容をもう少し充実してもらえると、心が救われる親も多いと思います。
・	私立の幼稚園を利用しております。園の方針や、先生不足による保育・教育への悪影響が懸念されていますが、公立でないので相談する所が分からず困っています。園を変わる以外に方法がないのかもしれませんが。ここで申し上げることはありませんが、紙面にあるような相談所に聞いてみようと思いました。個人のことでなく「預け先での困ったこと」のわかりやすい窓口があれば助かるなと思います。

【就学児童】

・	これまであまり必要がなかったこともありますが、様々な相談窓口があるのだなと分かりました。極力、自分の力で何とかしよう、相談するのは親だけと考えてはいますが、どうしようもない時はそういった所を頼ってもいいのかなと思います。
・	どの行政サービスを自分が利用できるのか分からないし、利用する必要があるのかも分からない。ただ困った時の相談窓口がひとつでも分かれば何とかなるかと思っています。

(18) オープンスペース

【就学前児童】

・	安佐南区はオープンスペースが少ないと思う。とくに緑井は人が多いのに、公民館のオープンスペースが月1回しかないのはどうかと思う。
・	佐伯区は広いですが、区役所でのオープンスペースしか常設でないで、近くに利用できるオープンスペースを増やしてほしいです。
・	公営のオープンスペース等は、平日の限られた時間しか開いていません。平日夕方18:00くらいまでと、土・日も開けてほしいです。
・	働きながら家事・育児の両立をするだけで大変ですが、小さいうちから保育園に入れている事に対し「かわいそう」と言われる事がまだあります。祖父母世代の方の理解を深める場などあれば、精神的にラクになるかと思います。気持ちがいっぱいいっぱいの時、子どもを連れて出掛けれるオープンスペース(土・日)がもう少し多ければ出掛けやすいです。(主人が平日休みの為、土・日の利用が希望です。)
・	いつもオープンスペースで色々イベントをして下さったり、子どもをみて下さったり、お世話をして下さりありがとうございます。月一回の健康相談室も、子どもの成長を知れる上に相談まで乗って下さりありがたかったです。昔と比べて子どもを育てやすい環境なんだろうなと感じています。
・	団地の中は閉鎖的になりがちです。車がない人は特に…。オープンスペースの開催を増やしてもらえると嬉しいです。(南区向洋新町)
・	近くに(安芸区)午後あいているオープンスペースが少ないので、増やしてほしいです。
・	オープンスペースのイベントが少なく利用することが少ない。もっとイベントがあれば積極的に利用するようになると思う。またイベントを行っていてもHPで確認できない場合があるので、一覧にしてわかるようにしてほしい。
・	現在3歳の男の子の子育て中だが、オープンスペース等は広くなく赤ちゃん連れが多い。動きが活発になる3歳の子を連れて行こうとは思えません。幼稚園に入るまでどこで体力を発散させようか同じ年代の子と遊べる場所はないか…など日々思っています。廃校になった公立幼稚園があると聞いています。その場所ごとオープンスペースにするなど、外でも遊べる中でも遊べる、設備も整っているそんな広くて遊びに行きたいと思える場所がほしいです。

・	オープンスペースを増やして欲しい(広い場所) 以前近くのオープンスペースに行ったが、狭く、走り回る年の子が遊ぶのは難しくすぐに帰った。
・	これまで子育て支援センターのオープンスペースや遊びのイベント、親向けのストレッチ講座、離乳食講座等を利用し、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。ですが、イベント等は単発で1年に数回、1ヶ月に1回あるかないか位で継続的に参加することが叶わず大変残念です。定員もあり、人気のものはすぐに締切になりますが、人気ですぐ定員になるということは必要とされていること、と判断いただき、どうかもう少し頻繁に開催されるよう整備をお願いしたいです。
・	転勤組や他県から嫁いできた妻など、身近に友人や知人がいない人も多いと思います。常設オープンスペース等の集いの場があっても一人で子どもを連れて行くことはハードルが高いです。ああいった場所で働いている人(ボランティアの人も含む)は、一人で子どもを連れてきている人が来ていることも理解して、出来れば気遣って声かけなどをしてくれるとありがたいです。また、今後子育てのコミュニティや集まりの場を増やすことを考えているのであれば、上記に書いた様に友人や知人がいない人向けのものを作ってくれるとありがたいです。地元ではない人や、コミュニケーション能力が低い人がいることも知って下さい。
・	何かちょっと気になるときに、すぐ調べられるようなサイトがあれば便利だと思う。近所に毎月、身長、体重を測ってもらえ、育児相談ができるオープンスペースがあるのでよく利用していました。しかし、子どもが幼稚園へ行くようになり聞きたいこと、相談したいことがあっても行けません。土日や幼稚園が終わってから行けるような場所があると嬉しいですね。
・	地域のオープンスペースが15時ごろに閉まるので、もう少し長く開いていたら保育園から帰ったあとに利用できるのでは、ありがたいと思います。
・	公民館でのオープンスペースの利用時間を延長してほしい。だいたい午前中だけなので、午後もあるといいと思う。区役所のオープンスペースは午後もしているが、自宅から少し遠いので。
・	小さい子どもを連れていける、常設のオープンスペース(遊び場)が増えるといいです。

(19)経済的支援

【就学前児童】

・	子育てにお金思った以上かかるので、よく分からない制度よりも経済的支援を求めます。
・	私は本当にいい保育園に入れたので満足です。子どもを大学まで行かせてあげたいと思うとやはり資金が不安です。3人目はほしいが不安で産めない。2人いるが、2人とも育てるにはやはりお金が必要と毎日思う。
・	多子家庭に対して、もっと経済的支援をしてほしい。家族と楽しめるイベントを増やしてほしい。
・	働かなければならない中で安心して保育をして頂けることに感謝しておりますが、出産や育児に関する経済的なサポートがさらに充実することを希望します。我が家は高校1年から0歳児まで5人の子どもを育てながら共働きをしている状態です。仕事の環境にも恵まれてはいますが、出産直後から仕事復帰までの期間に子どもを安心してみられるように、子育てに関わる費用や、また預けるところが絶対にあると思える保育の場の充実を希望します。子どもをたくさん産む人が考えなしにと言われるのではなく、子は宝という、手厚いサポートや一時金や一時的に保育料等も免除などあれば助かります。
・	家庭の収入に関係なく、補助金は一律にして欲しい。同じ様に子育てをしているのに、収入で補助を受けられないのは、少しおかしいと思います。収入が多い家庭はその分働いている時間も多いうように思います。
・	やはり経済的な支援(世帯の収入に応じて)が充実すると少子化対策にもなるし、子育てもしやすくなると思います。子育て世帯の経済的支援の充実を、更に望みます。
・	4人兄弟の6人家族になります。必然的に金銭面の負荷が大きいので、大家族に対する支援策を希望します。少子化対策を打ち出されている中で大家族に対する優遇があってもいいのではと思います。
・	幼稚園、保育園の無償化ときいて生活にも余裕ができるかなと思いましたが、今妊娠してパートを辞めるとなると、その分収入が減るので子どもが欲しくてもあきらめる気持ちがあります。そのように考えている人はたくさんいると思います。育児も仕事と考えて0～2歳の未就学児の専業の母たちに手当てが欲しいです。3人目、4人目を産みやすい様な支援をして頂きたいです。
・	問40の7を今以上にしっかり充実したものにして欲しい。少子化の中、うちには4人の子どもがいます。大きくなるにつれてそれなりにお金もかかります。もう少し負担を考えてもらいたい。
・	同じ子どもでも所得制限により医療や子ども手当等金額が異なるのはおかしいと思う。どの子どもも平等であるならば、同じ金額でサービスを受けられるようすべきだと思う。
・	出産にかかる費用(妊婦検診の費用も含む)は、もう少し補助を増やして欲しい。任意の予防接種の料金も安くしてもらいたい。児童手当をもっと増やして欲しい。経済的な余裕が出ればもっと子育てを取り巻く環境や内容が充実できると思う。
・	現在はそれほど気にならないが、先の教育費を考えたら1人育てるのに経済的負担が大きい。

【就学児童】

・	未就学児の方が色々経済的な支援が多いと思います。子どもは大きくなればなるほどお金は多くかかるので、大きくなってももう少し、経済的な支援を充実してもらえればと思います。そうする事で働く時間を考える事ができたり、教育も(習い事など)できない人も増えていくのかと思います。
・	年が離れた兄弟にもお金の支援をして下さい。
・	子どもが1人の場合、就園奨励費がもらえない場合が多い。2人以上は家庭との差額が大きすぎる。1人→0or1万、2人→15万

(20)行政支援サービス その他

【就学前児童】

・	ニュース等で子どもの亡くなる知らせ、報道を見ると本当にいたたまれなくなります。我が子だけでなく、産まれてきたすべての子どもが幸せに笑って過ごせるよう、行政、福祉の充実を期待します。そのためなら多少税金多くとられてもいいと思います。是非子どものために使ってください。
・	2人目の出産の事を思うと、出産後の入院時に一人目の保育サポートが気軽に受けられるようになってほしい。
・	子育てをサポートしてくれる親族や知人が少ない、もしくはいない家庭への支援の充実を願います。少子化といわれている現在、このような家庭では安心して子どもを増やす気持ちにならない。

【就学児童】

・	色んな法律の壁もあり、なかなか支援といっても難しい事も多いと思います。我が子がもちろん一番大切ではありますが保育園や学校で娘達が関わった子ども達が皆無事に笑顔で日々過ごせますように行政の方のお力添えをお願いしたいです。
・	お金がかかるのは幼少期ではない。精神的に大変なだけである。今思えば。中・高・大からが大変になるのに、支援の目を向ける部分が違うのではないかと思う。
・	子どもよりも問題をかかえた親へのサポートが必要。親へのサポートは、子どもへのサポートにつながる。
・	利用の仕方がよくわからないサービスばかりです。勇気を出して連絡しても、定員オーバーと言われたり、ここではないという感じで、冷たく流されることが多いです。
・	収入の額に関係なく平等に支援してほしい。

4. 職場や家庭

(21)産休・育休

【就学前児童】

・	男性の育休取得は困難な現状であり、現実には母親が1日を育児の時間に費やしている。今は育休中であるが仕事復帰をしても育児・家事が減るわけではないので、仕事環境の調整を考えなければならない。しかし職場では育短者の夜勤導入も率先して行う方針であり、自分の心身のバランスが保てるか不安です。男性の育休や子育て支援も充実すると、母親の負担も減るのかな…とも思います。子どもが小さいうちはプライベートはないのだろうと覚悟しています。その分、幸せな事も多いので大変な社会だけど頑張ろうと思います。
・	育休中に、兄弟が保育園に在園中、短時間保育に切り替えた。ただでさえ0才児の大変な時期。短時間保育に切り替える制度はやめてほしい。本当に余裕がなくなり大変。
・	産休育休制度を取れない職場もあるので、絶対に取得出来ると国から強く広めてほしい。(実際前働いていたクリニックでは人数が少ないということで産休育休制度を取得できませんでした。)実際に子どもが1歳になり働こうと思っても産休育休の時短で働くことができなかったのも正社員として働くことは負担になり難しく、結局パートでしか働けない。そういう人がいなくなるのを願います。
・	産休や育休制度に対する知識、正しい認識を知らず、働く企業から言われるまま従うしかことが多い。より企業で働く女性へ産休、育休制度の説明を浸透する資料の配布や説明を聞く機会を増やしてほしい。
・	育児休業の期間について。一度の手続き(申請)で2歳までになれば、復職をあまり気にする事なく育児に専念できるのにな〜と感じます。欲を言えば、保育園に入れないなら3歳まで一緒に居たかったので、もう1年育休があれば生活への不安も減るので良いのに…と思いました。
・	正規職員(公務員)には子育てしやすいような制度が整っているが、パート職員では育休もないので出産時退職しなければならない。退職すると上の子も保育園には在籍できない。退園すると、働きたいと思った時上の子と下の子が別々の保育園になったりするので、パート職員は産後はすぐに働き、アフターフォローはしなくても良いという雰囲気差別を感じる。
・	育休は一才までという考えが強いが、一才はまだまだ小さい。3才まで家で見たいと思っていても職も失いたくなく、一才で保育園に入れて働くしかない。泣く泣く預けても病気になるや早く仕事も休まないといけない事が多くなり、職場にも迷惑をかけ、子どももしっかり治らないまま保育園に行くことになり、母親の負担、子どもの負担が多くなる。
・	パートタイマーで育児休業が条件的に取得できなかったら、上の子も保育園を退園せざるをえなく、3人目の出産をためらっています。産前産後で仕事を休んでも、保育園に入園できなかったり、生後6ヶ月にならないと預けられないので、(育児休業給付金を条件を満たす人は現状のままでいいと思いますが)育児休業を誰でも取得できればいいのになと思います。

【就学児童】

・	男性に育休取得させるような施策が目につきますが、実際には育休が終わってからが大変なので、育休制度の充実よりは育休終了後のワークライフバランスを保てるような施策を充実させてほしい(特に就労時間の短縮と子どもの病気の休暇)。
---	--

(22)育児の分担

【就学前児童】

・	育児が辛いと悩んだことはほとんどありません。育児サークル等に入って友人や知人と交流しているからということもありますが、一番大きいのは夫の育児への関わりが深いからだと思っています。わりと忙しい業務ですが、本人の意識が変わり子どもが産まれてからは18:00帰宅、夕方からは私と夫2人で育児をしているので負担が少ないです。夫の会社の体制も整っています。だから夫も負担なく仕事と家庭を両立できており、本当に良い保育環境を作られています。私は人事課で働いていますが、お母さんへの育児配慮はわりとありますが、お父さんへの配慮はあまり見られません。会社がその辺をもっと考えてくれたら、子育ての環境は絶対に良くなります。「子育ては両親ですもの」、これを前提に事業計画を立てて下さい。
・	自分の旦那を見て思うことですが、やっぱりどこか、子育ては女性がするものだという意識が強いのかなと思います。共働きも増えていく世の中、母親が主となって子育てをするのはもちろんですが、女性がもっと働きやすいように父親がどう協力するべきかという講座・講座があり、行きやすいといいなと思います。
・	共働きをされていていつも感じるのが、女性(母親)の負担ばかりが大きいことです。もっと社会が男性(父親)にも家事・育児に参加するようなものになることを期待します。
・	子育ては女がするものという意識が根強いので負担が女性側にとっても大きい。育児に協力的でも家事に協力的ではなかったり、そもそも家に居てほしい時間帯に残業していたり。職場の理解もほしいと思っています。

【就学児童】

・	今はもう子どもたちも14・12才なので大丈夫だけど、小さい頃は1人で子育てして大変だった。もっともっと男性が育児に参加してくれる世の中になってほしい。主婦＝無職ではない事を男の人に理解してほしい。
---	--

(23)ワークライフバランス

【就学前児童】

・	もっと子育て世代にサポートがある働きやすい環境でないと仕事との両立が難しく、どんどん収入も減り、復帰も出来なくなる。子どもに対しても余裕を持って接することが出来ない。さらに自己嫌悪になる。
---	--

・ 今後は職場復帰してからの育児・家庭との両立に不安があり、同様に復帰した方の多くが退職にいたっていることから、労働時間や職場環境の整備や制度・支援の充実が必要になるのではないかと思います。また、父親も育児休暇を取りやすい職場環境になると良いと思います。
・ 仕事と家庭の両立を目指す方も多くいますが、仕事を始めると「助け合い」だの「責任」だので家庭より仕事を優先せざるを得ない状況になる事が多い。パート募集もあるが一番働ける昼間の募集が少ない。結果、朝が早い・夜遅くのどちらかで選んでる人も多い気がする。
・ 職場へ復帰した際に、安心して育児と両立できるシステム、環境作りをお願いしたいです。できれば、子育てを経験されていない方からも多くのご理解をいただきたいです。
・ 女性が子育てと仕事が両立できるような社会になったらいいですね。

【就学児童】

・ 仕事と子育ての両立できるようにしてほしい。
・ パートで働きたいと思っているけど、主人も私も実家が遠く、子どもが病気の時に気軽に預けられる所がありません。マザーズハローワークに行っただけ、求人がすごく少なくてびっくりしました。長期休暇のことを考えると、なかなか踏み切りがつきません。もっと子育てと両立できる職場が増えると嬉しいです。

(24)職場環境の改善

【就学前児童】

・ これからの子育て環境に求めることは、子育てしながら働く職場の環境改善。母だけでなく父も子育てのために休みをとれる意識を変えたり、休みやすい勤務体制にすることや、父親の家事育児参加(参加や手伝いではなく主体者となしてほしい)の意識を啓発してほしいと思います。
・ また仕事も切り上げにくく、保育園の送迎など負担はどうしても母親の方が重くなる。何とか労働環境を変えてほしい。
・ 父親も子育てに参加したいが、就労時間、職場拘束時間が長すぎて、子どもと父親が顔を合わせるのも、週末くらいしかない。父親もストレスがたまると思う。保育園を申請しても、フルタイムの方が優先すぎて、パートや求職中の人が苦しすぎる。
・ 男性が育児に参加しやすいように労働環境を整えてほしい。
・ 母親の社会復帰が難しいと感じる。“母親”が働きやすい職場環境を増やして欲しい。(子どもの行事で休みを取ったり、急な子どもの体調不良に理解を示してくれる職場を望む。)←企業への行政指導が必要。
・ 仕事と家庭の両立を目指す方も多くいますが、仕事を始めると「助け合い」だの「責任」だので家庭より仕事を優先せざるを得ない状況になる事が多い。パート募集もあるが一番働ける昼間の募集が少ない。結果、朝が早い・夜遅くのどちらかで選んでる人も多い気がする。
・ 職場へ復帰した際に、安心して育児と両立できるシステム、環境作りをお願いしたいです。できれば、子育てを経験されていない方からも多くのご理解をいただきたいです。
・ 共働きしないと生活が成り立たない世の中なのに、子育てに関しては、会社の意識・理解が低く、働きにくさを常に感じている。色々なサービスが充実しても、結果的には経済面の不安が解消されない限りは、母親の負担は減らないと思う。

【就学児童】

・ 父親も育児に積極的に参加できるよう、育児休暇などを企業、勤め先に申請し易い、労働環境(外国の様な先進国)に日本が変わってほしい。
・ フルタイムの仕事ですが、子どものために早く帰宅したくても出来ません。働き方改革で、早く帰るよう言われていますが、実際には環境も整っておらず、難しいが現実です。もっと子育て中心に仕事も安心してできる様になるとよいです。

(25)職場や家庭 その他

【就学前児童】

・ 育休から復帰した時、残業時間を減らさざるを得なかったため、収入が減ったが、職場から養育特例(産休前の等級で年金がもらえるようにするやつ)の案内がなかった。職場を辞めてからそのことを知り、がっかりしたので、事業所にはきちんとした知識と説明、手続き責任をもってやってほしい。

【就学児童】

・ 全体的に支援が少ないと思います。もう少し子育てに協力していただきたいです。毎日フルで仕事してます。税金(学費)とか、少しでも負担が減る様にしていきたいです。
--

5. 社会基盤

(26)道路

【就学前児童】

・ 広島市は都会ということもあり、交通量が多い割には道路がせまく、歩道がない場所が多いです。近所へのお使いなどをしたいと子どもが言ってきたり、安心して行かすことができません。
・ 災害の時に子ども(特に未就学児)と避難しやすい場所をもっと増やしたり、周知させてほしい。道路も整備して欲しい。車ではなく徒歩で避難を推奨しているが困難な地域もある。
・ 道路の段差(ベビーカーが引っかかる)、路面電車が通っているので、横断歩道もスムーズに渡れません。川に囲まれているのは分かりますが、かかっている橋が細すぎます。ベビーカーを押して歩いていると自転車横が通りますが、ストレスです。新己斐橋にはガードレールありません。広島市は子育てがしにくい市だと思います。
・ 通学路を含む横断歩道や踏切などの見直しや整備をお願いしたいです。
・ 様々なサポートがある事は感謝しています。ハード面で子どもや高齢者が安全に通れる歩道の整備を早急をお願いしたいと思っています。(最近マナーの悪いドライバー問題もあり、子どもの事故が起こらないか心配です。)
・ 歩道、信号、横断歩道、道の凸凹の整備、照明増加など、子どもが安心して登校、遊びに出られる環境の整備を充実していただきたいです。

【就学児童】

・	歩道がせまいがバスも通る。車も多い道の整備をして欲しい。
・	通学路がせまく、歩道がなく、車量が多い為危険だと思うので、せめて歩道を作って欲しい。
・	安全な道路づくり、交通マナーアップ支援が必要。車道、歩道の区切りがなかったり、道中が狭いのスピードを出す車がいるなど、交通マナーを教育する必要があると思います。

(27)安全なまちづくり

【就学前児童】

・	子ども達が安心して生活できる町づくりをしてほしい。犯罪からですが、天災(大雨、地震)に対しての対策。(橋の強化とか危険な場所の見直し。)そういうものをもっともっと力を入れていただきたい。
・	犯罪等のない安全安心な環境づくりをお願いします。

【就学児童】

・	不審者対策として、公園などに夕方まで見守ってくれるボランティアの人がいてくれるといいと思います。(ただいだけでよいので)
・	人通りの少ない道の街灯を増やしてほしい。中学校への通学路を人通りの多い道にしてほしい。山道は暗いし、人通りも少なく子どもが中学校に行き出したら不安です。
・	小学校の通学路に防犯カメラを設置して欲しい。
・	小学校にあまりまだまだ分からない事がたくさんあり、家から公園までの道が暗く、人通りが少なく不安なこと。近所の人も誰が住んでいるかもよく分からない状況等…。分からない事が多い。
・	集団登校学区がありがたいです。また、高齢者のサポートの方たちがいつも学校近くまで、ついて行ってくれる等、本当に安心して行かされています。
・	住んでる地域で子どもが入園・入学した時に、安全・安心な環境であってほしい。子どもへの犯罪・事故がこの地域でもあるので、親としては今後心配である。部活や塾に行きたいと言っても心配になる。
・	豪雨災害時、ハザードマップに指定されている避難施設がいつ、どのタイミングであくのか、車で行ってもいいのかわからない。観音台(佐伯区)の避難所がほぼすべて危険区域なので、子どもにどう説明していいのかわからない。

(28)公園

【就学前児童】

・	団地の中の公園は近隣の方のご迷惑になるという理由でボール遊びが禁止されています。ですが、高学年にもなってくると遊具で遊ぶよりも野球やサッカーをみんなやりたいので、それができないと公園に行かなくなり、家でゲームばかりになってしまいます。(もちろんゲームの時間は決めていますし、その他にも家の中でできる遊びもしています。)結果、筋力も減り、身体的にも精神的にも弱い子どもになりそうで怖いです。一部の公園にネットを張って頂くか、近くに家のない広い公園を作って頂きたいです。
・	あとは公園の遊具が古くなっていたり、草がのびっぱなしで手入れがされていない場所もあり、市や区でもう少し管理をしていただけたらと思います。
・	公園を増やしてほしい。近くの公園の遊具が古くボロボロ。見直してほしい。
・	住んでいる地域は公園が少なく、古いブランコなどが多いため少し不安です。ボールなどを使って遊べる所が少ない為、遊びに限度があつてかわいそうです。
・	公園まで行くのに車を利用しなければならないのですが、駐車場がない公園が多いと感じます。駐車場を作るスペースがない場合もあると思いますが、あると便利だと思いますし、遠くの公園にも行ってみたいと思います。
・	公園がきちんと清そうされていると、その公園に行こうと思います。遊具の安全、きれいさ、(砂場など)は気になります。
・	公園や広場のトイレや水場をより清潔により新しくするなどの整備をよろしくお願いします。
・	公園でボール遊びをさせたいが公園にネットがない。近所の方からのボール遊びにクレーム、などなど近所の公園(歩いて行ける公園)でのびのびと子どもと遊べない。大きな声を出しても近所のお年寄りの方からのクレームなど、ボールがダメなら遊具を増やして欲しいです。子どもを公園でのびのび遊ばせたいです。
・	設問の途中にも書いたが、保育園・幼稚園に通っていない2~3才の時は遊べる施設が本当に少ないと思う。公園の古い遊具はすべり台なら高さが高すぎたり、ブランコも小さい子向けではない。実際にあの遊具で安全に遊べるのはもう少し上の子達だなど考えながらいつも遊ばせている。
・	公園の整備をもう少し充実させて欲しい。公園中でのタバコは禁止にして欲しい。
・	小さい子どもも遊べる公園を作って欲しい。
・	公園のトイレが汚なくて、使うのをためらう事が多々あります。男の子用の立ってする便器があれば助かります。

【就学児童】

・	公園の遊具を増やして欲しい。道路に面している公園には、飛び出さない様にフェンスなどを設置して欲しい。トイレがない公園は、とても困ります。よろしくお願いします。
・	登下校時にボランティアの方が見守って下さるので安心して子どもを送り出せます。が一方で近所に公園が少ない上狭い公園で近所の方が花や木を植えていてボール遊び禁止と看板をはられていて全く遊べません。遊具もブランコしかありません。なので外遊びができないという環境になってしまっています。
・	近所に公園はあるが、行くまでの道が狭く、車と近くなり危ない。また、ボール禁止なので残念そう。学校も校庭開放は月に2日しかないで、思いっきりサッカーや野球ができる場所があれば良いのと思う。子どもたちはボール禁止なのに、朝大人数でゲートボールしているのは矛盾しているのではないかと感じる。
・	公園に行きたいが近くにない。公園があつたとしても車がとめられないので不便。遠くまで行かないとダメ。
・	私が住んでいる団地は高齢化が進んでいる団地なので、公園はたくさんあるのですが、遊具が古く種類も少ないです。(ブランコ、すべり台、鉄棒)新しい団地にある様な遊具が一部の公園だけでも設置されるとより嬉しいです。後、バスケットゴールなど中・高校生も楽しめる遊具の設置もして頂けたらより幅広い子ども達が喜ぶと思います。

・	公園に時計を設置して欲しい。日陰の多い公園を作って欲しい。男女別のトイレにして欲しい(公園)。以上(子どもからの意見です。)
・	子どもがスポーツを楽しめるくらいの、大きな公園が増えると良いと思います。兄弟年が離れている子ども達が、一緒に楽しめる施設があれば良いと思います。
・	全ての公園にトレイを作してほしい。
・	子どもたちがしっかり遊べる場所がほしいです。そらのの公園のような広くて駐車場があって、遊具も充実している公園がたくさんあったらいいなと思います。私の子どもたちはそらの公園が大好きです。

(29)社会基盤 その他

【就学前児童】

・	自然と触れあい、昔あそびをしたり、子どもが自分で遊びを考え、楽しめる環境づくりをしていただけると、子どもの得意なことが見つかりやすく、明るく成長できるのではないかと思います。
---	---

6. 公共施設

(30)図書館

【就学前児童】

・	図書館を増やしてほしい。特に絵本を充実させてほしい。
・	移動図書館があれば助かります。
・	子どもにはたくさん絵本に触れてほしいと思う反面、図書館までの距離や駐車料金や駐車場の有無の問題があります。ネットで予約して貸出返却のできる場所を近くに作って欲しい(ショッピングモール、公民館、駅)。

【就学児童】

・	図書館の児童書をもっと充実させてほしいです。こども図書館も交通が不便で行きにくいです。予約しても、順番がくるのが遅く、子どもの興味が薄れてしまっています。小学校の図書も痛みが激しく、古い本が多いと思います。
---	---

(31)遊び場

【就学前児童】

・	雨が降っている時などに遊べる場があると嬉しい。(未就園児が遊べる場は比較的多い気がするが、大きくなってくると遊ぶ場所がなくなっていく気がする。)
・	無料で雨天時遊ばせる行政的施設が少ない。そして狭い。歩けるくらいのヨチヨチの子とかで遊べる夏の水遊び場(町の噴水等)気軽に街中にない。
・	天候に関係なく、子どもが遊べる広い場所があると良いなと思います。
・	子ども(特に未就園児)にとって遊ぶことは大事だと思います。この時期にいかに関わり合い遊び、自然と触れ合えるかで、その子の人間形成、生きる力等をつけられるかが決まってくると思っています。広島市のような街の中にも、もっと本物の自然を楽しみ感じられる場を作ってもらえたらと思います。
・	子どもたちがのびのび遊べる場所を増やしてほしいです。義務教育以外での学ぶ場も近くに出来たらうれしいです。
・	特に夏は長期休みでも遊ばせる所がなく、私(母親)が心身ともに疲れ果てて病んでしまったので、子どもを自由に遊ばせて母親が休けいできる施設を心から願います。
・	東京から引っ越して来ましたが、東京と比べて広島は子育て環境が良いと満足しています。希望としては、未就学児が遊べる室内の施設が近所にあると助かります。(近所の児童館は週1回しか空いてない、夏期は猛暑だと外遊びが難しい)

【就学児童】

・	以前、私が子どもの頃ですが、スーパーの屋上などにトランポリンが設置されていました。体を動かす楽しさや寒さの中でも遊ぶ喜びがあり良い思い出です。今の時代のようにゲームセンターばかりではなく、体を動かせるアスレチック等が必要だと思いました。猛暑や極寒と、外では遊びにくくなっているのも事実。安全面をしっかりと考えてあり、環境もある程度整った所で子どもを遊ばせたいです。
・	遊び場が少なすぎる。あったとしても禁止事項が多すぎる。場所がないならせめて学校を放課後開放してほしいのに、それもない。どこで子どもを遊ばせていいのか分からない。

(32)公民館・スポーツ施設等

【就学前児童】

・	公民館での交流できる日数、時間帯をもっと増やしていただけたらなと思いました。その日のその時間に合わせるのが、私の体調とかねあいもあり大変難しく思います。
・	東区民スポーツセンター内に小学生以下の子どもが遊べるスペースがほしいです。(ベビースペースはあります)3才〜6才くらいまで。
・	集会所や公民館でもっと子どもの習い事の種類を増やしてほしい。
・	低料金で利用できる学べる教室、体操・スポーツ教室。

【就学児童】

・	就学している児童の教育のサポートとなる施設の充実を希望します。(スポーツ、科学、芸術、文芸等)あらゆる分野に広く目を向ける機会を提供して頂ければ、子ども達の将来に大きく影響を等しくもたらしてくれるのではないかと思います。ここ広島からより多くの子ども達が世界で活躍してくれる事と子を持つ親として切に願います。
・	公民館や福祉センターなどで、休日に子ども向けのイベント等を開催してもらえると嬉しい。わざわざ街の方まで出かけて行かなくても、地域の公民館だと、子どもだけでも行けるし、学区の子どもとも会えるので楽しいと思う。今でも何回かはあるけど、もう少し人数が多いものや回数を増やしてもらとうれしいです。

・遊びやスポーツ、文化活動など、学校外、家庭外活動の場の提供ができていないのがもったいない。
--

(33)公共施設 その他

【就学前児童】

・公共のトイレがもっと安心して使えるようになってくれたら外で過ごす時間が長くなると思う。
・駅など公共施設のバリアフリーをすすめてほしいです。ベビーカーと子ども、荷物を持って階段をのぼるのは大変です。

7. 学校

(34)学校教育

【就学前児童】

・少子化問題を解決するには、教育環境の充実が絶対です。子育て世代が何を望んでいるのか、もっと吸い上げて欲しい。

【就学児童】

・週休2日制度になり、平日も学校からの帰宅時間が遅く、高学年になると、ほぼ5、6時間。これで、習い事があつたりすると、学校の宿題などもあり、夜遅くまで机に向かっている為、心配になる。私自身古いタイプの考えなんだろうけど、土曜日午前中だけ学校で、平日の授業時間数を減らせると、子ども達も習い事もあるが、自由に遊べる時間も増えたらいいな、と…。
・小学校にて授業中立ち歩く、騒ぐ、先生に暴言など問題行動の多い児童が多く授業になってない。小学1年生ですでに学級崩壊している感じなのに学校はきちんと対処しない。親に報告をしているのか不明。教育委員会や行政に介入して対処してほしい。
・学校からの帰宅時間が昔に比べて遅いので、宿題を終えると遊ぶ時間がない状況です。気の毒だなと感じます。土曜日の半日でも授業があつた頃の方が、全体的なゆとりがあつたように感じます。
・長期休みを短くして、平日の6時間の日を少なくしてほしい。
・発達障害のLDで悩んでいる友達があります。板書が苦手で、ipadやカメラの持ち込みをお願いしましたが、小学校から中学校(入学予定)からも「ダメ」という返答でした。多県では、ほとんどがOKなのに…困っている人に手を差し伸べてほしいです。すぐにでも県を通して許可するようにしてほしいです。
・小学校の取り組みについて…学校が授業の進行を防げる児童に対しての対応があまりできておらず、学ぶ環境が悪いので改善してもらいたい。地域や家庭環境の整備も大切だが、まずは学校生活の環境を整えてもらいたい。

(35)教員

【就学前児童】

・先生や保育士さんなど子育て教育に関わる方たちが、ころころ変わったり余裕がないと、子どもの成長にも影響すると思いますし、親も不安です。最近、小中学校の教員不足などマスコミでよく見ますが、子どもが安心して教育をうけることができるよう、行政として教育に関わる人材の育成を大事にしてほしい。
・小学校で通常学級にたびたび発達障害と思われる子どもが在籍している様子が見られるが、支援できる先生が足りていないようです。先生一人にクラス全ての子ども達を見ることは不可能であると思うので、サポートできるスタッフをぜひ増やしてほしいです。そして、正しい知識を持ってもらい、二次障害が起きないように接し方を理解してほしいです。ADHDの子どもに「集中しなさい!」、LDの子どもに「丁寧(早く)に書きなさい!」と言って注意をくり返しても子ども達は苦しいだけだと思います。

【就学児童】

・就学児にとって学校の先生の影響はとても強い。先生の人数を増やして、先生方の職場環境を整えることが、子ども達のためにもなると思います。
・特別支援学級の児童が増えていると思いますが、教室の不足や指導員の人数など状況に応じて対応していただきたいです。先生方の多忙さを感じますし、個別の支援が十分に受けられていないと感じることがあります。
・いつもいろいろとご尽力いただき、ありがとうございます。息子の小学校は、私立小学校並みにすぐ対応してくださるので、いろいろと問題が起こっても安心です。ひとつだけお願いがあるとすれば、新卒の先生にはサブ担任を2人以上付けてください、何度か新卒の先生お一人でのクラスになりましたが、いずれも学力の定着に親がそれまで以上の努力が必要となりました。
・小学校教員の採用基準はどうなっているのでしょうか？勉強さえできれば良いのでしょうか？また採用後のフォローはどのようにしているのでしょうか？最近あまりにも教員としては未熟というか、不向きな先生が目立つように思います。家でどれだけ頑張っても子どもをフォローしながら積み上げてきても、担任次第でぶち壊されていくことにいら立ちが増します。

(36)学校 その他

【就学前児童】

・共働きの家庭が多く、自然災害の警報が出て学校が休みになると、親は仕事が休みにならないため会社へ行き、子どもひとりで家に居る事になるので困る。学校は避難所になる程安全な場所なら警報ですぐに休校にしないほしい。家に子どもだけいるより、学校で先生と友達と居る方が安全な気がする。
・未就学から小学校へあがつた時の環境、制度の違いが大きいと思う。「子育て」について、未就学時期だけではなくそれ以降においても、サポートを充実させて欲しい。
・小学校に入ってから、警報(大雨など)が出ると親が迎えに行かないといけなくて聞いたが、仕事中、迎えができない人に支援が必要。

【就学児童】

・授業が多いこともあり、毎日子どもたちの荷物が多く、3年生の今でもランドセルが教科書類でパンパンになり、とても重いです。こんなに重いものを毎日背負っていたら、身体に負担がかかると思うので、授業数を減らす、教科書、ノート類は減らしたり学校に置いていてもいいなど、対策を考えて頂きたいです。16時に帰ってきて宿題をしていたら、友だちと遊ぶ時間などありません。土曜日4時間授業で、平日も4時間多くした方が、子どもも親も負担が減ると思います。すぐには難しいことばかり書きましたが、少しずつでも検討していただけたらと思います。
・小学校の登下校でランドセルが重く、背中や腰が痛いと言います。教科書等置いて帰れるようにしてほしいです。低学年であればなおさら大変なのでは？と思います。

・	我が家は不登校児がおります。もっとそういう子ども達の対応について、より多くの選択ができる環境があれば本人はもちろん、その家族も救われるのではないかと感じます。
・	学校や児童館、公民館など様々な人がサポートしていただいているので、特に悩みもなく過ごしています。大変感謝しています。
・	小学校が老朽化している、壁がポロポロ落ちている、改修してもらいたい。

8. 児童館・放課後児童クラブ

(37)児童館

【就学前児童】

・	児童館が乳幼児にも開放されましたが、遊具等がなくなった場所が開放されただけでもったいないと感じています。
・	児童館が午前中から利用できるようにしてほしいです。幼稚園降園後、園庭を17時頃まで開放してほしいです。または、幼稚園の時間を保育園のように長く(7:00～17:00)などしてほしいです。

【就学児童】

・	長子が1年生の頃は、放課後クラブに入れていたが、今は引っ越してきた先が児童館内にある、放課後クラブに変わっている。今のところは定期的に工作を作って帰るのですが、とても素敵なものばかりでいつも感動します。先生方がたくさん準備してくださっているのが、すごく伝わる作品ばかりで感謝しています。児童館を今まで利用した事がなかったのですが、この地区にきて、初めて利用して、とてもいい場所なんだなと思い、たくさんの方が児童館利用されたら良いなと思いました。
・	今、時々児童館へ行って遊んで帰ってくるのですが、小学校1～3年生ぐらいまでの利用がほとんどのようです。子どもにとっては、家、小学校以外の居場所として児童館が今あるのですが、高学年になった時に第3の場所となる安心して過ごせる所があるのかと思います。高学年も興味をもって過ごせる児童館を希望します。やはり低学年向きの場所なのかなと思います。

(38)放課後児童クラブ

【就学前児童】

・	放課後児童クラブに入所したいが、定員があり入りづらい。民間の放課後児童は料金が高すぎる！！
・	小学校の児童の数に対して、放課後クラブの定員が少なすぎて利用したくてもできない人がとても多いです。学校の児童数に応じて放課後クラブを複数作るなどしてもらいたいと思います。
・	保育園を利用している者(かつフルタイム)としては、小学生になったとたん、退勤時間を早めなくてはならず、職場の理解、自身の努力なしには仕事がつづけられません。安心して、子どもがたのしめる放課後児童クラブの運営をお願いしたいです。
・	パート勤務など短時間の就労の人でも、小学生を放課後児童クラブ？などに預けられるようにしてほしいです。今は正社員の方しか小学校内の学童に預けることが難しく、少しでもパートに出たいのに出来ません…。保育園児、幼稚園児の充実もですが、小学生の方がそういう支援や制度が手薄な気がします。
・	保育園が19時半まで延長しているのに対し、学童が19時前で終了なのはなぜですか？せめて保育園と同時刻くらいの終了にして欲しいです。
・	来春、末子が小学生になります。勤務時間を増やして働きたい(現在9:00～14:00、希望8:30～15:00)17時まで働いていないと市の「放課後児童クラブ」に入れないため諦めています。長期休暇(夏休み等)の際は入所資格はありますが、なかなか入所希望者が多いためか、長子(現在4年生)は民間の学童保育へ預けていました。民間へ預ければ私のパート代は全て夏休みの学童保育代に消えてしまい、何のために働いているか分かりません。フルタイム勤務の方は比較的安価な学童保育を利用でき、パート勤務だと高い保育料を支払って子どもを預けなければ働けない環境に不満をもっています。また平日であっても低学年は帰宅時間が早い時も多いので、毎日でなくても必要な時だけでも預かってくれれば安心して働けます。特に末子は女の子なので1人で帰宅させるのは不安です。
・	保育園や放課後児童クラブの数が少ないし、利用料も高い。残業もあるフルタイムで仕事するのは子どもが小学校入学以降は実質ムリ。夏休み中など児童クラブの開始が遅く閉まるのも早い。これではパートでしか仕事が出来ない。上の子が小さい頃はフルタイムで仕事していたが、残業などだと保育園利用料も高い、小学校に入ると残業できない。結果、働きたいが働けなくなった。パートの収入では年少以下の保育料は高くて働いても収入が増えない。
・	保育園に入るよりも、学童に入る方が大変だと聞き、まだ先ですが、子育てと仕事の両立に不安を感じています。

【就学児童】

・	放課後児童クラブ、6年生まで入れるようになりましたが、結局定員が一杯で入れない。入れるように空き教室利用するとかしてほしい。
・	以前、就労していた時に役所に放課後児童クラブについて問い合わせをした際に「概ね週4日の就労」の条件について「『概ね』なので、週3日ではだめですか？」と聞いてみたところ、「週3日の就労ではだめです」と言われました。放課後児童クラブに空きがない場合は、フルタイムや週の労働日・時間が多い家族が優先されるのは当然だと思いますが、空きがあるのに「週4日」で切られてしまうのがとても残念に思いました。
・	低学年の頃、放課後児童クラブに通いました。先生方は優しく見て下さり、信頼できる方でした。ハード面が充実するといったなあと思います。プレハブの建物にたくさんの子がいるのが気の毒でした。もっとゆったり家のようにくつろげる空間であつたら子どももより楽しく親も安心して通わせられると思います。自己負担金はあってもいいと思います。
・	放課後児童クラブで、勉強し(英語等)習うことができれば良いと思う。小学校で英語が始まるため。
・	放課後児童クラブで学校の宿題や塾的なサポートがあれば良い。仕事をしながら塾に通わせるのは難しく、放課後児童クラブの先生も宿題は自宅でチェックしてくださいと言われます。有料になってもいいので、勉強のサポートしてもらいたい。子どもを産みたくても保育園に入れるのが大変だから、産まないお母さんもいます。保育園の充実と放課後児童クラブのサービス拡大を希望します。
・	我が子が小学生になり小1の壁を感じます。保育園に預けていた時より、働きながらの子育てというのがしづらい環境にあると思います。学童の受け入れ人数や条件にもう少し融通がきくとうれしいです。

放課後児童クラブはフルタイムでないと、なかなか利用できないとよくきます。いろいろ優先順位がありますが、フルタイムで出れる人は親の支援や困ったときに助けてくれる親族がいる、実家が近くにある人も多い気がします。親元も遠く、気軽に頼れる人がいない人は、フルタイムをあきらめたり、長期休みは働くことをあきらめている人が周りにいます。優先順位がフルタイムの人でいっぱいになってしまう現状を何とかしてほしいです。子育て支援は、赤ちゃん時代には手厚すぎるくらいに感じていましたが、子どもが小学校世代にはそうでもないのかな・・・と感じます。学区にとらわれず、親の仕事の有無にかかわらず、誰もが気軽に利用できる場所(例えば「あいあいキッズ」みたいな施設)が欲しいです。

(39)児童館・放課後児童クラブ その他

【就学前児童】

小学校に上がってからのパートタイム就労での放課後のあずかり(短時間)をお願いしたい。1年生だけでもいいので、預けられるはばを広げてほしい。
放課後、児童をあずける場所などをもっと増やしてほしい。小学1年になった時は優先的に入れるが、2年生になった時あずける場所が無いとよく聞く。民間の施設は高いので、市で増やしてほしい。
未就学児は保育園や幼稚園など広く預けられる場所があると思う。保育環境もよくありがたく思っている。しかし、小学校へあがってから放課後の過ごし方に不安を感じている。周囲の人から児童館のことなどを聞くと小1の壁をどのように乗り越えていけるか、ワーキングママは皆不安を抱えていると思う。共働きが増える社会で小学校低学年の間のフォローを手厚くしてもらいたい。
共働きや家庭の事情で子どもを安心して預けられる場所、環境を充実していただけたらとても助かります。低学年の時は特に、そういった環境が必要と感じました。
現在7,5,2才の子どもがいます。おかげさまで2,5才の子どもに関しては保育施設が充実し、安心して預けられますが、小学生の放課後施設が不十分だと感じています。私は現在週3勤務の為、学童が利用できず朝から夜まで1人で留守番をさせています。(長期休暇)あとはわがままかもしれませんが職場の交流会など、夜の為全く参加できず少々社内での肩身の狭い思いをしてしまうので、時間間わずスポットで気軽に預けられる場所があればうれしいです。フルタイム(正社員)には優しいが、非正規雇用の人には恩恵が少ないと感じています。私の周囲は育児休業給付欲しさにあえて待機児童になる努力をしています。
保育園に行っているうちはまだいいが、小学校の高学年くらいから、夏休み等の長期休暇や放課後にどのように安全にすごさせればいいのかと今から不安に思っています。安全にすごすことができ、子どもたちも行きたがるような施設があればいいなと思います。

【就学児童】

放課後、宿題をみてくれたり、勉強を教えてくれる場所が欲しい(無料か安価な値段で近所に)。
平日は祖父母にお願いできるが、長い休み(夏・冬休み)は長時間になるので負担が大きくなる。留守家庭子ども会の利用も考えているが、狭い空間で、すし詰め状態、校庭などで遊ぶ時間も無い。長時間なので、子どももストレスを感じてしまうのではと預ける事送ってしまう。
パートタイム就労ですが、夏休み等の長期休暇時に、午前、午後に限らず、早朝(8時)ころからでも利用できる場所が欲しいです。長期休暇、子どもがSTAYする場所があると、とてもとても助かります。学校がある日は留守番はなんとかできますので。

9. 保健医療

(40)保健センター等

【就学前児童】

保健センターまで遠いため、歩いて行ける地域の公民館などでの子育て常設スペース、イベント等やってほしい。図書館の充実も希望する。リクエストして、公民館で受けとり返却できるサービスはとても嬉しく、利用しています。
今現在、保健福祉センターを利用しているが西区でも地域ごとにグループに分けて開いてほしい。子どもを遊ばせるために行っているが、そこで他のお母さんたちと会話をして、どんな育児をしているんだろう、どうやってしているんだろうというのを聞きたい。もっとフラットに行きたいが、グループが既にできており、なかなか溶け込めない。

【就学児童】

区役所や保健センターが遠くて(自家用車でないと不便)利用しづらいのが困る。

(41)医療・医療費

【就学前児童】

先日テレビで今年の4月から妊婦は医療費が上がる「妊婦加算」と見ました。テレビを見るまで知らなかったし、少子化対策などと言うわりにはこれから子育てでお金のかかる妊婦に全然優しくないなと思いました。もっと妊婦さんや子どもを持つ世帯に優しい制度を増やしてほしいです。医療費、学費(義務教育)無料くらいしてくれたらとてもありがたいです。
医療費の軽減を願います。子どもは何度も病院に行きます。子どもの事で心配な事があつたら気軽に病院に相談したい。
医療費は小学校入学くらいまではせめて自己負担もなしにしてほしい。
収入に応じての子ども医療の非該当、3人はきついものがある。1人が感染症になると、やはりうつったりもするので、収入に応じなくても、どんな人でも医療費はみんな一律にしてほしい。
医療費を中学校3年生までは無料にする、又は500円にするなどの手当があると嬉しいです。
乳幼児医療費助成を所得制限なしにしてほしい。同じ税金を払っているのに多く納めている人には何もしてくれないのか。
小児科、内科が近所にあれば良い。
1出産に対応してくれる病院が減っていることが心配です。助産院でも良いですし、周産期に安心してすごせるのが、子育ての一番しんどいときを(ホルモンバランスが乱れての自殺なども防げる)助けられると思います。小児科や産科のお医者様への支援も手厚くしてもらいたいです。2大人がかかれる内科が少なく苦労しています。子どもから病気をもらう事が多く、小児科でみてもらうことが難しいので内科がほしいです。
産婦人科がもう少しあれば・・・いいな。
私の住む地域には0歳から診てもらえる小児科がありません。少し遠出をしなくてはならず、兄弟をつれての病院はとても大変です。小児科専門があればとても助かると今でも思っています。

4人の子どもが「保育園」「小学校」「中学校」「高校」と通っています。(年令が離れているので)教育費と医療費にお金がかかるので、どうしても保育園に預けて働かなければなりません。(本当は家で自分が子どもを見たいのですが・・・)なので、医療費が18才まで無料になるとありがたいです。 - 病気相談のTELを何回か利用したことがある。とてもいいと思います。感謝しています。 - 小児がかかりやすい医療機関のマップがあればよいです。
- 児童手当、子ども医療費について年収制限をなくして欲しいです。特に医療費について、お金がかかるから受診を控えよう…と思うことも多く、入院した際の負担が大きく経済的に不安を感じ、子どもの体調よりもお金の心配をしてしまったことを後悔しました。子どもが大きくなったらまた働きに出たいですが、世帯年収が上がることで受けられなくなるサービスが増えてしまうと、何のために働いて税金を収めているんだろう…という気になります。子どものためのサービス・支援については全員が受けられる様になって欲しいな、と思います。(その分たくさん働きますから…。) - 医療費が月500円だったはずなのにいつのまにか1000円／1回になっていて負担が増えた。切り替えの時も病院がとまどうなど、説明も不十分なままで負担を増やすのはどうかと思う。

【就学児童】

- 子どもの医療費の補助の拡大を希望します。うちの子どもは、アレルギー体質の為、皮膚科耳鼻科に通院することが多く、医療費の負担が大きいです。せめて小学校の間は収入に関係なく補助して欲しいです。 - 医療費の所得制限をなくして、小中学生の医療費無料化希望。 - 子どもの医療費を中学校卒業くらいまでは無料にしてもらえたらとても助かり、また病院に連れて行きやすくなります。実際、医療費が3割負担になってから少しくらいは様子を見ようと病院に連れて行く回数が減りました。 - アレルギーがあるので、毎月病院へ行き、薬をもらっています。こども医療費受給を義務教育の間は続けてほしいです。 - 乳児医療費補助は所得制限に関わらず、500円にして欲しい。補助がなくなると、子どもの通院をためらう事がある。何度も0円で通える人達との差別を感じる。

(42)保健医療 その他

【就学前児童】

- インフルエンザワクチンの助成をしてほしい。子ども3人×2回で約20,000円毎年かかる。安いところも探せばあるが、車が平日中ないので行けるところにも限界が。子どもの為にはしてあげたいと思うが、正直きついです。 1歳6ヶ月健診や3歳健診のような任意ではなく必ず受けなければいけない健診の回数を増やしてほしいです。小児科での任意の健診は費用も高く予約も取りづらいです。特に1歳6ヶ月～3歳健診までの間は、子どもの発達について思い悩むことが多かったです。 - 定期検診の時に、これがまだ出来ていないとかになると大丈夫かな？と不安になるのでそれぞれの子どもに合った対応をして欲しいです。何歳はこれが出来ますでなくて、この年齢にはこんな遊びや運動を取り入れるといいです、こんな発達につながっていると実感できるものが分かるといいです。問38は理想的なことが出来ない自分はいけないんじゃないかと思ってしまいます。答えが6の方はたくさんいるのでしょうか？大きな声や少し手が出たりしないのが普通ですか？ 1歳半から3歳まで市町村での健診がないので、2歳児健診も市町村で行われると、同月生まれの子どもの様子をみたり、他のお母さんたちと話をすることもできるし、保健師さんたちに話も聞いていただきやすいと思います。 - 任意の予防接種をなくし、全てを定期接種にして負担をなくしてほしい。 - 子どもの体調などについて、小児科に行くほどでない際に、気軽に相談できる場所があればいいと思う。ちょっとしたことでその都度小児科に行くのも抵抗がある。公民館での定期的な「健康相談室」は、近所の公民館での開催頻度が3ヶ月に1回なので少ない。

【就学児童】

- 兄弟が多い場合インフルエンザなど出費が大きい。 - 予防接種をすべて無料にもらえたらありがたいです！！健診等も無料になると助かります。 - 学校でインフルエンザ接種をするようにしてほしい。 - こども療育センターを時々利用しますが、予約が取れません。もう少し改善していただけると嬉しいです。
--

10. 家庭生活

(43)家庭・生活

【就学前児童】

- やはり子育て、家事は母親メイン。それで更に仕事も…となると、家をキープすることができない。その被害を受けるのは、子ども。未来を作る子たちを、できるだけ良い環境で育てたいので、父親も、誰でも残業せずに帰って、家庭を楽しめる社会づくりが必要。何か変化を！！よろしくお願いします。 - 保育園の充実も大切だと思いますが、それより、3歳までは、母子が一緒に過ごせるようにできるような環境・援助も大切なのでは…と思います。心が不安定な子ども、事件を起こす若者が増えるのは、母子関係の希薄さも関わってくるのでは…と感じます。 - 日本は核家族化がすすみすぎ、もっと家族を大切にする教育が必要だと思う。
--

【就学児童】

- 子どもはもう大きくなって下は小6なので子育てというより、もうそんなには気にしていないが、小さい時は不安もあったと思う。子どもは家庭環境が一番影響すると思う。夫婦で助け合って子育てできる世の中になったらいい。 - 今は昔と比べ、共働き家庭が多く、親も毎日忙しく、子どもと向き合う時間が減っている気がします。自分の事で精一杯で、子どもの様子が把握できない親が増えている気がします。不登校の中学生はクラスに2～3人もいるらしいです。家庭環境だけが問題ではないと思いますが、そんな子どもに適切なカウンセラーを紹介してくれる機関や、家庭と連携できる機関を学校から紹介してくれると助かるのでは、と考えます。 - 家庭において、子の父母がともに積極的に子育てに関わるような意識形成の充実。仕事よりも子どもへの関わりが人生において、一番大切だという意識啓発。

(44)家庭生活 その他

【就学前児童】

・	習い事をいろいろしてみたいのですが、曜日・時間・費用などでできない事が多いです。ピアノ、ダンス(体操やリトミック)、水泳など年少くらいから安い料金や土・日で参加できる施設があるとたすかります。
・	もう使わないおもちゃ、服を引き取ってくれる所があれば教えてほしい。
・	子どもの服や物等いらなくなった物等、あげたり、貰ったり出来るシステムや場所が欲しい。

【就学児童】

・	もっと親子で触れ合える、向き合える時間がほしい。子どもが小さい時は大変なもの分かるが、保育園に預けすぎ。自分の休みの時は、子どもとしっかり向き合って欲しい。3才までの大切なかわいい時期を預けっぱなしではもったいない。こんな時期は今しかない事を知って欲しい。家で子どもと居ることが苦痛・・・とよく聞く。だから預けよう・・・ではなく、だから親子でリフレッシュできる所へ行こう。となる所を作ってほしい。
・	家事代行サービス等、頼りたいがなかなか勇気が出ない。少しでも負担が減るよう、簡単に関わられるようにしてほしい。

11. 地域コミュニティ

(45)地域支援

【就学前児童】

・	育児は基本的に親が責任をもって行うものだと思います。しかし、子の成長・発達を考えるうえで様々な体験をさせたいと思う反面、今の世の中は「チャレンジ」させるには安全面や社会規範などの制約が大変多いと感じています。安心してチャレンジできる住民の温い目での身守りや地域を希みます。
・	もっと気軽にヘルパーさんを利用できる環境にあると仕事と家事・育児を余裕を持ってこなせる事が出来ると思う。近所にお住まいの日中働いてない方々の協力を得られるような環境作りを望みます。
・	子どもを連れて歩いていると、温かく見守ってくださる方々もいれば、少し泣くだけで冷たい目で見てる人もいます。自分達子どもがの頃と比べて育てにくいと感じることが増えています。これからは子ども達を育てやすい環境づくりを宜しくお願いします。

【就学児童】

・	地域の皆さんが子どもの見守りなど積極的にしていただいているので安心して仕事に行けています。地域全体で子どもを育てることができるよう行政と住民が協力できることを望みます。
・	空き地などで遊んでいると、高齢者から「うるさい」と注意を受けます。学校の校庭開放もなく、子どもは気を使いながら家内でゲームをしている状況です。これで、日本の未来は大丈夫なのだろうかと不安になります。色々な人とかがかわることができる地域づくりをしてほしいです。学校だけでは限界があります。
・	子どもの小学校、中学校の登下校の際、地域のボランティアの方が雨の日も寒い日も立って見守りして下さっています。毎日なので、本当にすごいと思います。とてもありがたいと思います。
・	夏休みのラジオ体操やお祭り、催し物等、地域のお年寄りの方たちが一生懸命、子ども達が楽しめるようにと開催していただいて、とてもうれしく思っています。働く親としては、子どもにいろいろしてあげたいという気持ちはありますが、本当に時間がありません。地域の方が企画・運営して下さることに感謝しております。
・	シルバー世代で体を動かさせたり、人と話すことが苦にならない方々へ、放課後児童たちへコミュニケーションをとってもら。例えば一緒にお菓子(おやつ)を作ったり、大工仕事をやってみたり、ボランティアで活動はしていただいても介護保険のポイントに加算されるような仕組み。また地域の大学生や若い方々に、宿題やスポーツなど教えてもらう(放課後じどうだけではなく、土日などにも)教えてくださるボランティアの方々には、学食無料券などを配布する仕組み。

(46)交流

【就学前児童】

・	他の場所と比べるとようになりますが…子どもが1人目、2人目の時は東京に住んでいました。その場所では近くにいくつも子育てセンターがあり利用しやすかったし色々相談もでき良かったのですが、広島へ戻って来たら近くに子育てセンターが無く、3人目を出産後とても不安でした。(実家は広島県内ですが遠いので)もっと赤ちゃんママさんがつどえる場が近くにあれば良いと思いました。
・	世間から孤立して1人で子育てで悩んでいる母親も多いのかなと経験から思いました。夫の自分も仕事をする中で、なるべく家事・育児参加をしましたが、妻にとってはやはり厳しい生活だったようです。夫が埋めることができない部分として、母親同士のつながりや世間とのつながりがあれば、自分(夫)に言えない不満や不安の相談ができと思いますが、そうした孤立しがちで自分でなかなか出ていけない母親への支援というか、声かけについて、行政に期待をしています。
・	子育てについて話せる赤ちゃん連れカフェみたいなのを不定期でもいいので開いてみても良いかも。誰かと話す機会がほしいです。(大人同士で話したい)

【就学児童】

・	地域交流がもっと広がると良いと思います。私の周囲は近所の年ばいの方との交流があり、安心して子どもを外に出せる環境ですが、まだまだ他の方に聞くとこういう状態はまれなのだと思います。同年代の交流だけでなく、これから増えるシルバー人材の活用をとり入れるともっと地域交流も広がると思います。
・	転勤族のため、親子共々気楽にさそいあえる友人が周りにいない。そういう人達のためのサークルなどがあればいいなあと思う。
・	小学生向けに高校や大学などオープンキャンパスを開催してほしい。先の人生の目標や進路を考える機会にもなるし、それだけ年の離れた人たちと日頃交流する機会がないため。

(47)地域コミュニティ その他

【就学前児童】

・	子連れでのイベントを企画してほしい。ママのためのクッキング教室を開催してほしい。その際、子どもは託児ありでボランティアの方をお願いして、ママはリフレッシュもかねて一人でクッキングを楽しみたい。
---	--

【就学児童】

学校のボランティアへの参加、子ども会への加入など、親同士、子ども同士のつながりがなくなっている。一部の人への負担が大きくなっていて、楽しいというより、つらいというものになってきているのがさびしいです。
--

12. その他

(48)その他

【就学前児童】

子ども達の心が豊かになるような世の中になってほしいです。差別のない世の中を願っています。
たくさんの支援や環境の整備がなされていて、ありがたいことだと、子育てをするようになって気付けたことが多くありました。実際、悩みが家庭の中にあると相談をしに行くことは難しいものだ実感しました。サポートのためにかけてくださった声に、傷付くことがあったのも事実です。理想的な育児環境が多く指導され、参考にもなるし、かけ離れていると悩むことも多い現状です。何より、子どもを無事に育てたいというのが一番の願いです。
女性の社会進出と言われているが、個人的には、世帯収入が低いから働かざるをえない！仕事もフルタイムで働いて、育児もこなして、本当はもっと近くで我が子の“はじめて”の成長を見守ってやりたい。でも現実には笑う我が子のそばで、育児休業中も生活費の心配で頭が痛くて、復帰も早くしないと必死でした。世のお母さんも案外そうに感じている人が多いのではと思います。格差社会、本当どうにかなってほしい！

【就学児童】

近年、幼児虐待が多く胸が痛みます。決して起こらない様、事前に把握し、防いでもらいたいと思います。大変でしょうが、未来ある子どもの命はかけがえありません。
もっと子どもと一緒に居る時間が欲しいけど、育てていくにはお金がかかり働かなくては行けない。給料は上がらないのに物価ばかり上がり苦しい。もっと生きていきやすい社会になってほしいです。
このような調査を行うことで、何か新しい取り組みが始まるかも・・・と、とても期待します。未来を創る子ども達が健やかに成長できる事を望みます。
今の生活(パートして、子ども達の宿題みたり、家事したり)が精一杯で教育、保育、環境についてよく考えてみた事がなかったの、これを機会にもっと子どもの事について考えてみようと思いました。この生活に慣れ、子どもも成長するにつれて、少し余裕(物事の考えの)がでてくると思うので、もっと周りを見て、色々な事を情報を知っていかないといけないと思いました。ありがとうございました。

